
目 次

卷頭言 粘菌 (Slime mold) と組織論	片山 一朗
皮膚科	1
2013年 教室員紹介業績	4
原著 (英文・和文)	27
総説 (英文・和文)	31
監修・編集・著書	34
特別講演	37
座長 (国内学会)	38
学会発表 (国際学会・国内学会・研究会)	42
報告書	50
受賞	52
その他	53
皮膚・毛髪再生医学寄附講座教室員紹介	54
再生誘導医学寄附講座教室員紹介	61
関連病院施設紹介	63
関連病院業績	87

粘菌 (Slime mold) と組織論

大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科 教授
片山一朗



私が大阪大学医学部に着任して今年の3月1日で10年が経過し、11年目を迎えることができました。おかげさまで、多くの医局員や秘書さん、技術員のかたがたの献身的なサポートで、より活力のある、そして多くの情報を世界に発信できる皮膚科学教室に育ってきました。年報も十巻目となり第一巻と比較しますと、その質・量や他施設との共同研究など驚くほどの変貌が見られます。次のステージに向けて教室員や同門の先生が各人のやりたいことをさらに進めて頂ければ、10年後はまた別の素晴らしい年報が我々の眼前に現れてくるかと思います。

粘菌 (Slime mold) は和歌山県が生んだ南方熊楠の研究で有名な植物と動物両方の性質をもつ、非常にしたたかな生活様式をもつユニークな生き物です。「他の星からこの地球に、落ちてきた生物の原型ではないかと」言う生命学者もいます。熊楠は生涯で Nature に 50 編の論文を発表し、現在でもその記録は破られていないそうですが、そのうちの 2 編が粘菌に関する研究です。彼はまた「東洋の星座」、「宵の明星と暁の明星」など神秘的な題名の論文も Nature に投稿しています。粘菌は適当な条件下で発芽してアーベバ状の細胞となり、周囲の餌（大腸菌などのバクテリア）あるいは栄養豊富な培養液を取り込みながら増殖します。湿度、温度、日照などの周囲環境の変化や栄養源が枯渇して飢餓状態になると、単細胞はやがて集合して多細胞体を構築し、分化・パターン形成の方向に移行します（マウンド、スラッグ）。そして環境が改善するとまた元の個々の生命体に戻っていきます。このような粘菌の行動パターンは私が理想とする組織像に重なります。私自身は教室員の個性を大事にし、自分のやりたいことを自由にやってもらうように指導しています。そして教室に危機が迫った時や何か大きなミッションを命ぜられた時などには、個々の医局員が少しづつ機能的なユニットを形成し、最終的には粘菌のマウンドあるいはスラッグとよばれる巨大な集合体を作り、正しい方向性を決定することで、危機を免れ、あるいは目的を達成し、その後は個々の構成員に戻り、また個性的な生活を始めます。この巨大化した組織のヘッドは決して私ではなく、構成員がそれぞれ精神的な繋がりを持つことで生まれた新たな精神・生命体とも言うべきものかと思います。私の目指す大阪大学皮膚科はまさにこのような生命体であり、この10年間でその形が見えてきました。今後また次の10年でどう育っていくか楽しみです。粘菌の行動様式は都市交通や上下水道の設計にも応用されていますが、私自身、このような未知の生命体の行動様式に強く魅かれます。そのような流れの中で私は人間の持つ、5感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）の皮膚での支配原理を知りたいと思うようになりました。5感をセンシングする分子がすべて皮膚に存在し、皮膚が人間の感覚や存在を規定しているのではないかということで、すでにロドプシン、TRP など視覚、嗅覚、味覚などのセンサーの皮膚細胞での存在が明らかにされつつあります。皮膚という臓器の重要さ、をさらに知り、その異常を是正し、若さを保つ作業の重要性を認識しながら、さらに皮膚科医としての研鑽を積んでいきたいと考えております。この10年間のご支援、ご助言に対し心より御礼を申し上げます。

教室構成

名 誉 教 授	佐野榮春	吉川邦彦			
教 授	片山一朗				
准 教 授					
講 師	金田眞理	室田浩之			
助 教	谷 守	小豆澤宏明	種村 篤	山岡俊文	田中 文
	吉岡華子				
医 員	高橋 彩	村上有香子	荒瀬規子		
特 任 助 教	林 美沙				
研 修 医	小紫雄貴	廣畠彩希	橋本典子	藤盛裕梨	
大学院(博士)	原田 潤	西岡めぐみ	松井佐起	越智沙織	田原真由子
	永田尚子	山賀康右	神谷 智	加藤健一	小野慧美
	山田瑞穂	木嶋晶子			
大学院(修士)	油谷美寿季				
特任研究員(常勤)	寺尾美香				
特 任 研 究 員	田中まり	楊 伶俐	楊 飛		
技 官	西田健樹				
事 務 補 佐 員	二上知子	光山久実子	杉山良子	杉浦舞子	荒木富子
	藤 蘭婷				
技 術 補 佐 員	延吉絵里子	藤井由美子	松村智加		

非常勤講師	西岡 清	浅田秀夫			
招 聘 教 員	片岡葉子	土居敏明	東山真里	調 裕次	田所丈嗣
	衣笠哲雄	羽白 誠	八幡陽子	佐野栄紀	吉良正浩
	樽谷勝仁				
臨 床 教 授	東山真里	田所丈嗣	調 裕次	園田早苗	吉良正浩
臨 床 准 教 授					
学部内講師	谷 守	種村 篤	小豆澤宏明	山岡俊文	

医 局 長	種村 篤
病 棟 医 長	小豆澤宏明
外 来 医 長	谷 守

皮膚・毛髪再生医学寄附講座

教 授	板見 智	
准 教 授	乾 重樹	
助 教	野口史人	
技 術 補 佐 員	佐藤彩子	金井度雄

再生誘導医学寄附講座

教 授	玉井克人
-----	------

皮膚科

1. スタッフ

科長（兼）教授 片山 一朗

講師2名、助教6名、特任助教（常勤）1名、医員7名、特任研究員4名、大学院生12名、臨床登録医1名、技術職員1名、技術補佐員3名、事務補佐員6名

寄附講座教授2名

寄附講座准教授1名、寄附講座助教1名

技術補佐員2名

2. 診療内容

皮膚科全般を対象としているが、特にアトピー性皮膚炎、膠原病、蕁瘍、自己免疫水疱症などのアレルギー性疾患を中心に菌状息肉症、皮膚潰瘍、乾癬、脱毛症、白斑などの疾患や結節性硬化症、先天性角化異常症及び先天性表皮水疱症などの遺伝性皮膚疾患に対応し、きめ細やか、かつ専門的・先進的医療を提供している。

アトピー性皮膚炎の場合、専門外来での外来診療のみならず、皮疹悪化の原因の究明と患者の教育のために短期間の入院治療も行っている。また、関連病院間で病診連携を開始し、当科は大阪を中心としたアトピー性皮膚炎の拠点病院となっている。

膠原病の中でも特に強皮症、シェーグレン症候群の病態解明とその治療、その他の膠原病の診断とステロイドや免疫抑制剤を用いた治療を行っている。

尋常性乾癬と尋常性白斑の治療で、近年 Nallow-band UVB 療法という波長 311nm の光線を選択的に当てられる装置による光線療法が従来の UVA,UVB を用いた光線療法と比べて有効であるという報告があり、当科でも現在この Nallow-band UVB を半身に照射できる装置と波長 308nm のエキシマランプを用いた治療を行っているとともに、尋常性乾癬の難治例には生物製剤や免疫抑制剤による治療、尋常性白斑の治療としてビタミン D3 療法や吸引水疱蓋による皮膚移植、ミニグラフトも行っている。

菌状息肉症、皮膚リンパ腫の場合、そのステージに応じて治療を行っており、初期のステージでは上述の Nallow-band UVB 療法を含んだ光線療法を外来で行っており、ステージが進んでくると入院の上光線療法と化学療法を組み合わせて行っており、治療成績の向上に役立っている。さらに、臨床治験も多く、積極的に行っている。

円形脱毛症の治療として外来で DPCP を用いた感作療法を行っている。また FACS を用いた in vitro

のアレルギー検査も行っている。

皮膚悪性腫瘍の場合、外科的治療、放射線療法、化学療法など一連の治療を、包括的集学的に行っており、進行期症例も臨床研究、治験含めて扱っている。

蕁瘍の場合は入院の上その原因究明を行い、蕁瘍カードを発行している。

尋常性天疱瘡や水疱性類天疱瘡などの水疱症の治療は、重症の場合、入院の上ステロイド大量内服療法、パルス療法、免疫抑制剤による治療、血漿交換療法、ガンマグロブリン大量療法などを症例にあわせて行っている。

各種皮膚潰瘍の診断及び植皮術等を含めた治療を行っている。

遺伝性皮膚疾患、特に先天性表皮水疱症、結節性硬化症においては他大学と共同でその原因遺伝子の検索を行っている。

これら専門疾患に対する臨床研究の詳細に及びスタッフの紹介については、随時皮膚科ホームページに掲載している。

※現在、皮膚科ホームページの改訂を随時行っており、学会レポ、医局員によるコラムなどを新たに掲載している。また関連研究会議日程もアップデートしている。

3. 診療体制

1) 外来診察スケジュール

	月	火	水	木	金
1 診 (初診)	初診	初診	初診	初診	初診
3 診	再診	再診	専門 蕁瘍 水疱症	専門 乾癬	専門 乾癬
4 診	再診	専門 乾癬	専門 白斑・腫瘍	再診	専門 遺伝病
5 診	再診	再診	専門 膠原病	再診	専門 乾癬
6 診	専門 リンパ腫		再診		専門 乾癬
7 診	専門 腫瘍				専門 フットケア
午後	専門 アトピー	専門 膠原病 パッチ テスト	専門 脱毛症 回診 検討会	専門 遺伝病 特殊外来 ※褥瘡	専門

※褥瘡は院内ののみ

2) 検査スケジュール

パッチテスト（火曜）

光線テスト（随時）

皮膚生検（随時）
サーモグラフィー（随時）
発汗テスト（月曜）
下肢静脈エコー（金曜）
腫瘍、関節エコー（随時）

3) 病棟体制

・病棟スケジュール（平成25年）

月	火	水	
皮膚科勉強会 病棟カンファレンス	手術	教授回診 病棟カンファレンス 皮膚科勉強会	
木	金		
病棟業務	病棟業務 病棟カンファレンス		

- 病棟は西8階で定床は12床、東8階で5床、西10階で2床、合計で19床である。
- 病棟医長1名、副病棟医長・皮膚外科手術担当1名、病棟担当医6~8名、スーパーローテート1~2名で診療に当たっている。

4. 診療実績

1) 外来診療実績

外来患者数（平成25年）	
初診	1,694名
再診	25,549名
外来患者延べ数	27,243名

2) 入院診療実績

入院患者数（平成25年）	
新入院	290名
退院	294名
入院患者延べ数	5,721名

主要疾患入院患者数（平成25年）

皮膚悪性腫瘍	94
アトピー性皮膚炎、湿疹群	18
膠原病	17
乾癬	13
皮膚潰瘍、血管性病変	10
尋常性白斑	14
薬剤アレルギー、食物アレルギー	17
遺伝性疾患	16
重症蕁瘍	7
感染症	10
自己免疫性水疱症	9

リンパ腫	20
皮膚良性腫瘍	7
発汗異常	7
円形脱毛症	4

3) 検査手術件数（外来+入院）

	件数
パッチテスト	190
病理組織検査	1,375
手術	239
蛍光抗体法 免疫染色法	381

5. その他

〔認定施設〕

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本アレルギー学会認定教育施設

〔専門医数〕

皮膚科専門医	14名
日本アレルギー学会指導医	3名
日本アレルギー学会専門医	4名
がん治療認定医	2名

〔臨床研究〕

尋常性乾癬に対する活性型ビタミンD₃外用剤とステロイド外用剤併用による有用性に関する臨床的検討

アンケートを用いた感染患者に対するQOL評価と治療満足度調査

慢性蕁瘍に対する抗ヒスタミン薬のかゆみに対する効果とQOLによる評価

アトピー性皮膚炎を持つ人たちへのよりよい治療を探る—満足度を指標として

皮膚潰瘍に対するLipo PGE1の効果と炎症マーカーの相関に関する研究

皮膚潰瘍に対する抗トロンビン薬の改善効果の検討

ステロイド骨粗鬆症に対するリセドロン酸ナトリウムの効果の検討

結節性硬化症の皮膚病変に対するラバマイシンの局所外用療法の開発

皮膚悪性腫瘍に対する抗癌剤治療における恶心・嘔吐の調査とアプレピタントによる恶心・嘔吐の

改善効果の検討

炎症関連疾患でのペリオスチンを含む蛋白質の機能解析

尋常性白斑に対する308-MEL治療におけるビタミンD₃外用剤の併用効果の確認

アレルギー性皮膚疾患でみられる症状、生理機能異常がQOLに与える影響

アトピー性皮膚炎におけるネオーラルの至適投与法および至適投与患者の探索

アトピー性皮膚炎および乾癬の病態と生活習慣病因子の関連

慢性蕁麻疹における血小板の活性化と病勢マーカーへの応用へ向けた症例集積研究

アトピー性皮膚炎に対する抗炎症外用薬によるプロアクティブ療法（ベタメタゾン酪酸エステルプロピオニ酸エステルまたはタクロリムス軟膏）における有用性に関するランダム化比較試験

慢性蕁麻疹患者に対する十味敗毒湯の併用効果—ランダム化比較試験による検討—

アレルギー疾患の経年変化とその背景因子の横断的調査

乾癬でみられる症状が生活の質および労働能率に与える影響

ヒスタミンが発汗に与える影響

結節性痒疹治療における保湿薬併用の有用性に関する臨床研究

ドライスキンに対するコレステロールエステル製剤外用の有用性を検討するランダム化比較試験

フラボノイド摂取によるアレルギー疾患に対する補完代替療法—酵素処理イソケルシトリンのアトピー性皮膚炎に対する治療効果のランダム化比較試験

食物アレルギー（口腔アレルギー症候群）に対するアンケート調査

化粧液皮膚被覆シートの肌への浸透力に関する研究

大型エキシマライト照射機器によるアトピー性皮膚炎・痒疹治療の効果検討

皮膚疾患の病態とその治療における汗の質の関与に関する検討

皮膚疾患のホメオスタシスに関する免疫組織学的評価

ホームページアドレス

<http://derma.med.osaka-u.ac.jp>

教室員紹介

大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻
情報統合医学講座皮膚科学教室

氏 役	名 職	片山 一朗 教授	
学会関係役員		東京医科歯科大学非常勤講師 日本研究皮膚科学会評議員（1990～） 日本アレルギー学会評議員（1994～） 日本アレルギー学会試験委員（2001～2005） 日本皮膚科学会代議員（1996～） 日本乾癬学会評議員（1996～） アトピー性皮膚炎治療研究会世話人（1996～） 皮膚科膠原病研究会世話人（1996～） 日本研究皮膚科学会理事（1997～2002, 2003～2008） 日本悪性腫瘍学会評議員（1997～） 日本結合織学会評議員（2002～） 日本皮膚アレルギー学会理事（2002～） 日本接触皮膚炎学会理事（2004～） 日本アレルギー協会関西支部幹事（2004～） Environmental Dermatology: Editor in Chief（2004～） J Dermatological Science Editorial Board（2004～） 日本皮膚アレルギー学会雑誌 編集長（2004～） 日本皮膚科学会大阪地方会運営委員（2004～） 日本皮膚科学会大阪地方会会长（2005～） 日本アレルギー学会雑誌委員（2005～2007） 日本アレルギー学会学術委員（2005～2007） 日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎GL専門部会ワーキンググループ委員（2005～2007） 日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎GL専門部会ワーキンググループ委員長（2008～） 日本皮膚科学会理事（2006～） 日本アレルギー協会理事（2006～2008） 日本アレルギー協会研修委員（2006～2008） 日本臨床皮膚科学会近畿支部理事（2006～） 日本発汗学会理事（2006～2012） 日本色素細胞学会理事（2011～2013） 日本アレルギー学会理事（2007～2009） 日本アレルギー学会常務理事（2010～2015） 日本研究皮膚科学会監事（2011～2013） 日本アレルギー学会学術賞選考委員（2012～2013） 日本医師会 学術企画委員（2012～2014） 日本接触皮膚炎学会・皮膚アレルギー学会理事長（2013～2015） 皮膚・脈管膠原病代表世話人（2013～） International federation of society of Itch (IFSI) Board Member（2013～2017） 日本学術振興会：科学研究員会専門委員（2010～2011） 医道審議会委員 労働者健康福祉機構 業績評価委員（2009～2012） 病院運営委員会委員 産学協同問題委員会委員	
県、国行政			
大学、病院の 運営委員			

医 学 部	先進医療審査会委員	
	病院機能評価受審対策ワーキング委員 (2010~)	
	大阪大学医師会副会長 (2010~)	
	感覚・皮膚・運動系科長 (2010.4.1~2012.3.31)	
	医学部附属病院評価委員会 (2010.4.1~2012.3.31)	
	医学部倫理委員会委員 H16.10.9~ H21.10.8	
	医学部倫理委員会小委員会委員長 2009~	
	中期目標ワーキング委員 H16. 8.1	
	編入試験委員 H16.4~8	
	医学科教育センター委員会委員 H17.4.1~ H21.3.31	
省 庁 研 究 班 「 厚 労 省 」	国際交流委員会委員 H17.4.1~ H19.3.31	
	共同研究実習センター運営委員会委員 H17.4.1~ H21.3.31	
	後期試験委員 H17.4~8	
	付属図書館生命科学分館運営委員 (H18年4月~22年3月)	
	サイバーメディア運営委員 (H18.4.1~ H22.3.31)	
	後期試験面接委員 H22~23	
	前期試験連絡委員 H21~24	
	アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究班 班長 (H23.4.1~ H26.3.31)	
	癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床治験による実用化開発班 班長 (H24.4.1~ H27.3.31)	
	結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化班 班員 (H24.4.1~ H27.3.31)	
外 来 関 係	神経皮膚症候群に関する調査研究班 班員 (H23.4.1~ H26.3.31)	
	アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発班 班員 (H24.4.1~ H27.3.31)	
	特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究班 班員 (H24.4.1~ H26.3.31)	
	重症型扁平苔癬の病態解析及び診断基準・治療指針の確立班 班員 (H25.4.1~ H26.3.31)	
	表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究班 班員 (H24.4.1~ H27.3.31)	
	重症蕩疹の病態解明および発症予測、重症度予測マーカーの検索班 班員 (H24.4.1~ H27.3.31)	
	生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定班 班員 (H24.4.1~ H27.3.31)	
	初診 週1回 1月~12月 (ポリクリ 4~7月)	
	膠原病外来 週1回 1月~12月	
	アトピー性皮膚炎外来 週1回 1月~12月	
病 棟 関 係 学 生 講 義 業 績	教授回診 週1回	
	皮膚科学 2時間	
	英文論文 (含む著書, 総説, 他) 21件	
	邦文論文 4件	
	邦文総説 16件	
	邦文著書 12件	
	特別講演 13件	
	ラジオ等	
	揚 伶俐 Periostin facilitates skin sclerosis via PI3/AKT dependent mechanism in a mouse model of scleroderma. PLoS One 2012 7:e41994 1-11	
	田中まり First left-right comparative study of topical rapamycin vs. vehicle for facial	
学 位 授 与		

博士論文審査

angiofibromas in patients with tuberous sclerosis complex.
Br J Dermatol. 2013 Dec; 169(6):1314-8
野口史人 Hic-5 affects proliferation, migration, and invasion of B-16 murine melanoma cells
PCMR 25. 773-782 2012
三浦智絵 Tretinoin cyclodextrin complex (RA/CyD) causes less irritation with an equal
antiwrinkle effect compared with conventional tretinoin: clinical and histologic studies of
photoaged skin. Aesthetic Plast Surg. 2012 Aug; 36(4):971-81

修士論文審査

論文査読

嶽肩 誠 遺伝子治療学教室
ウイルスタンパク質が exosome に与える影響についての検討
日本医師会雑誌 1件
Allergology International 1件
J Dermatol 3件
J Dermatol Science 2件
日本発汗学会雑誌 1件
Modern rheumatology 1
Euroepean Acad Dermatol 1
J Eur Acad Dermatio Venerol 2
PLo Sone
Clin Exp Immuno 1件
Yonsei Medical J 1件
J Invest Dermatol 3件
PCMR 1件
BMC Complementary and Alternative Medicine manuscript 1件

開催学会、
セミナー、
研究会

- 2013.1.19 第9回 大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN)
 1. 片山一朗 (大阪大学 皮膚科学 教授) :「アトピー性皮膚炎皮膚炎の
ステロイド外用療法」
 2. 照井 正 (日本大学 皮膚科 教授) :「バリア病としてのアトピー性
皮膚炎を考える」
- 2013.1.25-26 第36回 皮膚脈管膠原病研究会
 1. 川上民裕 (聖マリアンナ医科大学皮膚科 准教授) :「皮膚科医の治療
を含めた血管炎へのアプローチ」
 2. 正木康史 (金沢医科大学 臨床准教授) :「シェーグレン症候群と
IgG4 関連疾患～類似点と相違点」
 3. 高 静花 (大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学 (眼科学)
助教) :「ドライアイの診断と治療 update」
 4. 室田浩之 (大阪大学皮膚科 講師) :「潰瘍を伴う網状皮斑の病態：温
度と末梢循環障害」
 5. 山本俊幸 (福島県立医科大学皮膚科 教授) :「炎症性腸疾患に合併す
る腸管外症状としての皮膚病変」
 6. 伊藤裕章 (錦秀会インフュージョンクリニック 院長) :「炎症性腸疾
患の診断と治療」
- 2013.1.26 大阪アレルギーセミナー
 1. 谷内一彦 (東北大学大学院医学系研究科 機能薬理学分野 教授) :
「抗ヒスタミン薬の正しい理解とその使用法について～薬理学的視点
にたったアプローチ」
 2. 片山一朗 (大阪大学大学院医学研究科 皮膚科学講座 教授) :「花粉
症と皮膚のアレルギー」
- 2013.2.1 第7回 大阪 EBM ネットワーク研究会
 海老沢元宏 (国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾
患研究部長) :「食物アレルギーの最新の対応」

- 2013.2.23 第28回近畿MMC研究会
 宇谷厚志（長崎大学大学院医歯学総合研究科皮膚病態学分野教授）：「強皮症の皮膚潰瘍治療」
 尾崎承一（聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科教授）：「血管炎の最新の名称と定義—CHCC2012」
- 2013.2.21 Dermatology Kampo Seminar
 1. 田宮久誌（大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学 講師）：「加齢皮膚医学における漢方療法～老人性乾皮症に対する当帰飲子の作用機序解明の試み～」
 2. 本間行彦（北海道大学名誉教授）「漢方診療の現場から」
- 2013.3.9 第9回大阪大学皮膚科関連病院臨床検討会
 西山茂夫（北里大学 名誉教授）：「紅斑症」
- 2013.3.30 第11回関西皮膚疾患談話会
 1. 横関博雄（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野教授）：「掌蹠に発症する難治性皮膚病変（掌蹠膿疱症を含む）の病態と治療」
 2. 照井 正（日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 教授）：「掌蹠膿疱症に関する最近の話題：タバコとビタミン D₃」
- 2013.4.11 第9回皮膚免疫疾患研究会
 1. 尾藤利憲（神戸大学皮膚科学教室 講師）：「シクロスボリン間欠内服治療による慢性光線性皮膚症の長期経過について」
 2. 石井 健（大阪大学大学院医学系研究科予防環境医学専攻 免疫・感染制御学講座教授）：「ワクチン、アジュバント開発研究の新展開」
- 2013.4.20 第14回大阪皮膚疾患談話会
 江川清文（北里大学客員教授）：「疣贅の病態と治療」
- 2013.5.24 第8回皮膚疾患Update
 1. 藤本 学（金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科学 准教授）：「皮膚筋炎の自己抗体 UPDATE」
 2. 鶴田大輔（大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学 教授）：「類天疱瘡の基礎と臨床」
- 2013.6.1 第8回北摂皮膚科病診連携の会
 1. 横見明典（市立豊中病院皮膚科 部長）：「市立豊中病院のご紹介」
 2. 谷 守（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学講座 助教）：「大阪大学医学部附属病院にご紹介いただいた症例について」
- 2013.6.6 第6回関西皮膚科Biologics研究会
 1. 山岡俊文（大阪大学 医学部皮膚科）：「乾癬で見られる症状がQOL、労働能率に与える影響」
 2. 立石千晴（大阪市立大学皮膚科病院講師）：「生物学的製剤の增量により爪症状が改善した乾癬性関節炎の一例」
 3. 西坂文章（近畿大学整形外科講師）：「乾癬性関節炎に対する分子標的治療について」
 4. 岡元祐之（関西医科大学皮膚科教授）：「生物学的製剤による乾癬治療のすすめ」
- 2013.6.11 教室セミナー
 平川聰史（浜松医大皮膚科准教授）：「光技術：浜松医大の研究トピック」
- 2013.6.18 教室セミナー
 Professor Thomas N. Darling (University of the Health Sciences in Bethesda)
 「Molecular and Genetic Basis for Tumorigenesis in Tuberous Sclerosis Complex」
- 2013.6.20 第5回近畿ヘルペス感染症研究会学術講演会
 1. 澤田明久（大阪府立母子総合医療センター血液腫瘍科 副部長）：「造

- 血幹細胞移植とウイルス感染症」
2. 木村 宏（名古屋大学大学院医学系研究科ウイルス学 教授）：「免疫不全状態におけるヘルペスウイルス感染症」
 3. 岩月 啓氏（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学 教授）：「種痘様水疱症と蚊刺過敏症のEBウイルス感染リンパ球サブセットと予後を左右する再活性化シグナルについて」
- 2013.6.21 第5回 関西皮膚自己免疫疾患懇談会
北島康夫（社会医療法人厚生会木沢記念病院 病院長・岐阜大学 名誉教授（皮膚科））：「自己免疫水疱症機序と治療の実際」
- 2013.6.22 第18回 ギンナン皮膚科談話会
片桐一元（獨協医科大学越谷病院皮膚科 教授）：「搔痒性皮膚疾患の病態と治療：アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、痒疹など」
- 2013.8.4 第5回 センターリサーチセミナー
 1. 游 理恵、横関博雄（東京医科歯科大学大学院 皮膚科学分野）：「蛋白抗原の経皮感作によるアナフィラキシー反応モデルマウスの樹立並びに機序の解明」
 2. 大橋威信、山本俊幸（福島県立医科大学 医学部 皮膚科学講座）：「ブレオマイシン誘導性強皮症モデルマウスにおけるLPA阻害薬の効果についての検討について」
 3. 高石樹朗、樽谷勝仁、佐野栄紀（高知大学医学部 皮膚科学講座）：「腫瘍細胞への再プログラミング因子導入による間葉-上皮移行の誘導」
 4. 御守里絵、朴 紀央、井本恭子、浅田秀夫（奈良県立医科大学 皮膚科学）：「皮膚常在菌が表皮自然免疫応答に及ぼす影響と分子標的治療薬による薬疹の発症機序」
 5. 田中まり、金田眞理、片山一朗（大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学）：「新規外用剤開発における吸収試験～ラバマイシン外用剤について～」
- 2013.8.10 第3回 汗と皮膚の研究会
李 丁範（順天郷大学校 医学大学 生理学）：「Impaired sweating function in adult atopic dermatitis : results of the quantitative sudomotor axon reflex test」
都築和代（独立行政法人産業技術総合研究所ヒューマンライフテクノロジー研究部門 環境適応研究グループ）：「子どもの汗」
- 2013.10.17 第8回 大阪免疫・皮膚アンチエイジング研究会
 1. 林 美沙（大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学）：「ツベルクリン反応施行後急性増悪した膿疱性乾癬の1例」
 2. 加藤麻衣子（近畿大学医学部 皮膚科学教室）：「脂肪類壊死の1例」
 3. 中川浩一（済生会富田林病院皮膚科 部長）：「アンチエイジングにおけるEPAの効果」
 4. 内田修輔（近畿大学医学部 皮膚科学教室）：「パラフェニレンジアミンに対するパッチテスト陽性反応が遷延化した接触皮膚炎症候群」

特別講演 江畑俊哉（ちとふな皮膚科クリニック院長）：「そう痒性疾患の眠りを考える」
- 2013.10.19 第10回 天王山カンファレンス
 1. 中溝 聰、江川形平、梶島健治、宮地良樹（京都大学大学院医学系研究科生命科学講座）：「皮膚 $\gamma\delta$ T細胞の移動と役割」
 2. 楊 倭俐、室田浩之、片山一朗（大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学）：「ヒスタミンはペリオスチンを介してアトピー性皮膚炎の組織リモデリングに関与する」
 3. 天野 渉、中島沙恵子、宮地良樹、梶島健治（京都大学大学院医学系研究科生命科学講座）：「JAK阻害薬の表皮ケラチノサイトに対する」

- 新規知見について」
4. 糸井沙織, 寺尾美香, 室田浩之, 片山一朗 (大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学) :「皮膚炎症における細胞内コルチゾール再活性化酵素 (11β -HSD1) の役割」
 5. 中嶋千紗, 大塚篤司, 桃島健治, 宮地良樹 (京都大学大学院医学系研究科生命科学講座) :「皮膚炎症時の好酸球と好塩基球の役割」
 6. 竹原友貴, 佐藤貴浩, 西澤 純, 佐伯和美, 中村正孝, 増澤幹男, 金田安史, 片山一朗, 横関博雄 :「Inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene exert anti-tumor effects on murine angiosarcoma」
- 2013.10.31 第10回 中之島フットケアフォーラム
1. 西田壽代 (足のナースクリニック代表日本トータルフットマネジメント協会会長) :「透析患者の足のアセスメントとケアの実際」
 2. 小川佳宏(リズム徳島クリニック 院長) :「リンパ浮腫の診断と治療」
- 2013.11.14 第7回 関西 P&D アトピー性皮膚炎治療フォーラム 【PANDAK Forum】
～アトピー性皮膚炎治療の発展をめざして～
1. 室田浩之 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 講師) :「アトピー性皮膚炎指導箋ブラッシュアップ! 恒常性を維持するスキンケアのコツ」
 2. 亀崎佐織 (かめさきこども・アレルギークリニック 院長) :「乳児アトピー性皮膚炎の臨床的検討」
 3. 片岡葉子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科 主任部長) :「TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー - 小児における意義と活用」
- 2013.11.16-17 日本色素細胞学会学術大会
1. 鈴木民夫 (山形大学医学部皮膚科 教授) :「日本人皮膚色決定遺伝子と皮膚癌発症リスクの解析」
 2. Dave S.B. Hoon (Professor, John Wayne Cancer Institute, Molecular Oncology) :「Epigenetic Aberrations during Melanoma Progression in Tumors and Blood」
 3. 吉森 保 (大阪大学大学院医学系研究科教授・生命機能研究科教授) :「オートファジー: 疾患に対抗する細胞内自己分解システム」
 4. Anand Ganesan (Assistant Professor Department of Dermatology and Department of Biological Chemistry, University of California, Irvine) :「The Pleiotropic Roles of Autophagy Regulators in Normal Melanogenesis」
 5. Lingli Yang (Department of Dermatology, Course of Moleculuar Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University) : Reduction of Autophagy: A Potential Mechanism of Hypopigmented Macules in Tuberous Sclerosis Complex」
 6. 錦織千佳子 (神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野 教授) :「The Role of Ultraviolet Light on the Development of Melanoma」
 7. 塚本克彦 (山梨県立中央病院 皮膚科 科長) :「尋常性白斑の病態と治療」
 8. 國貞隆弘 (岐阜大学大学院医学系研究科組織器官形成分野 教授) :「Kit(SCF) トランスジェニックマウスと色素細胞研究」
- 2013.12.12 第9回 大阪スキンケア研究会
1. 田中あかね (東京農工大学 農学研究院 獣医学科 比較動物医学研究室 生物システム応用科学府 共同先進健康科学専攻 教授) :「水の硬度と石鹼の関係」
 2. 東 禿彦 (東皮フ科医院 院長) :「爪のケア」
- 2013.12.21 第19回 ギンナン皮膚科談話会

1. 錦織千佳子（神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野 教授）：「光アレルギー臨床」

氏
職
専
門
医
資
格
省
庁
研
究
費

金田 眞理

講師

皮膚科専門医、臨床遺伝専門医、がん治療認定医

受
賞
等
学会
関
係
役
員

大阪大学総長顕彰

日本結節性硬化症学会理事

日本研究皮膚科学会評議委員

日本皮膚科学会大阪地方会評議委員

大学、病院の運営委員

1) 遺伝子診療部運営委員

2) 臨床治験事務センター運営委員会

3) 大阪地方会庶務

4) 臨床試験部運営部会

5) 臨床研究倫理審査委員会

医局内委員
外
來
関
係

初診外来（金午前）、遺伝病外来（木午前、午後）、遺伝子診療部外来（月、火、午後、不定期）

受け持ち入院患者
手
術
数
学
生
講
義
業
績

レーザーを含めて 20 例

医学部学生講義 2、歯学部学生講義 1、医学修士 1、

学会発表：海外 9 件 国内 22 件

論文発表：英文 10 件 (1st 1 coresponding 5) 和文 7 件

Journal of Cellular and Molecular Medicine 1, American Journal of Clinical Dermatology 1,

Journal of Dermatology 2, Journal of Dermatological Science 1,

Pediatric dermatology 1, 日本皮膚科学会雑誌 1, 皮膚の科学 3

論
文
查
読

結節性硬化症は mTOR の上流にある hamartin, tuberin の異常の結果、全身に過誤種や白斑、自閉症や癲癇などがおこる疾患である。これら神経症状と皮膚症状を引き起こす共通の病態として、アポトーシスやオートファジーを介した、mTOR 機能の解明を目指している。さらに、この mTOR の阻害剤の皮膚科の遺伝病・神経皮膚症候群への臨床応用に向けての臨床研究も進めている。

研究テーマ

結節性硬化症の外用療法を行っております。ラパマイシン外用剤の承認を目指して医師主導治験を施行中です。

一
言

結節性硬化症は全身に症状が出る疾患で、他科との共同診察が不可欠である。そこで、大阪大学では TSC ボードを開催し、横の連携を持った患者さんの診察加療に力を入れております。



氏
職
専門医資格

室田 浩之

講師

日本皮膚科学会専門医,

日本アレルギー学会認定専門医・認定指導医

省庁研究費

1. 文部科学研究費基盤研究C(主任), 2. 厚生労働科学研究費助成金・発汗異常班(分担), 3. 厚生労働科学研究費助成金・ピントなアトピー性皮膚炎新規治療の開発(分担), 4. 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業(分担), 5. 厚生労働科学研究費補助金 アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究(分担)

受賞等

第14回ガルデルマ賞「アーテミンはアトピー性皮膚炎で見られる温熱誘発性うっ痒症に似た皮膚の温熱感覚過敏を誘発する」

学会関係役員

日本研究皮膚科学会評議員, 日本アレルギー学会代議員, 日本アレルギー学会国際交流委員, 第39回日本研究皮膚科学会事務局長, 8th World Congress on Itch, secretary in general, 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン改訂委員, 日本皮膚科学会限局性多汗症診療ガイドライン改訂委員, 日本皮膚科学会慢性痒疹・汎発性皮膚うっ痒症診療ガイドライン改訂委員

大学、病院の運営委員

廃棄物取り扱い委員, 動物実験施設利用世話人会, 毒劇物管理者, 安全衛生管理委員, 液体窒素委員会

医局内委員

研究室責任者

外 来 関 係

アトピー性皮膚炎専門外来, 新患外来, 膜原病外来, 一般外来, 午後時間外外来

受け持ち入院患者

手 術 数

学 生 講 義

歯学部1回/年, 医学部2回/年

業 績

学会発表: 海外 2件 国内 10件 (全件セミナーあるいはシンポジウム)

論文発表: 英文 13件 (うち1st 2件, corresponding 4件)

和文 17件 (内, 教科書の分担執筆 3)

論 文 査 誌

Expert opinion pharmacol 1件, JDS 9件, Clin Cosmet Investig Dermatol 1件, JD 10件, JAAD 9件, Expert opinion on drug metabolism and toxicology 1件, PLoS One 1件, Exp Dermatol 3件, BrJ Dermatol 1件, 日皮会誌 1件

研究テーマ

1) 乏汗のメカニズム解明と汗腺のダイナミックな動態観察: アトピー性皮膚炎や無汗症の症例における軸索反射性発汗能を測定し, 欠汗の生じるメカニズムを調べています.

松井佐起先生は二光子顕微鏡を使って汗腺の動態を観察することに成功し, JIDに掲載されました. ヒスタミンはアトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患でみられる乏汗の原因であり, 治療への応用が可能というものです. その成果は多くの新聞に取り上げられ, ニュースでも報道されました. 汗の研究はさらに進めております. 松井先生が卒業されたあと, 小野慧美先生が新しいアプローチで汗の研究をスタートさせました.

2) 痒みの新しいメカニズム: 神経栄養因子アーテミンは温度感受を亢進させ温もると痒い症状を引き起こすことを報告しました. 皮膚におけるアーテミンの蓄積が中枢神経の増感に影響を与える可能性について, 1人でほそぼそと検討継続しています.

3) OAS, PFAS における果実および花粉の交叉性, 出現時期に関する調査: 松井先生, 小野先生, 実験補助員の松村さんと ELISA, 免疫プロットを用いた検討を行っています.

4) 角質細胞間脂質の新たな役割: コレスステロールを皮膚に塗ると表皮の活性型コルチゾール産生が亢進し, 炎症を和らげる作用があることを発見し, 成果が Experimental Dermatologyに掲載されました. ご協力いただいた寺尾先生, 越智先生に感謝です.

5) 組織リモデリングとペリオスチン: 細胞外マトリックスであるペリオスチンは強皮症の病態形成に関わることを大学院生の楊怜憲先生と報告しました. 現在, アレルギー



のリモデリングにおいてもペリオスチンの興味深い機能が確認されましたので投稿し、現在リバイス中です。

6) 末梢循環障害と温度：血管内皮細胞に様々な温度負荷をかけ、発現誘導される遺伝子や蛋白質の網羅的解析を楊伶俐先生と行い、血管内皮細胞が寒冷曝露された際に発現するケモカインを網羅的解析から確認しました。その成果は現在投稿中です。

7) アレルギー疾患の疫学調査：保健センターの瀧原教授との共同研究で学生のアレルギー有診断率、アレルギーの有症率、悪化因子実態調査を行っています。木嶋晶子先生が莫大なデータの解析を公衆衛生の磯教授のご指導のもと進めており、2012年に第一報を publish しました。木嶋先生は卒業後にカナダに御留学され、その後を田原真由子先生が引き継ぎ 2014 年度も疫学調査継続します！

8) タイトジャングル：大学院生の山賀康右先生と月田早智子先生の教室で勉強させていただいている。皮膚科臨床の素朴な疑問がサイエンスによって裏付けされていく事に大変感動しています。

一 言

本年度は汗の偉大さを知る好機を得た。汗は人知れず皮膚から放出され、そのほとんどが蒸散し、ごく一部は皮膚表面に残る。そうすることで皮膚の恒常性を支えているけなげな「縁の下の力持ち」といえよう。私達はヒトおよびマウスの発汗活動・汗腺機能の評価を行った。マウスの汗腺は手掌足底にしかないため米粒ほどのわずかな面積での検討を強いられた。彼らは汗を滑り止めとして利用するが体温調節には用いない。ヒトのように全身に汗腺をまとっている動物は類いまれだ。それゆえヒトの恒常性維持に必要な機能の多くは発汗活動に頼っている。けなげに見えた汗も今やいよいよ輝きを増す。今回、おそらく世界で初めて生体内で汗腺の動態観察に成功した訳だが、汗腺の動きはけなげそのものであった。ヒトは個体あたり 200 万～500 万個の成熟した汗腺を持って生まれてくる。汗腺の数は生後増えることはないとされる。このはかなく小さな臓器のかわいらしさ動きが生体の恒常性を支えていると考えれば、汗腺がより愛おしい存在に見えてくるのは私だけだろうか。水は生命維持に必須である。ヒトは汗によって惜しげもなく水を放出する。それは汗をかくことがいかに大切な事かを物語っている。何かと嫌われることの多い汗だが、本研究成果より汗を理解して汗とうまく付き合う糸口が見つかれば幸いである。

氏 名 谷 守
職 名 助教
専 門 医 資 格 皮膚科専門医
省 庁 研 究 費 受 賞 等
學 會 関 係 役 員 学会関係役員
大 学, 病 院 の 運 営 員 大学, 病院の運営委員

医 局 内 委 員
外 来 関 係
受 け 持 ち 入 院 患 者

手 術 数
学 生 講 義
業 績

論 文 査 読
研 究 テ ー マ

外来医長会、病歴管理委員、保険管理委員、リスクマネージメント委員、薬事委員、疼痛医療センター WG 委員、医療品安全管理委員
外来医長
リンパ腫外来、乾癬外来

5 件
歯学部講義 1, 医学部講義 1
学会発表：海外 1 件 (Asia dermatology Congress) 国内 0 件
論文発表：和文 2 件

Journal of Dermatology 2 件, 西日本皮膚科 1 件
皮膚リンパ腫の分類、リンパ腫に対する免疫治療の反応機序、乾癬患者における治療選択の心理分析



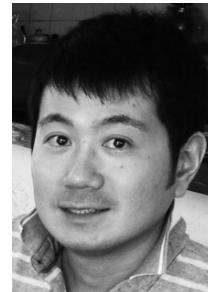
一 言 治験の登録にご協力いただき誠に有難うございました。混乱しながらも順調に進捗しております。

氏 名	小豆澤 宏明	
職 名	助教	
専 門 医 資 格	皮膚科専門医	
省 庁 研 究 費	科学研究費助成事業 基盤研究C（薬疹モデルマウス、代表） 厚生労働省科学研究費補助金：難病克服研究事業（重症多形滲出性紅斑の調査研究、分担） 厚生労働省科学研究費補助金：創薬基盤推進（重症薬疹のバイオマーカー探索、分担） 厚生労働省科学研究費補助金：難病克服研究事業（重症型扁平苔癬の病態解析、分担） 厚生労働省科学研究費補助金：創薬基盤推進（生分解性マイクロニードル、分担）	
受 賞 等		
学会関係役員		
大学、病院の運営委員	病棟医長 輸血部部運営委員、病理部運営委員、リスクマネージメント委員、未来医療センター運営員	
医局内委員		
外 来 関 係	薬疹水疱症外来、初診、一般外来	
受け持ち入院患者	病棟医長	
手 術 数		
学 生 講 義	歯学部講義 1、医学部講義 1	
業 績	学会発表：海外 2件 国内 0件 論文発表：英文 2件 和文 2件	
論 文 査 誌	Journal of Dermatology 2件, Journal of Dermatological Science 1件, Clinical Infectious Diseases 1件	
研究テー マ	重症薬疹の発症メカニズムの研究、マイクロニードルを用いたワクチンデバイスの研究、ケラチンを発現するB細胞様細胞の機能解析	
一 言	重症薬疹の発症メカニズムについて、臨床研究、基礎研究をしております。	

氏 名	種村 篤	
職 名	助教	
専 門 医 資 格	皮膚科専門医、がん治療認定医	
省 庁 研 究 費	厚生労働省科学研究費補助金：難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（がん、分担） 厚生労働省医薬基盤研究費（色素異常、分担）	
受 賞 等		
学会関係役員	日本色素細胞学会評議委員	
大学、病院の運営委員	感染制御部運営委員、集中治療部運営委員、輸血部運営委員、リスクマネージメント委員、臨床検査部運営委員、材料部運営委員、卒後研修委員	
医局内委員	医局長	
外 来 関 係	皮膚固形腫瘍外来、白斑外来（月・水午前）	
受け持ち入院患者	主に悪性腫瘍症例の診療指導	
手 術 数	主に、田中 文 Dr と（火曜日全日、局・全麻計年間 200 件以上）	

学 生 講 義 歯学部講義 1, 医学部講義 1
業 績 学会発表：海外 1 件 (World Congress of Melanoma) 国内 5 件
論 文 査 読 論文発表：英文 9 件 和文 0 件
Journal of Dermatology 7 件, **European Journal of Dermatology** 1 件,
Journal of Dermatological Science 1 件, 日本皮膚科学会雑誌 2 件
研究 テーマ ・尋常性白斑と誘導される炎症性サイトカイン, 末梢血リンパ球分画のダイナミックな
 変化の意義に関する研究
 ・皮膚悪性腫瘍における抗腫瘍免疫の網羅的解析
 ・HVJ-E により誘導される腫瘍免疫解析およびその臨床意義の研究
一 言 1) HVJ-E 投与による悪性黒色腫治療（第1相医師主導治験）が今年始まります。是非、
 皮膚転移を有する患者さんをご紹介下さい
 2) 寻常性白斑患者に対し病因および遺伝的背景を基にしたテラーメード治療の確立
 をを目指しております
 3) 日皮会特別委員会委員として、ロドデノール誘発性脱色素斑の病態解明を行ってお
 ります
 4) 皮膚悪性腫瘍外科をよりメジャーな地位にできればと願っております

氏 名 山岡 俊文
職 名 助教
専門医資格 皮膚科専門医
省庁研究費受賞等 厚生労働省科学研究費補助金：若手研究 B
学会関係役員 皮膚脈管・膠原病研究会事務局
 大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係 膜原病外来・乾癬外来
 受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義 歯学部講義 1, 医学部講義 1
業 績 学会発表：海外 1 件 国内 0 件
 論文発表：英文 4 件 和文 5 件
論 文 査 読 **Journal of Dermatology** 1 件, **International Journal of Dermatology** 1 件
研究 テーマ 膜原病患者における各種自己抗体の検討、乾癬の病態解析、皮膚潰瘍の新たなバイオマ
 ーカーの検索
一 言 真摯な態度で日々研鑽します。



氏 名 田中 文
職 名 助教
専門医資格 日本形成外科学科学会専門医
省庁研究費受賞等
学会関係役員 大学、病院の運営委員
医局内委員 手術部運営委員会、放射線部運営委員会、放射線治療部運営委員会、共同研グランド会、
 感染制御部運営委員会、集中治療部運営委員会

外 来 関 係	皮膚固形腫瘍外来、一般外来（月・木午前）			
受け持ち入院患者	常時4~7人			
手 術 数	火曜日全日、局・全麻 4~6人 / 週			
学 生 講 義				
業 績	学会発表：海外 1件 国内 1件 論文発表：英文 2件 和文 1件			
論 文 査 読				
研究 テー マ	皮膚外科、腫瘍			
一 言	日々精進してまいります			

氏 名 林 美沙
職 名 特任助教



専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係
受け持ち入院患者

膠原病（火）・乾癬、一般（木）
5~8人

手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研究 テー マ
一 言

学会発表：海外 1件（World Congress of Melanoma） 国内 2件

大学に勤務して約1年がたちます。興味のあった膠原病について多くの症例を経験させていただいております。今後は乾癬患者の関節エコーを積極的に行っていく予定です。
日々精進致しますので引き続きご指導の程よろしくお願ひ致します。

氏 名 吉岡 華子
職 名 助教



専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係
受け持ち入院患者

臨床検査部運営委員、材料部運営委員、医療情報部運営委員

手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研究 テー マ
一 言

アトピー外来（月曜午後）、一般再診（火曜午前）

指導医として関与

学会発表：海外 0件 国内 2件

論文発表：英文 3件 和文 0件

Annals of Medical and Health Sciences Research 1件

アトピー性皮膚炎、無汗性外胚葉形成不全

日々努力して参ります。

氏　　名　　寺尾 美香
 職　　名　　特任研究員
 専門医資格　有り
 省庁研究費　文部科学省科学研究費 若手 A
 受賞等　　平成 23 年度保健学専攻優秀論文賞
 　　　　平成 24 年度基礎医学研究費
 　　　　オルガネラネットワーク医学創成プロジェクト 平成 23 年度 & 24 年度分野融合若手研究助成
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係
 受け持ち入院患者
 手術数
 学生講義
 業績
 論文査読
 研究テーマ
 一言

乾癬
 紫外線
 学会発表：海外 2 件 国内 2 件
 論文発表：英文 5 件 和文 0 件
 Journal of Dermatology, PLoS ONE, Journal of Dermatological Science など
 ①皮膚と細胞内コルチゾール再活性化酵素 ②皮膚とビタミン D ③皮膚と糖鎖

氏　　名　　楊 伶俐
 職　　名　　特任研究員
 専門医資格
 省庁研究費
 受賞等　　財団法人日本リディオリリー協会外国人留学生奨学金（2013 年 2 月 17 日）
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係
 受け持ち入院患者
 手術数
 学生講義
 業績
 論文査読
 研究テーマ
 一言

結節性硬化症の病態に関する研究, HVJ-E により誘導される抗腫瘍免疫の解析
 明るい雰囲気の研究室で、一日一日を大切にしながら、研究を楽しくこなしていきます！

氏　　名　　梅垣 知子
 職　　名　　post-doctoral fellow
 専門医資格　皮膚科専門医
 省庁研究費
 受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外 来 関 係

受け持ち入院患者

手 術 数

学 生 講 義

業 績

学会発表：海外 1件 (World Congress of Melanoma) 国内 5件

論文発表：英文 9件 和文 0件

論 文 査 読

研究テーマ

先天性表皮水疱症に対する iPS 細胞を用いた遺伝子治療の試み

・皮膚悪性腫瘍における抗腫瘍免疫の網羅的解析

・HVJ-E により誘導される腫瘍免疫解析およびその臨床意義の研究

一 言

現在、米コロンビア大学皮膚科 Angela Christiano ラボに留学し研究をしております。

氏 名 清原 英司

職 名 Postdoctoral fellow

専門医資格 皮膚科専門医

省庁研究費

受 賞 等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外 来 関 係

受け持ち入院患者

手 術 数

学 生 講 義

業 績

学会発表：海外 0件 国内 0件

論文発表：英文 1件 和文 0件

論 文 査 読

研究テーマ

カリフォルニア州にある John Wayne Cancer institute にて留学中、メラノーマに関する研究 (circulating tumor cell など) をしています。またアレルギー、免疫異常による皮膚疾患、炎症性皮膚疾患の病態解析などもテーマとしています。

一 言

院生時代のテーマだった HVJ-E によるメラノーマ治療が留学中に多数の方の尽力により治験までいきました。今後も臨床的に意味のある研究に参加、貢献できればと思います。

氏 名 壽 順久

職 名 助教 (~3/31/2013), Postdoctoral fellow of NCI/NIH (4/1/2013~)

専門医資格 皮膚科専門医

省庁研究費

受 賞 等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外 来 関 係



受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績 学会発表：海外 1件 国内 1件
論文発表：英文 3件 和文 0件

論 文 査 読 Journal of Dermatology 2件

研究テー マ Melanocytes and melanoma biology, Cancer microenvironment

一 言 現在、アメリカはメリーランドにある NCI/NIH でポスドクとして働いてます。色々としんどかったり、損したりすることも多いですが、かなり貴重な人生経験をしていると思います。皆さんも是非留学を体験してみて下さい。

氏 名 中川 幸延
職 名 留学中 (University of California, San Diego)
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研究テー マ 抗菌ペプチドであるカセリサイディンの免疫での機能解析
一 言 現在、サンディエゴに留学中ですが、有意義な研究生活ができるように頑張りたいです。

氏 名 花房 崇明
職 名 特任助教 (~2013/3),
日本学術振興会海外特別研究員 (Anderson's Lab, UCSF Diabetes Center, 2013/4~)
皮膚科専門医
専門医資格
省 庁 研究 費
受 賞 等
学会関係役員
大学、病院の運営委員 医療情報部運営委員会 (~2013/3) 集中治療部運営部委員 (~2013/3)
医局内委員
外 来 関 係 再診 1.5 枠 処置 1 枠
受け持ち入院患者 平均約 5 症例 (~2013/3)
手 術 数
学 生 講 義
業 績 学会発表：国内 1件
論文発表：英文 2件 (Clin Exp Immunol 1件, Eur J Dermatol 1件)
論文発表：英文 1件, Int J Dermatol 1件, J Dermatol 2件,
J Dermatol Case Rep 1件
論 文 査 読
研究テー マ 免疫寛容に関する研究を行っております。

一 言 2013年4月からサンフランシスコにあるUCSFへ研究留学させていただいております。

氏 名	荒瀬 規子
職 名	医員
専 門 医 資 格	
省 庁 研 究 費	日本学術振興会科学研究費助成事業：挑戦的萌芽研究
受 賞 等	
学 会 関 係 役 員	
大 学, 病 院 の 運 営 委 員	
医 局 内 委 員	
外 来 関 係	一般外来（火午前）
受け持ち入院患者	
手 術 数	
学 生 講 義	
業 績	学会発表：海外 1件 論文発表：英文 3件 和文 2件
論 文 査 読	
研 究 テ ー マ	皮膚科領域における自己免疫疾患発症機構を分子レベルで解析しています。
一 言	興味のある先生は是非お声がけください！

氏 名	村上 有香子
職 名	非常勤医師（シニア）
専 門 医 資 格	
省 庁 研 究 費	
受 賞 等	同窓会賞
学 会 関 係 役 員	
大 学, 病 院 の 運 営 委 員	
医 局 内 委 員	
外 来 関 係	パッチテスト外来（火午後）、一般外来（水午前）
受け持ち入院患者	
手 術 数	
学 生 講 義	
業 績	学会発表：海外 0件 国内 1件（中部） 論文発表：英文 1件 和文 0件
論 文 査 読	
研 究 テ ー マ	ECD, schwannomatosis, NF, TSC, BHD, など。M2マクロファージと腫瘍性皮膚病変との関連、接触皮膚炎。
一 言	パッチテストの更なる効率化につとめたいと思います。

氏 名	高橋 彩
職 名	臨床登録医
専 門 医 資 格	
省 庁 研 究 費	
受 賞 等	

学会関係役員	
大学、病院の運営委員	
医局内委員	
外 来 関 係	アトピー外来、処置当番（～2013年2月）
受け持ち入院患者	
手 術 数	外来にて数件
学 生 講 義	
業 績	学会発表：海外 0件 国内 0件 論文発表：英文 2件 和文 0件
論 文 査 読	
研究テーマ	アトピー性皮膚炎と発汗の関連性
一 言	現在育休中ですが、復帰の際はよろしくお願ひいたします。

氏 名	田中 まり
職 名	特任研究員（非常勤）／大学院生
専門医資格	皮膚科専門医
省庁研究費	
受賞等	
学会関係役員	（日本皮膚科学会皮膚科の女性医師を考える会協力委員）
大学、病院の運営委員	
医局内委員	
外 来 関 係	一般再診外来（木曜午前）、専門外来（木曜午後 遺伝病外来）
受け持ち入院患者	
手 術 数	CO2レーザー（神経線維腫症1型・結節性硬化症、他鼻瘤、表皮母斑等に対し）約80件、エタノール注入術6件（木曜午後）
学 生 講 義	
業 績	学会発表：海外 1件 国内 0件 論文発表：英文 3件 和文 0件
論 文 査 読	
研究テーマ	結節性硬化症、白斑等に対する、ラパマイシン外用剤の治療及び作用機序
一 言	1) 金田先生のもと、ラパマイシン外用剤の医師主導治験実施中です。 2) 同じく、金田先生の下で、酒さに対するラパマイシン外用臨床研究を行っております。ご協力いただける患者さんがおられましたら、金田先生にご紹介下さい。

氏 名	原田 潤（～8/31）
職 名	大学院生
専門医資格	
省庁研究費	
受賞等	
学会関係役員	
大学、病院の運営委員	
医局内委員	
外 来 関 係	皮膚科一般外来（月曜日）
受け持ち入院患者	
手 術 数	
学 生 講 義	

業 績 学会発表：海外 0 件 国内 0 件
論文発表：英文 0 件 和文 0 件

論 文 査 読
研究 テーマ 胎生期の皮膚角化細胞への分化に関与する遺伝子群の検索
一 言 基礎的な研究内容ですが、いつの日か皆さんの役に立てれば良いと考えております。よろしくお願ひします。

氏 名 松井 佐起 (～8/31)
職 名
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 緒 学会発表：海外 1 件 国内 4 件
論文発表：英文 1 件 和文 0 件

論 文 査 読
研究 テーマ 発汗とアトピー性皮膚炎について
一 言

氏 名 西岡 めぐみ
職 名 大学院生
専門医資格 皮膚科専門医
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係 処置係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 緒 学会発表：海外 0 件 国内 2 件
論文発表：英文 1 件 和文 1 件

論 文 査 読
研究 テーマ
一 言

- ・皮膚癌における Cancer/testis antigen の解析
- ・尋常性白斑、ロドデノール誘発脱色素斑における免疫系の解析
- ・皮膚癌、尋常性白斑、ロドデノール誘発脱色素斑における制御性 T 細胞の役割についての解析

正常組織に対する免疫も、癌に対する免疫も、本来すべての人が持っています。それが何故正常に機能できるのか、病的に機能したり機能不全に陥るのか、この謎に迫りたいと思います。

氏　　名　　越智　沙織
職　　名　　大学院生
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外　来　関　係　乾癬・一般外来（金午前）
受け持ち入院患者
手　術　数
学　生　講　義
業　　績　　学会発表：海外　0件　　国内　2件
論文発表：英文　2件　　和文　1件
論文査読
研究テーマ
一　　言　　・皮膚炎症における 11β -HSD1 の役割
大学院生活もあと 1 年となりました。いい形で卒業できるように頑張ります。今後とも
御指導御鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

氏　　名　　永田　尚子
職　　名　　大学院生
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外　来　関　係　一般外来
受け持ち入院患者
手　術　数
学　生　講　義
業　　績　　学会発表：海外　0件　　国内　0件
論文発表：英文　0件　　和文　1件
論文査読
研究テーマ
一　　言　　悪性黒色腫と SOCS1 による遺伝子治療
早く結果をだします

氏　　名　　田原　真由子
職　　名　　大学院生
専門医資格
省庁研究費
受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

学会発表：海外 1件 国内 3件
 論文発表：英文 0件 和文 0件

論文査読

研究テーマ

- ・思春期アトピー性皮膚炎の背景因子に対するコホート研究
 - ・アトピー性皮膚炎、痒疹に対するエキシマ光線療法の治療効果に関して
- 日々様々なことを教えていただき勉強させていただいてます。

一言

氏名 小野 慧美
 職名 大学院生

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

学会発表：海外 0件 国内 0件
 論文発表：英文 0件 和文 0件

論文査読

研究テーマ

- 口腔アレルギー症候群、アトピー性皮膚炎の汗について
 口腔アレルギー症候群の中でも PFAS について病態解明できたらと思います。

氏名 加藤 健一
 職名 大学院生

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

学会発表：海外 0件 国内 3件
 論文発表：英文 0件 和文 0件

論文査読
研究テーマ　　薬疹モデルマウスの作成
一 言　　研究、発表、臨床、どれも頑張ります。

氏　　名　　神谷　智
職　　名　　大学院生
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係　　処置外来（木曜日）
受け持ち入院患者
手　　術　　数
学 生 講 義
業　　績　　学会発表：海外　　0件　　国内　　1件
　　　　　　　　論文発表：英文　　0件　　和文　　0件
論文査読
研究テーマ　　BLM遺伝子の発現制御による両アレル変異導入法
一 言　　ヒトiPS細胞を用いて、BLM遺伝子の発現を可逆的に制御して両アレルの遺伝子を障害し、疾患遺伝子を探す方法を確立しようとしています。

氏　　名　　山賀　康右
職　　名　　大学院生
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外 来 関 係　　フットケア外来（金曜日午前）
受け持ち入院患者　　2013年1～4月に主治医、担当医を務めた
手　　術　　数　　2013年1～3月に局麻手術20件、全麻5件程度。
学 生 講 義
業　　績　　学会発表：海外　　1件　　国内　　4件
　　　　　　　　論文発表：英文　　1件　　和文　　1件
論文査読
研究テーマ　　タイトジヤンクションと皮膚
一 言　　2013年度新入局員の山賀康右です。2013年5月より『タイトジヤンクションと皮膚』をテーマに月田研究室に出向して研究を行っております。未熟者であり至らない点が多いかと思いますが、どうか御指導御鞭撻の程、宜しく御願い致します。

氏　　名　　小紫 雄貴
 職　　名　　医員
 専門医資格
 省庁研究費
 受賞等
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係
 受け持ち入院患者　後期研修医として担当した
 手術数　　種村 篤 Dr, 田中 文 Drと共に手術を担当。全身麻酔患者 20 件程度、局所麻酔患者は 50 件程度関与
 学生講義業績　学会発表：海外 0 件 国内 2 件
 論文査読
 研究テーマ
 一　　言　　2014 年 4 月から大学院に進学します。よろしくお願いします

氏　　名　　橋本 典子
 職　　名　　医員
 専門医資格
 省庁研究費
 受賞等
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係
 受け持ち入院患者　平均 5～6 人
 手術数　　ope 係 2 ヵ月間、病棟患者の手術に参加
 学生講義業績　学会発表：海外 0 件 国内 1 件
 論文査読
 研究テーマ
 一　　言　　後期研修医として様々な疾患を勉強させていただいております。毎日少しでも成長できるよう頑張ります。

氏　　名　　廣畠 彩希
 職　　名　　医員
 専門医資格
 省庁研究費
 受賞等
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員

外 来 関 係

受け持ち入院患者 主治医として約 70 名

手 術 数 種村 Dr, 田中文 Dr 執刀の手術に助手として、外来入院併せて約 60 件

学 生 講 義

業 績 学会発表：海外 0 件 国内 1 件

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

論 文 査 読**研究 テ ー マ**

— 言 今後とも御指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

氏名 藤盛 裕梨

職 名 医員

専 門 医 資 格**省 庁 研 究 費****受 賞 等****学会関係役員**

大学、病院の運営委員

医 局 内 委 員**外 来 関 係**

受け持ち入院患者 褥瘡回診

計 50 人程度

手 術 数 局・全麻計 50 件程度

学 生 講 義

業 績 学会発表：海外 0 件 国内 1 件

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

論 文 査 読

研究 テ ー マ 皮膚潰瘍を合併した各種皮膚疾患における血清 HMGB1 の推移

— 言 血中 HMGB1 濃度は各種皮膚疾患において病勢を定量的に評価する指標となりうると
考えております。

大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻
情報統合医学講座皮膚科学教室

2013年 原著

[英文原著] (アルファベット順)

1. **Arase N**, Wataya-Kaneda M, Oiso N, Arase H, Katayama I: CD1a-positive familial cutaneous mastocytosis without germ-line or somatic mutations in c-kit. *Br J Dermatology*. 2013;169(1):201-4.
2. Jiang Y, **Arase N** (equally contributed), Kohyama M, Hirayasu K, Suenaga T, Jin H, Matsumoto M, Shida K, Lanier LL, Saito T, Arase H: Transport of misfolded endoplasmic reticulum proteins to the cell surface by MHC class II molecules. *Int Immunol*. 2013;25(4):235-46.
3. Hirobe S, **Azukizawa H**, Matsuo K, Zhai Y, Quan YS, Kamiyama F, Suzuki H, Katayama I, Okada N, Nakagawa S: Development and clinical study of a self-dissolving microneedle patch for transcutaneous immunization device. *Pharm Res*. 2013;30(10):2664-74.
4. **Hanafusa T**, Matsui S, Murota H, Tani M, Igawa K, Katayama I: Increased frequency of skin-infiltrating FoxP3(+) regulatory T cells as a diagnostic indicator of severe atopic dermatitis from cutaneous T cell lymphoma. *Clin Exp Immunol*. 2013;172(3):507-12.
5. **Itoi S**, Tanemura A, Kotobuki Y, Wataya-Kaneda M, Tsuruta D, Ishii M, Katayama I: Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo. *J Dermatol Sci*. (in press)
6. **Itoi S**, Terao M, Murota H, Katayama I: 11 β -Hydroxysteroid dehydrogenase 1 contributes to the pro-inflammatory response of keratinocytes. *Biochem Biophys Res Commun*. 2013;440(2):265-70.
7. Takehara Y, Satoh T, Nishizawa A, Saeki K, Nakamura M, Masuzawa M, Kaneda Y, **Katayama I**, Yokozeki H: Anti-tumor effects of inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene on angiosarcoma. *Clin Immunol*. 2013;149(1):1-10.
8. **Koguchi H**, Ujiie H, Aoyagi S, Osawa R, Shimizu H: Confluent and reticular papillomatosis associated with 15q tetrasomy syndrome. *Acta Derm Venereol*. 2013;93(2):202-3.
9. **Koguchi-Yoshioka H**, Inokuma D, Kusudou S, Mito Y, Tanaka A, Yanai M, Tsuji T, Fukasawa Y, Watanabe M, Kikuchi K, Shimizu S: Difficulty in the clinical diagnosis of epithelioid angiosarcoma. *Eur J Dermatol*. 2013;23(4):564-5.
10. **Koguchi H**, Arita K, Nakazato S, Moriuchi R, Yamane N, Shinkuma S, Matsumura K, Shimizu H: An erythematous plaque on the breast: a quiz. Solitary T-cell pseudolymphoma, superficial type. *Acta Derm Venereol*. 2013;93(6):763, 608.
11. **Murakami Y**, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Katayama I: Case of tuberous sclerosis complex complicated by mosaic localized neurofibromatosis type 1. *J Dermatol*. 2013;40(5):413-4.
12. Takahashi A, **Murota H**, Matsui S, Kijima A, Kitaba S, Lee JB, Katayama I: Decreased sudomotor function is involved in the formation of atopic eczema in the cubital fossa. *Allergol Int*. 2013;62(4):473-8.
13. Kijima A, **Murota H**, Takahashi A, Arase N, Yang L, Nishioka M, Yamaoka T, Kitaba S, Yamauchi-Takahara K, Katayama I: Prevalence and impact of past history of food allergy in atopic dermatitis. *Allergol Int*. 2013;62(1):105-12.

14. **Murota H**, Katayama I: Reply: To PMID 22770266. *J Allergy Clin Immunol.* 2013;131(3):928-9.
15. Yasui T, Yonetstu M, Tanaka R, Tanaka Y, Fukushima S, Yamashita T, Ogura Y, Hirao T, **Murota H**, Araki T: In vivo observation of age-related structural changes of dermal collagen in human facial skin using collagen-sensitive second harmonic generation microscope equipped with 1250-nm mode-locked Cr:Forsterite laser. *J Biomed Opt.* 2013;18(3):031108.
16. Tanaka R, Fukushima S, Sasaki K, Tanaka Y, **Murota H**, Matsumoto T, Araki T, Yasui T: In vivo visualization of dermal collagen fiber in skin burn bycollagen-sensitive second-harmonic-generation microscopy. *J Biomed Opt.* 2013;18(6):61231.
17. Sugiyama D, Nishikawa H, Maeda Y, **Nishioka M**, Tanemura A, Katayama I, Ezoe S, Kanakura Y, Sato E, Fukumori Y, Karbach J, Jäger E, Sakaguchi S: Anti-CCR4 mAb selectively depletes effector-type FoxP3+CD4+ regulatory T cells, evoking antitumor immune responses in humans. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2013;110(44):17945-50.
18. **Tanaka A**, Tanemura A, Tsuji C, Katayama I, Masuzawa M, Nakashima Y: Epithelioid angiosarcoma of the skin with spontaneous regression. *J Dermatol.* 2013;40(3):215-7.
19. **Tanaka A**, Nakano M, Tani M, Kira M, Katayama I, Nakagawa J, Tahara K, Koh S, Goto S, Takahashi R: Adult case of Stevens-Johnson syndrome possibly induced by Chlamydophila pneumoniae infection with severe involvement of bronchial epithelium resulting in constructive respiratory disorder. *J Dermatol.* 2013;40(6):492-4.
20. **Tanaka M**, Wataya-Kaneda M, Nakamura A, Matsumoto S, Katayama I: First left-right comparative study of topical rapamycin vs. vehicle for facial angiofibromas in patients with tuberous sclerosis complex. *Br J Dermatol.* 2013;169(6):1314-8.
21. **Tanemura A**, Oiso N, Nakano M, Itoi S, Kawada A, Katayama I: Alopecia areata: infiltration of Th17 cells in the dermis, particularly around hair follicles. *Dermatology.* 2013;226(4):333-6.
22. Nakajima K, **Terao M**, Takaishi M, Kataoka S, Goto-Inoue N, Setou M, Horie K, Sakamoto F, Ito M, Azukizawa H, Kitaba S, Murota H, Itami S, Katayama I, Takeda J, Sano S: Barrier abnormality due to ceramide deficiency leads to psoriasiform inflammation in a mouse model. *J Invest Dermatol.* 2013;133(11):2555-65.
23. **Terao M**, Itoi S, Murota H, Katayama I: Expression profiles of cortisol-inactivating enzyme, 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase-2, in human epidermal tumors and its role in keratinocyte proliferation. *Exp Dermatol.* 2013;22(2):98-101.
24. Itoh M and **Umegaki-Arao N**, Guo Z, Liu L, Higgins CA, Christiano AM: Generation of 3D skin equivalents fully reconstituted from human induced pluripotent stem cells (iPSCs). *PLoS One.* 2013;8(10):e77673.
25. **Umegaki-Arao N**, Tamai K, Nimura K, Serada S, Naka T, Nakano H, Katayama I: Karyopherin alpha2 is essential for rRNA transcription and protein synthesis in proliferative keratinocytes. *PLoS One.* 2013;8(10):e76416.
26. Oiso N, Suzuki T, **Wataya-Kaneda M**, Tanemura A, Tanioa M, Katayama I: Guidelines for the diagnosis and treatment of vitiligo in Japan. *Journal of Dermatology.* 2013;40(5):344-54.

27. Okita M, Nakanishi G, Fujimoto N, Shiomi M, Yamada T, **Wataya-Kaneda M**, Takijiri C, Yokoyama Y, Sunohara A, Tanaka T: NEMO gene rearrangement (exon 4-10 deletion) and genotype-phenotype relationship in Japanese patients with incontinentia pigmenti and review of published work in Japanese patients. *J Dermatol.* 2013;40(4):272-6.
28. **Wataya-Kaneda M**, Tanaka M, Hamasaki T, Katayama I: Trends in the Prevalence of Tuberous Sclerosis Complex Manifestations: An Epidemiological Study of 166 Japanese Patients. *PLOS ONE.* 2013;8(5):e63910.
29. Northrup H, Krueger DA, International Tuberous Sclerosis Complex Consensus Group (**Wataya-Kaneda M**, et al): Tuberous sclerosis complex diagnostic criteria update: recommendations of the 2012 international tuberous sclerosis complex consensus conference. *Pediatr Neurol.* 2013;49(4):243-54.
30. **Yamaga K**, Hanafusa T, Azukizawa H, Tanemura A, Nii T, Nishide M, Narazaki M, Katayama I: Immune reconstitution inflammatory syndrome in a patient with adult-onset Still's disease: Graft-versus-host-like skin reaction with possible asymptomatic human herpes virus reactivation during steroid tapering. *Eur J Dermatol.* (in press)
31. Shimizu K, Ogawa F, Hara T, Yoshizaki A, Muroi E, Yanaba K, Akiyama Y, **Yamaoka T**, Sato S: Exogenous application of hydrogen sulfide donor attenuates inflammatory reactions through the L-selectin-involved pathway in the cutaneous reverse passive Arthus reaction. *J Leukoc Biol.* 2013;93(4):573-84.
32. Fujimoto M, Matsushita T, Hamaguchi Y, Kaji K, Asano Y, Ogawa F, **Yamaoka T**, Fujikawa K, Tsukada T, Sato K, Echigo T, Hasegawa M, Takehara K: Autoantibodies to small ubiquitin-like modifier activating enzymes in Japanese patients with dermatomyositis: comparison with a UK Caucasian cohort. *Ann Rheum Dis.* 2013;72(1):151-3.
- [和文原著] (五十音順)
1. 荒瀬規子, 荒瀬 尚 : MHC クラス II 分子による細胞内ミスフォールド蛋白質の提示. 血液フロンティア 2013;23(8):1059-65.
 2. 荒瀬規子, 千田聰子, 井川 健, 片山一朗 : 乳房針生検部より限局性強皮症を発症した例. 皮膚病診療 2013;35(10):949-52.
 3. 荒瀬規子, 村上有香子, 高橋 彩, 松井佐起, 糸井沙織, 山岡俊文, 遠山知子, 田中 文, 片山一朗 : 一般病院における手湿疹患者の労働生産性, 生活の質, 医療費に関する検討. *J Environ Dermatol Cutan Allergol* 2013;7(2):87-92.
 4. 糸井沙織, 山本恭子, 小豆澤宏明, 種村 篤, 片山一朗, 高安 進 : 全身性エリテマトーデスにみられた *Mycobacterium chelonae* による難治性皮膚潰瘍 溫熱療法と抗菌剤併用療法が奏効した1例. 皮膚科の臨床 2013;55(5):653-6.
 5. 浅井克則, 豊田真吾, 早川航一, 藤本康倫, 岩本文徳, 若山 曜, 金田眞理, 簿持 淳, 吉峰俊樹 : 内頸動脈海面動脈洞瘻で発症し頸動脈コイル塞栓術後に出血性合併症を繰り返した血管型 Ehlers-Danlos 症候群の1例. *Journal of Neuroendovascular therap* 2013;7(2):94-100.
 6. 田中 文, 早石祥子, 近藤由佳理, 倉知貴志郎, 川口彩子, 福永 恵 : イムノタクトイド腎症患者に生じた足壊疽. 日皮会誌 2013;123(7):1229-35.
 7. 谷 守, 永田尚子, 越智沙織, 片山一朗 : 丘疹-紅皮症(太藤)様症状と魚鱗癬様症状を呈し, リンパ節浸潤により確定診断した紅皮症型菌状息肉症. 皮膚病診療 2013;35(6):569-72.

8. 永田尚子, 種村 篤, 東原大樹, 片山一朗: 指趾壞疽・潰瘍をきたした強皮症6症例-画像的血管変化の検討. 皮膚病診療 2013;35(10):916-23.
9. 山賀康右, 花房崇明, 山岡俊文, 小豆澤宏明, 片山一朗, 吉岡大輔, 戸田宏一, 澤 芳樹: アスピリンが原因薬と考えられた中毒性表皮壞死症. 皮膚病診療 2013;35(12):1169-72.

2013年 総説

[英文総説]

1. Nakajima T, Itai T, Wada H, Yamauchi T, **Kiyohara E**, Kaneda Y: A Novel Therapy for Melanoma and Prostate Cancer Using a Non-Replicating Sendai Virus Particle (HVJ-E). *Novel Gene Therapy Approaches*. 2013;157-81.
2. **Tanemura A**, Kiyohara E, Katayama I, Kaneda Y: Recent advances and developments in the antitumor effect of the HVJ envelope vector on malignant melanoma: from the bench to clinical application. *Cancer Gene Ther*. 2013;20(11):599-605.

[和文総説]

1. 小豆澤宏明：【重症薬疹の診断と治療】薬疹におけるリンパ球刺激試験でとらえる薬剤特異的T細胞。臨床免疫・アレルギー科 2013;59(4):438-44.
2. 小豆澤宏明：【薬疹を診る－注意点とその対応】最近の薬疹 注意すべき薬剤とその臨床症状。日本医師会雑誌 2013;142(3):503-7.
3. 片山一朗：TRPとアレルギー疾患。アレルギーと神経ペプチド 2013;9:13.
4. 片山一朗：4. アトピー性皮膚炎《アレルギー疾患ガイドラインとその使い方》。Modern Physician 2013; 33(2):160-4.
5. 片山一朗：4. 莽麻疹にステロイドの適応はあるか？。皮膚アレルギーフロンティア 2013;11(1):23-8.
6. 片山一朗：第8回 ドライケアファーラム シェーグレン症候群で見られる皮膚症状とその治療。横須賀市医師会報 2013;310:22-4.
7. 片山一朗：加齢とアレルギー。加齢皮膚医学セミナー（Geriatric Dermatology Seminar） 2013;8:1-6.
8. 片山一朗：セミナー アトピー性皮膚炎診断・治療ガイドライン 2012：改訂のポイント。日本薬剤師会雑誌 2013;65:11-6(911-6).
9. 片山一朗：特集Ⅱアレルギー疾患に対する免疫療法の効果と展望 皮膚アレルギーに対する免疫療法。臨床免疫・アレルギー科 2013;60(2):189-95.
10. 片山一朗：【カレント・トピックス】加水分解コムギ含有石鹼によるアナフィラキシー。日本医師会雑誌 2013;142(6):1305.
11. 片山一朗：誌上シンポジウム アレルギー専門医のゴールスタンダードとは？アレルギー専門医に求められるもの～各専門領域から提言～。皮膚科 アレルギア 2013;42:21-2.
12. 片山一朗：EL14-4 全身性強皮症、シェーグレン症候群～最近の動向～ シェーグレン症候群～免疫学的側面からのアプローチ。日本皮膚科学会雑誌 2013;123(13臨):2585-8.
13. 片山一朗：特集 ■アトピー性皮膚炎治療におけるステロイド外用薬の選び方・使い方-① 重症度に見合ったステロイド外用薬の選択と塗布回数・塗布量。薬局別冊 2013;64(6):93-8.

14. 片山一朗：【巻頭言】 薬疹の診療－最近の動向. 日本医師会雑誌 2013;142(3):477.
15. 片山一朗：【座談会】 薬疹を診る－注意点とその対応. 日本医師会雑誌 2013;142(3):481-91.
16. 片山一朗：ガイドラインを読み解く 「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2012」を読み解く. 小児喘息情報誌 2013;12(2)Summer:2-3.
17. 片山一朗：発疹に潜む重症全身疾患 3環状紅斑 見逃したくない皮膚症状～全身疾患を診断するための考え方. Modern Physician 2013;33(8):947-51.
18. 金田眞理：結節性硬化症皮膚病変に対するラパマイシン外用療法. 臨床皮膚科 2013;67(5):162-4.
19. 金田眞理：シグナル伝達病としての結節性硬化症. 日本皮膚科学会雑誌 2013;122(13):3192-5.
20. 金田眞理：結節性硬化症. 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 2013;194-204.
21. 金田眞理：Birt-Hogg-Dube 症候群. 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 2013;205-8.
22. 金田眞理：結節性硬化症の最近の症状の特徴と新規診断基準. 日本皮膚科学会雑誌 2013;123(13):2810-2.
23. 谷 守：皮膚悪性腫瘍 －基礎と臨床の最新研究動向－ 皮膚の悪性リンパ腫 臨床検査 免疫組織化学 (immunohistochemistry) 検査. 日本臨牀 2013;71(増4).
24. 西岡めぐみ, 西川博嘉：制御性T細胞による抗腫瘍免疫抑制 そのコントロールによる効果的ながん免疫療法の可能性. 實験医学 2013;31(12)(増刊):40-7.
25. 花房崇明：thymoma-associated multiorgan autoimmunity. 皮膚病診療 2013;35(6):526-31.
26. 室田浩之：【スキンケア－乳幼児から高齢者まで－】発汗とスキンケア. Derma No.210:37-43.
27. 室田浩之：【アトピー性皮膚炎の病態と治療】アトピー性皮膚炎の悪化因子対策 2013. 臨床免疫・アレルギー科 2013;60(3):302-8.
28. 室田浩之：私の処方 アトピー性皮膚炎に対するシクロスボリン MEPC 製剤の投与. Modern Physician 2013;33(11):1443.
29. 室田浩之：【外来でみられる小児皮膚疾患】アトピー性皮膚炎. 小児外科 2013;45(10):1139-42.
30. 木嶋晶子, 室田浩之他：思春期におけるアレルギー疾患に関する実態調査. CAMPUS HEALTH 2013; 50(1):313-5.
31. 室田浩之：【抗ヒスタミン薬～新たな地平～】抗ヒスタミン薬のインペアード・パフォーマンスと労働生産性. 皮膚アレルギーフロンティア 2013;11(2):81-4.
32. 室田浩之：アトピー性皮膚炎の治療と患者指導. 日本医事新報 2013;4661:17-24.
33. 室田浩之：【アトピー性皮膚炎治療の新たな展開】汗とアトピー性皮膚炎. 臨床免疫・アレルギー科 2013;59(2):187-90.

34. 室田浩之：【総合アレルギー診療を目指して】労働生産性と医療経済. Modern Physician 2013;33(2):245-7.
35. 室田浩之：【総合アレルギー診療を目指して】《アレルギー疾患の治療における最近の話題》. 抗ヒスタミン薬の新たな展開 Modern Physician 2013;33(2):228-31.
36. 室田浩之：汗 生理と病態の全て アトピー性皮膚炎における発汗障害. 日本皮膚科学会雑誌 2013; 122(13):3337-9.

2013年 監修・編集・著書

[監修・編集]

1. 金田眞理 専門編集：皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 中山書店 東京 2013
2. 片山一朗 監修：15th edition REVIEW BOOK for nurse 看護士・看護学生のためのレビューブック 2014 第15版 メディアメディック 東京 2013
3. 横関博雄、片山一朗 編集：高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント－ 医薬ジャーナル 東京
4. 片山一朗 企画・監修：特集：薬疹を診る－注意点とその対応 日本医師会雑誌 2013;142(3)
5. 片山一朗 監修：再発又は難治性の多発性骨髄腫におけるレブラミドの有害事象マネジメント－国内特定使用成績調査（全例調査）の中間報告を踏まえて－ 皮膚障害 セルジーン株式会社 2013
6. 片山一朗 室田浩之 監修：アトピー性皮膚炎のかたへ 汗との上手なつきあいかた 協和発酵キリン 株式会社 2013
7. 片山一朗 総監修：こどもに多いイボ 学ぼう－こどもの皮膚疾患 No.16
8. 片山一朗 総監修：こどもの薬疹 学ぼう－こどもの皮膚疾患 No.17
9. 片山一朗 作成：アレルギー総合ガイドライン 2013 一般社団法人日本アレルギー学会作成 2013

[著書]

1. 片山一朗（総編集：古江増隆、専門編集：秀道広）：V 蕁麻疹 蕁麻疹の類症 71.アトピー性皮膚炎と蕁麻疹の関係、診る・わかる・治す 皮膚科臨床アセット 16 蕁麻疹・血管性浮腫 パーフェクトマスター 中山書店 2013, pp.306-11.
2. 片山一朗（編集：瀧川雅浩、渡辺晋一）：VII 膠原病および類似疾患 9.Sjogren症候群、皮膚疾患の最新の治療 2013-2014 南江堂 2013, p.90.
3. 片山一朗（監修：富田 靖、編集：橋本 隆、岩月啓氏、照井 正）：第 II 編 炎症性皮膚疾患 第 12 章 膠原病とその類症、標準皮膚科学 第 10 版 医学書院 2013, pp.158-85.
4. 片山一朗（監修：富田 靖、編集：橋本 隆、岩月啓氏、照井 正）：第 VI 編 様々な皮膚疾患と関連領域 第 33 章 粘膜疹とその関連疾患、標準皮膚科学 第 10 版 医学書院 2013, pp.547-57.
5. 片山一朗（編集：横関博雄、片山一朗）：11. 掌蹠膿疱症 第 1 章 各疾患の診断と治療 I. 湿疹と類症、高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント－ 医薬ジャーナル 2013, pp.50-4.
6. 片山一朗（編集：宮坂信之）：第 2 章 15. アトピー性皮膚炎、ポケットサイズのステロイド 診療マニュアル 新興医学出版社 2013, pp.148-53.
7. 片山一朗（編集：宮地良樹）：第 1 章 ポジショニング・定義 3. 湿疹・皮膚炎 Q5. 外用ステロイド

- がかゆみに効く機序は?. 抗ヒスタミン薬～達人の処方箋 Rx～ メディカルレビュー社 2013, pp.74-5.
8. 片山一朗 (総編集: 永井良三・大田 健) : 皮膚疾患 湿疹・皮膚炎 A. アトピー性皮膚炎. 今日の治療と看護 改訂第3版 南江堂 2013, pp.1066-70.
 9. 片山一朗, 金田眞理 (監修: 萩原俊男, 編集: 池上博司, 横木宏実) : 【3. 老年病の診断・治療・予防】9. 皮膚. 予防とつきあい方シリーズ改訂版 老年病・認知症～長寿の秘訣～ メディカルレビュー社 2013, pp.191-6.
 10. 片山一朗(ゲスト編集: 五十嵐敦之 常任編集: 宮地良樹, 清水 宏) : I章 薬物療法 A. 外用療法 6) ビタミンD3外用薬 コラム; 尋常性白斑に対するビタミンD3外用療法. 1冊でわかる最新皮膚科治療 文光堂 2013, pp.38-9.
 11. 片山一朗 (監修: 日本職業・環境アレルギー学会ガイドライン専門部会, 作成: 「職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2013」作成委員) : 第3章 職業性皮膚疾患. 職業性アレルギー疾患診療ガイドライン2013 協和企画 2013, pp.63-109.
 12. 片山一朗 (総編集: 古江増隆, 専門編集: 横関博雄) : I 紅斑症 1. 紅斑の分類と臨床検査・治療指針, 22.Sjögren症候群の感情紅斑の病態・診断・治療, II 痒疹群 43. 慢性痒疹の治療 (4) -活性型ビタミンD₃療法-. 診る・わかる・治す皮膚科臨床アセット 18 紅斑と痒疹 病態・治療の新たな展開 中山書店 2013, pp.2~6, pp.18-23, pp.225~30.
 13. 金田眞理 (総編集: 古江増隆, 専門編集: 金田眞理) : 6. シグナル伝達病としての母斑症 I: 母斑と母斑症総論. 診る・わかる・治す皮膚科臨床アセット 15 中山書店 2013, pp.35-41.
 14. 金田眞理 (総編集: 古江増隆, 専門編集: 金田眞理) : 39. 結節性硬化症 III: 母斑症. 診る・わかる・治す皮膚科臨床アセット 15 中山書店 2013, pp.194-208.
 15. 田中まり (編: 横関博雄, 片山一朗) : IV. 老化に伴う皮膚変化 1. アクロコルドン. 高齢者によく見られる皮膚疾患アトラス-鑑別と治療のポイント 医薬ジャーナル社 2013, p.108.
 16. 寺尾美香 (編: 横関博雄, 片山一朗) : V 代謝異常 1 アミロイドーシス (アミロイド苔癬, 斑状アミロイドーシス). 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス 医薬ジャーナル 2013, pp.134-7.
 17. 寺尾美香 (編: 金田眞理) : Column RAS/MAPK経路の異常をきたす症候群 (RASopathies). 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 中山書店 2013, pp.235-9.
 18. 寺尾美香 (編: 金田眞理) : 44. LEOPARD症候群. 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 中山書店 2013, pp.231-4.
 19. 花房崇明 (編: 横関博雄, 片山一朗) : III. 物理的障および薬剤による疾患 2. 褥瘡. 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス - 鑑別と治療のポイント 医薬ジャーナル社 2013, pp.79-83.
 20. 村上有香子 (編: 古江増隆, 金田眞理) : 38. 神経線維腫症2型 Column schwannomatosis (神経線維腫症). 皮膚科臨床アセット 15 母斑と母斑症 中山書店 2013, pp.190-3.
 21. 室田浩之 (宮地良樹編) : 「抗ヒスタミン薬のインペアードパフォーマンスは患者の労働生産性にどの程度影響を与えるのか?」. 抗ヒスタミン薬～達人の処方箋 Rx～ メディカルレビュー社 2013, pp.44-5.

22. 室田浩之（宮地良樹編）：「学生・勤労者に適した抗ヒスタミン薬は？」. 抗ヒスタミン薬～達人の処方 Rx～ メディカルレビュー社 2013, pp.102-3.
23. 室田浩之（小林陽之助, 金子一成監督, 兵庫食物アレルギー研究会編）：「肌を守る汗の働き」. 食物アレルギー外来診療のポイント 63 改訂第2版 診断と治療社 2013, pp.17-9.
24. 山岡俊文（編：横関博雄, 片山一朗）：IV. 潰瘍治療薬. 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント－ 医薬ジャーナル社 2013, pp.242-9.
25. 山岡俊文（編：古江増隆, 土田哲也）：XIX. 血管腫と考えたとき忘れてはならない症候群 56. 口唇などの丘疹状毛細血管拡張と出血傾向から疑う Osler-Weber-Rendu 症候群. 皮膚科臨床アセット 20 日常診療において忘れてはならない皮膚科症候群 中山書店 2013, pp.232-5.

2013年 特別講演

[講演会]

1. 片山一朗：アトピー性皮膚炎のステロイド外用療法. 第9回大阪皮膚アレルギーネットワーク（ODAN）大阪 （2013.01.19）
2. 片山一朗：花粉症と皮膚のアレルギー. 大阪アレルギーセミナー 大阪 （2013.01.26）
3. 片山一朗：尋常性白斑に対する治療ガイドライン. エキシマライトセミナー 群馬 （2013.01.27）
4. 片山一朗：ガイドラインに沿った小児のアトピー性皮膚炎の治療. 三重アレルギーフォーラム 2013 三重 （2013.04.11）
5. 片山一朗：ガイドラインに沿った小児のアトピー性皮膚炎の治療. 函館小児医会学術講演会（日本医師会生涯教育講座） 函館 （2013.04.12）
6. 片山一朗：アトピー性皮膚炎と生活習慣：診療ガイドラインへのインパクト. 新潟SDセミナー in 2013 新潟 （2013.06.28）
7. 片山一朗：痒みを伴う皮膚疾患の治療法 Q&A. 道央ファーマシストセミナー 札幌 （2013.06.29）
8. 片山一朗：アトピー性皮膚炎でのヒスタミンの新たな作用と抗ヒスタミン薬アドヒアランスの意義. アレルギー学術講演会 大阪 （2013.07.27）
9. 片山一朗：ビタミンD3外用剤の新しい使い方. 淀川デルマ懇話会 大阪 （2013.09.14）
10. 片山一朗：アトピー性皮膚炎：アトピー性皮膚炎治療の勘どころ. 第2回 Allergy Boot Camp 滋賀 （2013.09.29）
11. 片山一朗：皮膚の恒常性とヒスタミン－アトピー性皮膚炎での抗ヒスタミン薬の意義－. 上野の山リサーチカンファレンス 2013 東京 （2013.10.12）
12. 片山一朗：アトピー性皮膚炎の治療～最新の知見～. 北九州市皮膚科医会研修会 北九州 （2013.10.17）
13. 片山一朗：よくわかる白斑・脱色素斑 「尋常性白斑 Q&A：新たな病因論と治療法」. 神奈川県皮膚科医会第143回例会 第18回 川崎市皮膚科医会例会 横浜 （2013.12.01）

2013年 座長

[国内学会]

[片山一朗]

1. 錦織千佳子（神戸大学大学院医学研究科 皮膚科学分野 教授）：抗ヒスタミン薬は皮脂欠乏皮膚炎の症状の改善に有用か？～神戸大学皮膚科関連病院における多施設共同研究 GSK Winter Semiar 札幌（2013.01.13）
2. 川上民裕（聖マリアンナ医科大学皮膚科 准教授）：皮膚科医の治療を含めた血管炎へのアプローチ 第36回皮膚脈管膠原病研究会ランチョンセミナー 大阪（2013.01.25）
3. 海老澤元宏（国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部長）：食物アレルギーの最新の対応 大阪EBMネットワーク研究会 大阪（2013.02.01）
4. 本間行彦（北海道漢方医学センター附属北大前クリニック院長、北海道大学名誉教授）：漢方治療の現場から Dermatology Kampo Seminar 大阪（2013.02.21）
5. 松田洋昌（近畿大学医学部皮膚科）：患者ニーズを考慮したアダムリブによる治療について 第4回大阪乾癬バイオフォーラム 大阪（2013.03.29）
6. 東山真里（日本生命済生会付属日生病院皮膚科部長）：乾癬に合併する疾患 第4回大阪乾癬バイオフォーラム 大阪（2013.03.29）
7. 山本俊幸（福島県立医科大学皮膚科 教授）：関節性乾癬～病態と治療に関する最近の話題～ 大阪乾癬バイオフォーラム 大阪（2013.03.29）
8. 横関博雄（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野 教授）：掌蹠に発症する難治性皮膚病変（掌蹠膿疱症を含む）の病態と治療 第11回関西皮膚疾患談話会 大阪（2013.03.30）
9. 照井 正（日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 教授）：掌蹠膿疱症に関する最近の話題：タバコとビタミンD3 第11回関西皮膚疾患談話会 大阪（2013.03.30）
10. 海老原全（慶應大学医学部皮膚科学教室 准教授）：発症 第1回小児アトピー性皮膚炎フォーラム（PAD フォーラム） 東京（2013.04.13）
11. 桧島健治（京都大学大学院医学系研究科皮膚生命科学講座 准教授）：増悪因子としてのかゆみ 第1回小児アトピー性皮膚炎フォーラム（PAD フォーラム） 東京（2013.04.13）
12. 今井孝成（昭和大学小児科学教室 講師）：悪化因子 第1回小児アトピー性皮膚炎フォーラム（PAD フォーラム） 東京（2013.04.13）
13. 江川清文（北里大学 客員教授、東京慈恵会医科大学皮膚科 非常勤講師、廣仁会昭和皮膚科クリニック 院長）：疣贅の病態と治療 第14回大阪皮膚疾患談話会 大阪（2013.04.20）
14. 山中恵一（三重大学皮膚科学講座 准教授）：乾癬治療における生物学的製剤の安全性 大阪乾癬治療講演会 大阪（2013.04.25）

15. 藤本 学 (金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚科学准教授) : 皮膚筋炎の自己抗体夫 UPDATE 第8回皮膚疾患 Update 大阪 (2013.05.24)
16. 鶴田大輔 (大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚病態学教授) : 類天疱瘡の基礎と臨床 第8回皮膚疾患 Update 大阪 (2013.05.24)
17. 本田まりこ (東京慈恵会医科大学葛飾医療センター皮膚科 教授) : 単純ヘルペスウイルス感染症について 学術講演会 大阪 (2013.05.25)
18. 岩月 啓 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科 教授) : 種痘様水疱症と蚊刺過敏症のEBウイルス感染リンパ球サブセットと予後を左右する再活性化シグナルについて 第5回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪 (2013.06.20)
19. 室田浩之 (大阪大学医学部皮膚科学教室 講師) : 暖かくなると現れるかゆみの理由 第12回皮膚科 EBM フォーラム 札幌 (2013.07.06)
20. 梶島健治 (京都大学大学院医学系研究科皮膚生命科学講座 准教授) : 汗が出ないにおきるコリン性蕁麻疹の不思議 第12回皮膚科 EBM フォーラム 札幌 (2013.07.06)
21. 森田栄伸 (島根大学医学部皮膚科学教室 教授) : あっと驚くアレルギーの原因～石鹼・牛肉による蕁麻疹 第12回皮膚科 EBM フォーラム 札幌 (2013.07.06)
22. 川村龍吉 (山梨大学医学部皮膚科学講座 講師) : 亜鉛欠乏と皮膚炎－その驚くべきメカニズム－ 第12回皮膚科 EBM フォーラム 札幌 (2013.07.06)
23. 游 理恵, 横関博雄 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科皮膚科学分野) : 蛋白抗原の経皮感作によるアナフィラキシー反応モデルマウスの樹立並びに機序の解明 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
24. 大橋威信, 山本俊幸 (福島県立医科大学医学部 皮膚科学講座) : ブレオマイシン誘導性強皮症モデルマウスにおけるLPA阻害薬の効果についての検討について 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
25. 高石樹朗, 樽谷勝仁, 佐野栄紀 (高知大学医学部 皮膚科学講座) : 腫瘍細胞への再プログラミング因子導入による間葉-上皮移行の誘導 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
26. 御守里絵, 朴 紀央, 井本恭子, 浅田秀夫 (奈良県立医科大学 皮膚科学) : 皮膚常在菌が表皮自然免疫応答に及ぼす影響と分子標的治療薬による蕁麻疹の発症機序 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
27. 田中まり, 金田眞理, 片山一朗 (大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻情報統合医学講座皮膚科学教室) : 新規外用剤開発における吸収試験～ラバマイシン外用剤について～ 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
28. 横関博雄 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野 教授) : 特別講演「原発性局所多汗症の病態解析」 第5回センターリサーチセミナー 大阪 (2013.08.04)
29. 李 丁範 (順天郷大学校 医学大学 生理学 教授) : Impaired sweating function in adult atopic dermatitis: results of the quantitative sudomotor axon reflex test 第3回汗と皮膚の研究会 東京 (2013.08.10)

30. 藤田浩之, 伊藤香世子, 侯 健全, 佐藤麻起, 和田秀文, 相原道子 (横浜市立大学大学院 医学研究科 環境免疫病態皮膚科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) Pazopanib により加療した悪性軟部腫瘍の2例 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
31. 富田 元, 鍋塚 大, 小池雄太, 浅井 幸, 小川文秀, 宇谷厚志 (長崎大学病院 皮膚科・アレルギー科), 谷岡未樹 (京都大学皮膚科学分野) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) Pazopanib が著効した血管肉腫の1例 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
32. 水谷建太郎, 秋田陽一, 柳下武士, 木下裕美, 中野章希, 玉田康彦, 松本義也, 渡辺大輔 (愛知医科大学皮膚科学教室), 木村 誠 (桐蔭横浜大学), 田中 徹 (SBI ファーマ) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) Bowen 病の光線力学的療法における excimer dye laser と metal halide lamp の比較試験 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
33. 橋本 彰, 日高高徳, 塚田 全, 藤村 卓, 渡部晶子, 相場節也 (東北大学大学院 医学研究科 医学部皮膚科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) 頭頸部皮膚悪性腫瘍におけるサイバーナイフの適応について 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
34. 森真理子, 中村善雄, 福田桂太郎, 舟越 建, 小黒草太, 屋代英樹, 中塚誠之 (慶應大学病院 皮膚科学教室・放射線科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) 進行期悪性黒色腫 多発肝転移に対し TACE を施行した1例 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
35. 高橋宏治, 尾松 淳, 小林ひかり, 大原國章, 吉野公二 (がん・感染症センター都立駒込病院・皮膚腫瘍科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) 進行期悪性黒色腫患者の発熱・炎症反応上昇時ににおける、プロカルシトニンの有用性についての検討 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
36. 長野 徹, 小谷晋平, 大森麻美子, 上野充彦, 小坂博志, 小川真希子, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 加藤大典 (神戸市立医療センター中央市民病院 皮膚科・乳腺外科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) 緩和的放射線治療とモーズ軟膏併用により局所コントロールを得た乳癌皮膚浸潤の2例 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
37. 岸 陽子 (厚木市立病院 形成外科) : 治療 (放射線療法, 薬物療法, 光力学療法) 仙骨部褥瘡から発生した扁平上皮癌患者に対するモーズペーストの使用経験 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.10)
38. 大久保ゆかり (東京医科大学医師・医学生支援センター 教授 皮膚科学講座 教授) : アカデミアの立場より~乾癬の病態からみた 治療ターゲットを考える~ 第28回日本乾癬学会学術大会 モーニングセミナー2 東京 (2013.09.07)
39. 高波景子, 松田賢一, 井上海平, 山田俊児, 谷田任司, 河田光博 (京都府立医科大学大学院・解剖学・生体構造科), 坂本浩隆, 佐藤慧太, 越智拓海, 坂本竜哉 (岡山大学大学院・自然学科研究科・理学部附属臨海実験所 / 共同利用拠点) : Histological analysis of gastrin-releasing peptide in the rat sensory system (ラット感覺神経における gastrin-releasing peptide の形態学解析) 23rd International Symposium of Itch (23回国際痒みシンポジウム) 大阪 (2013.10.26)
40. 鎌田弥生, 富永光俊, 梅原芳恵, 加茂敦子, 高森建二 (順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所) : Regulatory mechanisms of semaphorin 3A in normal human epidermal keratinocytes (正常ヒト表皮角化細胞における semaphorin3A の発現制御機構) 23rd International Symposium of Itch (23回国際痒みシンポジウム) 大阪 (2013.10.26)

41. 室田浩之（大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻情報統合医学講座皮膚科学教室）：The role of artemin in cetral nervous sensitization to warmth in atopic アトピー性皮膚炎の神経増感におけるアーテミンの役割 23rd International Symposium of Itch (23回国際痒みシンポジウム) 大阪 (2013.10.26)
42. 小川佳宏（リムズ徳島クリニック 院長）：リンパ浮腫の診断と治療 第10回中之島フットケアフォーラム 大阪 (2013.10.31)
43. 江藤隆史（東京通信病院皮膚科部長）：明るく診よう、アトピー性皮膚炎 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ランチョンセミナー5 名古屋 (2013.11.03)
44. 上出良一（東京慈恵会医科大学付属第三病院皮膚科 教授）：楽しく診よう、アトピー性皮膚炎 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ランチョンセミナー5 名古屋 (2013.11.03)
45. 宮地良樹（京都大学大学院医学系研究科皮膚生命科学講座（皮膚科学分野） 教授）：皮膚アレルギーをめぐる「とっておき」の話題 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 イブニングセミナー1 名古屋 (2013.11.02)
46. 片岡葉子（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科 主任部長）：TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー－小児における意義と活用－ 第7回関西P&Dアトピー性皮膚炎治療フォーラム 大阪 (2013.11.14)
47. 久保宜明（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部皮膚科学 教授）：皮膚腫瘍性病変の基礎と臨床～乾癬での表皮肥厚との対比を含めて～ Hot topics in dermatology 大阪 (2013.11.22)
48. 太田伸夫, 鈴木祐輔, 倉上知也（山形大学医学部耳鼻咽喉頭頸部外科）：アレルギー疾患と薬物療法（ステロイド, 抗ヒスタミン薬, 抗ロイコトリエン薬）～鼻噴霧ステロイド薬～ 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 東京 (2013.11.28-30)
49. 白崎英明（札幌医科大学医学部耳鼻咽喉科）：アレルギー疾患と薬物療法（ステロイド, 抗ヒスタミン薬, 抗ロイコトリエン薬）～抗ロイコトリエン薬～ 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 東京 (2013.11.28-30)
50. 川島 真（東京女子医科大学医学部）：アレルギー疾患と薬物療法（ステロイド, 抗ヒスタミン薬, 抗ロイコトリエン薬）～皮膚疾患治療における抗ヒスタミン薬の選択と使用法 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 東京 (2013.11.28-30)
51. 山中恵一（三重大学 皮膚科学講座）：かゆみの治療戦略～「AD患者の搔破行動の評価と搔破を止める意義」 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 イブニングセミナー2 石川 (2013.11.30)
52. 加藤則人（京都府立医科大学 皮膚科学教室）：かゆみの治療戦略～「小児アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランスを高めるために」 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 イブニングセミナー2 石川 (2013.11.30)
53. 東 禹彦（東皮フ科医院 院長）：爪のケア 第9回大阪スキンケア研究会 大阪 (2013.12.12)
54. 錦織千佳子（神戸大学大学院医学研究科内科系講座皮膚科学分野 教授）：光アレルギー臨床 第19回ギンナン皮膚科談話会 大阪 (2013.12.21)

2013年 学会発表

[国際学会] (アルファベット順)

1. Arase N, Tanemura A, Katayama I: Three cases having both vitiligo and psoriasis, which are associated with autoimmune disease. 9th Asian Dermatological Congress, HongKong, China (2013.07.10-13)
2. Azukizawa H: A case of TEN induced by aspirine World SCAR joint meeting Keelung Chang Gung Memorial Hospital, Taiwan (2013.11.15)
3. Azukizawa H: Utility of Lymphocyte transformation test demonstrated by flow cytometry. The 8th International Congress of Cutaneous Adverse Reactions. Chang Gung University, Taiwan (2013.11.16-17)
4. Hayashi M, Tanemura A, Katayama I, Matsuda K, Hosokawa K, Izumi M, Ohara K, Martin C. Mihm Jr: A Rare Atypical Melanocytic Tumor Arising in Association with Atopic Dermatitis. 8th World Congress of Melanoma, Hamburg, Germany (2013.07.17-20)
5. Kotobuki Y, Yang L, Wataya-Kaneda M, Tsuruta D, Tanemura A, Tanaka M, Ishii M, Katayama I: Hypopigmentation in Tuberous Sclerosis Complex is Possibly Associated with Lesional Th17 Cell Infiltration and Up-regulation of Cytoplasmic Autophagy via mTOR pathway. International Investigative Dermatology, Edinburgh, Scotland (2013.05.08-11)
6. Matsui S, Murota H, Yang L, Omiya K, Ohmi M, Kikuta J, Ishii M, Katayama I: Histamine attenuates acetylcholine-mediated sweating by inactivating GSK3 β via H1-receptor mediated pathway. International Investigative Dermatology, Edinburg, Scotland (2013.05.08-11)
7. Murota H: Topical cholesterol application ameliorates hapten-evoked cutaneous hypersensitivity by sustaining expression of 11bHSD-1 in epidermis. International Investigative Dermatology, Edinburgh, Scotland (2013.05.08-11)
8. Murota H: The effect of Excimer light on hyperesthesia in atopic dermatitis. 7th World Congress on Itch BOSTON, America (2013.09.21-23)
9. Tahara M, Matsui S, Hanafusa T, Nishioka M, Kitaba S, Terao M, Azukizawa H, Tani M, Murota H, Katayama I: Clinical analysis of senile erythroderma: independency of elderly atopic dermatitis. The 9th Asian Dermatological Congress, Hong Kong, China (2013.07.10-13)
10. Tanaka A, Nishioka M, Yamada M, Tanemura A, Sakaguchi S, Katayama I: The Expression Analysis for Cancer-Testis Antigens in Asian Patients with Cutaneous Malignancies. 8th World Congress of Melanoma, Hamburg, Germany (2013.07.17-20)
11. Tanaka M, Wataya-Kaneda M, Tanemura A, Kotobuki Y, Itoi S, Nakamura A, Matsumoto M, Katayama I: Topical rapamycin therapy is effective against hypomelanotic macules arising in tuberous sclerosis complex: a prospective self-controlled study. 6th International Investigative Dermatology, Edinburgh, UK (2013.05.08-11)
12. Tanemura A, Kiyohara E, Nishioka M, Yamada M, Tanaka A, Yokomi A, Katayama I, Saito A, Daimon T, Lee CM, Myoui A, Sakurai T, Kawakami Y: A Clinical Study Using the Hemagglutinating Virus of Japan-Envelope on Patients with Progressive Malignant Melanoma. 8th World Congress of Melanoma, Hamburg, Germany

(2013.07.17-20)

13. Tani M, Itoi-Ochi S, Yamaoka T, Terao M, Katayama I: Clinical consideration of the elevation of serum anti-double strand DNA antibody after antitumor necrosis factor-alfa therapy. 9th Asian Dermatological congress Hong Kong, China (2013.07.10-13)
14. Terao M, Kato A, Yutani M, Murota H, Miyoshi E, Katayama I: Oligosaccharide modification by N-acetylglucosaminyltransferase-V promotes skin sclerosis by inducing macrophages to shift toward M2. 2013 International Investigative Dermatology Meeting, Edinburgh, Scotland (2013.05.08-11)
15. Terao M, Murota H, Katayama I: Expression profiles of cortisol inactivating enzyme, 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 and 2 in human epidermal tumors and its role in keratinocyte proliferation. 1st Dermatoendocrinology Meeting, Edinburgh, Scotland (2013.05.07)
16. Umegaki N, Guo Z, Itoh M, Anna M.G. Pasmooij, Marcel F. Jonkman, Angela M. Christiano: Generation of induced pluripotent stem cells from revertant mosaic keratinocytes: A novel strategy for natural gene therapy for epidermolysis bullosa IID. 2013
17. Umegaki N, Guo Z, Itoh M, Antoni H. Gostynski, Anna M.G. Pasmooij, Marcel F. Jonkman, Angela M. Christiano: Generation of induced pluripotent stem cells from revertant mosaic keratinocytes and fibroblasts. IID Satellite Meeting, Genetic Skin Disease-Discovery and Recovery (Dundee). (2013.05.05-08)
18. Wataya-Kaneda M: Dermatological manifestations of TSC. Second annual TSC days Geneva, Switzerland (2013.03.22-23)
19. Wataya-Kaneda M: Facial angiofibroma of TSC. Second annual TSC days Geneva, Switzerland (2013.03.22-23)
20. Wataya-Kaneda M: Study: Giant Collagenoma Associated With TSC. Second annual TSC days Geneva, Switzerland (2013.03.22-23)
21. Nishida T, Takahashi T, Wataya-Kaneda M, et. al: Gastrointestinal Stromal Tumor Associated with Neurofibromatosis Type I 2013 annual meeting of American Society of Clinical Oncology Chicago, Illinois (2013.05.31-06.04)
22. Yamaga K, Murota H, Katayama I: The impact of capsazepine on artemin-induced thermal hyperalgesia. 7th World Congress on Itch, Boston, America. (2013.09.21-23)
23. Yamaoka T, Doi C, Yokomi A, Tanemura A, Murota H, Tani M, Katayama I: Rapidly progressive interstitial lung disease and advanced gastric cancer in a patient with anti-melanoma differentiation-associated protein 5 (MDA 5) antibody-positive dermatomyositis: a case report. The 9th Asian Dermatological Congress, Hong Kong, China (2013.07.10-13)
24. Yang L, Murota H, Serada S, Fujimoto M, Yang F, Naka T, Katayama I: Up-regulation of CXCR2 ligands by cold stimulation in human dermal microvascular endothelial cells: a role in livedo reticularis with winter ulceration. 9th Asian Dermatological Congress, Hong Kong, China (2013.07.10-13)
25. Yang L, Murota H, Katayama I: Upregulation of periostin by histamine via ERK1/2 pathway is essential for histamine-induced collagen production in dermal fibroblasts. International Investigative Dermatology, Edinburgh, Scotland (2013.05.08-11)

[国内学会・研究会] (五十音順)

1. Jin H, Arase N, Kohyama M, Saito F, Hirayasu K, Matsumoto M, Shida K, Suenaga T, Saito T, Katayama I, Lanier, L.L, Arase H: IgG heavy chain presented on HLA-DR is associated with rheumatoid arthritis susceptibility. 第42回日本免疫学会学術集会 千葉 (2013.11.11-13)
 2. Tanimura K, Suenaga T, H.Jin, Hirayasu K, Arase N, Kohyama M, Ebina Y, Yasuda S, Hirota T, Katayama I, Atsumi T, Yamada H, Arase H: b2-glycoprotein I presented on MHC class II molecules are recognized by autoantibodies in antiphospholipid syndrome. 第42回日本免疫学会学術集会 千葉 (2013.11.11-13)
 3. Murota H: Artemin is involved in the mechanism of central sensitization to thermal nociception and itch. 国際かゆみシンポジウム (2013.10.26)
 4. Sugiyama D¹⁾, Nishikawa H¹⁾, Maeda Y¹⁾, Nishioka M^{1,2)}, Tanemura A²⁾, Katayama I²⁾, Ezoe S³⁾, Sato E⁴⁾, Fukumori Y⁵⁾, Julia K⁶⁾, Elke J⁶⁾, Sakaguchi S¹⁾, Experimental Immunology, WPI Immunology Frontier Research Center¹⁾, Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University²⁾, Department of Hematology, Graduate School of Medicine, Osaka University³⁾, Department of Anatomic Pathology, Tokyo Medical University⁴⁾, kinki Blood Center⁵⁾, Hamatologie-Onkologie Krankenhaus Nordwest⁶⁾: Anti-CCR4 mAb selectively depletes effector-type FoxP3⁺ CD4⁺ regulatory T cells and augments anti-tumor immune responses in humans: Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 2013 Chiba (2013.12.11-13)
 5. Tanemura A, Kiyohara E, Myoui A, Kawakami Y. A Clinical Study Using the Hemagglutinating Virus of Japan-Envelope on Patients with Progressive Malignant Melanoma. 第72回日本癌学会学術総会 横浜 (2013.10.03-05)
 6. Yang L, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Yang F, Tanemura A, Tateishi C, Tsuruta D, Ishi M, Katayama I. Reduction of autophagy: a potential mechanism of hypopigmented macules in tuberous sclerosis complex. 第25回日本色素細胞学会学術大会. 国際シンポジウム 大阪 (2013.11.16-17)
1. 糸井沙織, 山岡俊文, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: 生物学的製剤投与中に抗 dsDNA 抗体の変動がみられた3症例の臨床的検討. 第36回皮膚膠原病脈管研究会 大阪 (2013.01.25-26)
 2. 越智沙織, 寺尾美香, 横見明典, 井川 健, 谷 守, 金田真理, 吉良正浩, 片山一朗: Superimposed Porokeratosis と考えた5例の臨床的検討. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
 3. 越智沙織, 寺尾美香, 室田浩之, 片山一朗: 皮膚炎症における 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 (11 β -HSD1) の役割. 第10回天王山カンファレンス 京都 (2013.10.19)
 4. 小野慧美, 室田浩之, 金子 栄, 松井佐紀, 北場 俊, 片山一朗: アトピー性皮膚炎患者を対象とした発汗に関する実態調査アンケート. 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会 横浜 (2013.05.12)
 5. 小野慧美, 松村智加, 松井佐紀, 木嶋晶子, 北場 俊, 室田浩之, 片山一朗: 大阪大学皮膚科における口腔アレルギー症候群 (OAS) の検討. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
 6. 小野慧美, 松村智加, 松井佐紀, 木嶋晶子, 北場 俊, 室田浩之, 片山一朗: 口腔アレルギー症候群 (OAS) の診断における免疫プロット, ELISA, immunoCAP, プリックテストの有用性に関する症例集積検討. 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 石川 (2013.11.29-12.01)
 7. 片山一朗: 花粉症と皮膚のアレルギー 教育講演. 第31回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 倉敷 (2013.02.07-09)

8. 片山一朗：アレルギー疾患と薬物療法（ステロイド，抗ヒスタミン薬，抗ロイコトリエン薬）～抗アレルギー薬：ヒスタミンのあらたな生物作用と服薬アドヒアランスの重要性. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 東京 (2013.11.28-30)
9. 片山一朗：今，化粧品に求められる安全性とは？. 日本動物実験代替法学会 第26回大会 京都 (2013.12.19-21)
10. 加藤健一，井上知子，田中 文，谷 守，横見明典，小豆澤宏明，種村 篤，片山一朗（大阪大）：抗CCR4抗体療法を施した成人T細胞リンパ腫／白血病の3例. 西部支部総会 鹿児島 (2013.11.09)
11. 加藤健一，井上知子，北場 俊，小豆澤宏明，横見明典，谷 守，片山一朗（大阪大）：Stevens-Johnson症候群，薬剤性過敏症症候群が疑われたラモトリギンによる薬疹の1例. 第43回皮膚アレルギー学会，石川 (2013.12.01)
12. 金田眞理：結節性硬化症の症状とシロリムス局所療法治療 厚生労働科学研究研究費補助金難治性疾患克服研究事業 リンパ脈管筋腫症に対するシロリムスの安全性確立のための医師主導治験. 平成25年度班会議 東京 (2013.01.12)
13. 金田眞理：大阪大学皮膚科における結節性硬化症の現状. Tuberous Sclerosis Complex Conference 大阪 (2013.02.04)
14. 金田眞理，田中まり，中村 歩，松本章司，片山一朗：結節性硬化症のmTOR阻害剤（ラパマイシン）による治療. 茨城地方会 茨城 (2013.03.09-10)
15. 金田眞理：結節性硬化症の皮膚症状と治療法. 第1回 GSKINセミナー in 仙台 仙台 (2013.05.30)
16. 金田眞理：皮膚科からみた結節性硬化症. 第80回大阪小児神経学懇話会 (2013.05)
17. 銭谷昌弘，大植孝治，中島賢吾，奈良啓悟，上野豪久，上原秀一郎，曹 英樹，金田眞理，堀由美子，倉重真沙子，森井栄一，臼井規朗：結節性硬化症に伴う巨大腹壁皮下腫瘍の2例. 第50回日本小児外科学会学術集会 東京 (2013.06.01)
18. 中西 元，尾北麻悠子，藤本徳毅，塙見真理子，山田 琢，金田眞理，横山葉子，春原晶代，田中俊宏：色素失調症10家系におけるNEMO遺伝子のエクソン4-10欠失の検索. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14)
19. 金田眞理：結節性硬化症の最近の症状の特徴と新規診断基準. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14)
20. 金田眞理：皮膚科からみた結節性硬化症. 日本小児皮膚科学会 東京 (2013.07.15)
21. 金田眞理：大阪大学における各科からみた結節性硬化症の治療戦略. TSC-Meet the Expert. 大阪 (2013.07.27)
22. 金田眞理：結節性硬化症の新規治療. 日本結節性硬化症学会 第1回学術総会 (2013.11.01)
23. 金田眞理：遺伝性疾患の皮膚症状. 北大阪先天性代謝異常症ミーティング (2013.11)
24. 金田眞理：結節性硬化症の白斑. 厚生労働科学研究研究費補助金難治性疾患克服研究事業 白班究班 平成25年度総会 (2013.11.14)

25. 金田眞理：包括的な結節性硬化症診療に向けた診療科・施設を超えた取り組み. TSC Days Japan 2013 東京 (2013.12.07)
26. 神谷 智, 庄田裕紀子：転移性結核性膿瘍の1例. 第436回大阪地方会 大阪 (2013.03.23)
27. 壽 順久：動脈性循環障害による皮膚症状の診断と治療－現場からの提言－. 第76回日本皮膚科学会東京支部学術大会 東京 (2013.02.17)
28. 小紫雄貴, 小野慧美, 花房崇明, 吉岡華子, 小豆澤宏明, 片山一朗, 中野智香子, 岩谷博次, 猪阪善隆：経過中に網状皮斑, 高γグロブリン血症性紫斑, 腎炎を認めたHenoch-Schoenlein紫斑病の1例. 近畿皮膚科集談会 大阪 (2013.07.21)
29. 小紫雄貴, 橋本典子, 林 美沙, 吉岡華子, 山岡俊文, 小豆澤宏明, 片山一朗：少量のステロイド内服とミゾリビンが奏功した難治性水疱性類天疱瘡の1例. 第19回ギンナン皮膚科 大阪 (2013.12.21)
30. 田中 文, 辻 知江, 種村 篤, 片山一朗, 藤井秀孝：集簇性に発生し肉眼的に多発したALM in situの一例. 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.09-10)
31. 田中 文：足底の黒色斑の2例. 第11回なにわ皮膚腫瘍勉強会 大阪 (2013.10.11)
32. 種村 篤：尋常性白斑の病態と我々の新しい知見. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
33. 種村 篤, 清原英司, 西岡めぐみ, 山田瑞穂, 田中 文, 片山一朗, 斎藤充弘, 大門貴志, 李 千萬, 名井 陽：進行性悪性黒色腫患者に対するヒトセンダイウイルスベクター(HVJ-E)を用いた臨床研究. 第29回日本皮膚悪性腫瘍学会 甲府 (2013.08.09-10)
34. 種村 篤：ヒトセンダイウイルスベクター(HVJ-E)の抗腫瘍効果および進行性悪性黒色腫症例への臨床応用. 第77回日本皮膚科学会東部支部学術大会 大宮 (2013.09.21-22)
35. 種村 篤, 楢 怜剛, 金田眞理, 深井和吉, 鶴田大輔, 片山一朗：ロドデノール含有化粧品使用後白斑における炎症性変化からの病態検討. 第25回日本色素細胞学会学術大会 大阪 (2013.11.16-17)
36. 種村 篤：ベセルナが著効を示した症例の提示－日光角化症を中心に－. 北摂ベセルナ講演会 大阪 (2013.12.19)
37. 田原真由子, 松井佐起, 木嶋晶子, 北場 俊, 小豆澤宏明, 谷 守, 室田浩之, 片山一朗：高齢者紅皮症とアトピー素因との関係. 第25回日本アレルギー学会春期臨床大会 横浜 (2013.05.11-12)
38. 田原真由子, 松井佐起, 木嶋晶子, 北場 俊, 小豆澤宏明, 谷 守, 室田浩之, 片山一朗：アトピー性皮膚炎の診断基準から見た高齢者紅皮症の臨床的検討と問題点. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
39. 田原真由子, 室田浩之, 永田由子, 高橋 彩, 松井佐起, 寺尾美香, 片山一朗：アトピー性皮膚炎, 結節性痒疹に対するエキシマ光線療法の治療効果. 第23回国際痒みシンポジウム 大阪 (2013.10.26)
40. 中島貴美子, 高石樹朗, 寺尾美香, 片山一朗, 佐野栄紀：表皮細胞特異的セラミド合成酵素ノックアウトマウスはIL-23依存的 $\gamma\delta$ -IL-17細胞増加と乾癬様病変を呈する. 第28回角化症研究会 東京 (2013.07.27)

41. 油谷美寿季, 寺尾美香, 加藤亜里沙, 室田浩之, 片山一朗, 三善英知: Oligosaccharide modification by N-acetylglucosaminyltransferase-V promotes skin sclerosis by inducing macrophages to shift toward M2. 第 86 回 日本生化学会 横浜 (2013.09.11-13)
42. 西岡めぐみ, 山田瑞穂, 田中 文, 種村 篤, 坂口志文, 片山一朗: 皮膚悪性腫瘍に対する免疫療法. OA 会 (2013.02.02)
43. 西岡めぐみ, 西川博嘉, 種村 篤, 片山一郎, 坂口志文: 尋常性白斑における免疫応答の検討. 第 2 回 Crosstalk OSAKA 大阪 (2013.03.23)
44. 橋本典子, 吉岡華子, 田中 文, 山岡俊文, 種村 篤, 小豆澤宏明, 片山一朗: アクテムラ投与中に壞死性筋膜炎を発症した一例. 第 439 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2013.10.12)
45. 花房崇明, 山賀康右, 小豆澤宏明, 種村 篤, 片山一朗, 新居卓朗, 西出真之: ステロイド漸減中に GVH 様皮膚反応を認めた成人 Still 病の一例 – 免疫再構築症候群の可能性についての検討 –. 第 36 回 脈管膠原病研究会 大阪 (2013.01.25-26)
46. 林 美沙, 越智沙織, 山岡俊文, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: 内服治療へのスイッチにより著効した paradoxical reaction の 2 例. 第 28 回日本乾学会学術大会 東京 (2013.09.06-07)
47. 林 美沙, 越智沙織, 山岡俊文, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: ツベルクリン反応施行後急性増悪した 膜胞性乾癬の 1 例. 65 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 鹿児島 (2013.11.09-10)
48. 廣畑彩希, 林 美沙, 山岡俊文, 油谷美寿季, 小紫雄貴, 神谷 智, 種村 篤, 谷 守, 室田浩之, 片山一朗 (大阪大学皮膚科), 滝尻珍重 (市立吹田市民病院皮膚科): 立位により誘発された下肢蕁麻疹の 1 例. 第 440 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2013.12.07)
49. 村上有香子, 金田眞理, 田中まり, 高橋 彩, 辻村 晃, 井上幸治, 野々村祝夫, 片山一朗: Birth-Hogg-Dube syndrome の 2 例. 第 64 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 名古屋 (2013.11.02-03)
50. 室田浩之: 温度と末梢循環障害: 潰瘍を伴う網状皮斑の病態. 皮膚脈管膠原病研究会 大阪 (2013.01.25-26)
51. 室田浩之: アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗と温度に関する最近の知見. 神奈川アレルギーセミナー 神奈川 (2013.03.03)
52. 室田浩之: アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗と温度に関する最近の知見. 仙台アレルギー講習会 仙台 (2013.03.09)
53. 室田浩之: アトピー性皮膚炎治療アップデート～患者さんに勧めたい 3 カ条～. 品川小児アレルギーフォーラム 東京 (2013.03.16)
54. 室田浩之: アトピー性皮膚炎と汗: 発汗は増悪因子か?. 日本臨床皮膚科医会総会 名古屋 (2013.04.06-07)
55. 室田浩之: アトピー性皮膚炎: 成人. 小児アトピー性皮膚炎フォーラム 東京 (2013.04.12)
56. 室田浩之: アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗に関する最近の知見. 小児アレルギーセミナー 東京 (2013.04.13)

57. 室田浩之：アトピー性皮膚炎日常診療トピックス－汗と温度に関する最近の知見－. 第 63 回群馬実地皮膚科医会 群馬 (2013.06.09)
58. 室田浩之：アトピー性皮膚炎日常診療トピックス：汗と温度に関する最近の知見. 兵庫食物アレルギー研究会 兵庫 (2013.06.13)
59. 室田浩之：薬剤による発汗の制御：無汗症治療の現状と未来. 日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14)
60. 室田浩之：アレルギー性皮膚疾患の治療戦略. 日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14)
61. 室田浩之：アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗に関する最近の知見. 滋賀皮膚科医会 滋賀 (2013.06.20)
62. 室田浩之：おもしろ臨床皮膚科学 暖かくなると現れるかゆみの理由. 皮膚科 EBM フォーラム 札幌 (2013.07.06)
63. 室田浩之：アトピー性皮膚炎における発汗障害：汗を知り，汗に向き合う. 第 37 回日本小児皮膚科学会学術大会 東京 (2013.07.13)
64. 室田浩之：アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗と温度に関する最近の知見. 浦和皮膚科医会 浦和 (2013.07.17)
65. 室田浩之：アレルギー性皮膚炎トピックス. 京都臨床皮膚懇話会 京都 (2013.07.25)
66. 室田浩之：アトピー性皮膚炎指導箇ブラッシュアップ！恒常性を維持するスキンケアのコツ. 札幌皮膚科医会 札幌 (2013.07.26)
67. 室田浩之：アトピー性皮膚炎日常診療トピックス・汗と温度に関する最近の知見. 尼崎皮膚科医会 尼崎 (2013.08.01)
68. 室田浩之：発汗を制御する因子の探索：汗腺の動態観察から見えたもの. 日本発汗学会 長野 (2013.08.29)
69. 室田浩之：アトピー性皮膚炎指導箇ブラッシュアップ！恒常性を維持するスキンケアのコツ. 岩手皮膚科医会 岩手 (2013.10.10)
70. 室田浩之：その他の血管炎・血管症診療の医療の質を測る：Quality Indicator の国際動向と展望. 日本皮膚科学会中部支部総会 名古屋 (2013.11.01-02)
71. 室田浩之：アトピー性皮膚炎アップデート 悪化因子対策. 広島皮膚科医会 広島 (2013.11.08)
72. 室田浩之：アトピー性皮膚炎指導箇ブラッシュアップ！恒常性を維持するスキンケアのコツ. 長久手皮膚科セミナー 愛知 (2013.11.13)
73. 室田浩之：アトピー性皮膚炎指導箇ブラッシュアップ！恒常性を維持するスキンケアのコツ. 第 11 回 PANDAK 大阪 (2013.11.14)
74. 室田浩之：発汗機能からみた乳幼児と成人のアトピー性皮膚炎. 日本アレルギー学会秋季学術大会 東京 (2013.11.28-12.01)

75. 山岡俊文：全身性エリテマトーデスを疑われ当科に紹介された HIV 感染症の 1 例. 第 14 回大阪皮膚疾患談話会 大阪 (2013.04.20)
76. 山岡俊文：乾癬でみられる症状が QOL、労働能率に与える影響. 第 6 回関西皮膚科 Biologics 研究会 大阪 (2013.06.06)
77. 山賀康右、山岡俊文、小豆澤宏明、横見明典、片山一朗、藤田征巳：経腔エコー、造影 CT で診断に至らなかつた皮膚筋炎に合併する卵巣癌の 1 例. 第 36 回皮膚脈管膠原病研究会 大阪 (2013.01.25-26)
78. 山賀康右、室田浩之、西岡めぐみ、片山一朗：両下肢対称性に認めた Pasini-Pierini 型進行性特発性皮膚萎縮症の 1 例. 第 435 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2013.02.09)
79. 山賀康右、荒瀬規子、花房崇明、山岡俊文、小豆澤宏明、片山一朗：アスピリンが原因と考えられた中毒性表皮壊死症の 1 例. 第 437 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2013.05.18)
80. 山賀康右、藤盛裕梨、吉岡華子、小豆澤宏明、片山一朗：Stevens-Johnson 症候群を再発した若年女性例. 第 43 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 石川 (2013.11.29-12.01)
81. 吉岡華子、谷 守、加藤健一、片山一朗、田邊 洋、安水良知、和田直樹、池田純一郎、森井英一、森本 壮：眼瞼腫瘍を形成した Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm の疑い例. 第 29 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 甲府 (2013.08.09-10)
82. 吉岡華子、金田眞理、片山一朗、中野 創、澤村大輔：部分的な無汗を認めた低（無）汗性外胚葉形成不全症の一例. 第 64 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 名古屋 (2013.11.02-03)

2013年 報告書

[研究報告書] (五十音順)

1. 小豆澤宏明：創薬基盤推進 生分解性マイクロニードルを応用した画期的「貼るワクチン製剤」の開発と実用化に資する研究の総合的推進 厚生労働科学研究費補助金 平成24年度 総括分担研究報告書 50-5 2013
2. 小豆澤宏明：重症蕁瘍患者のT細胞受容体レパートリー解析 創薬基盤推進 重症蕁瘍の病態解明及び発症予測、重症度予測マーカーの検索 厚生労働科学研究費補助金 平成24年度 総括分担研究報告書 20-2 2013
3. 片山一朗、室田浩之、寺尾美香：スキンケア外用薬のアレルギー発症予防に対する基礎的・疫学的検討 適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー疾患分野 研究報告会抄録集 7 2013
4. 片山一朗：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー疾患分野 研究報告会抄録集 99-101 2013
5. 片山一朗、室田浩之、北場俊、松井佐起、小野慧美：口腔アレルギー症候群（花粉-食物アレルギー症候群）に対する各種検査法の有用性についての検討 生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー疾患分野 研究報告会抄録集 143 2013
6. 片山一朗、室田浩之：アトピー性皮膚炎でみられる痒み過敏選択性治療戦略の確立にむけて アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 免疫アレルギー疾患分野 研究報告会抄録集 171 2013
7. 片山一朗、金田眞理：結節性硬化症の白斑（色素異常班） 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 総括・分担研究報告書 95-8 2013
8. 片山一朗・室田浩之：アトピー性皮膚炎でみられる痒み過敏選択性治療戦略の確立にむけて アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業(免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業) 総括・分担研究報告書 22-5 2013
9. 片山一朗：適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究 適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究 平成22-24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 総合研究報告書 23-30 2013
10. 片山一朗：口腔アレルギー症候群（花粉-食物アレルギー症候群）に対する各種検査法の有用性についての検討 生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等予防・治

療研究事業) 総括・分担研究報告書 18-20 2013

11. 片山一朗：適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究 適切なスキンケア、薬物治療方法の確立とアトピー性皮膚炎の発症・増悪予防、自己管理に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 総括・分担研究報告書 26-9 2013
12. 片山一朗：癌特異性アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床治験による実用化開発に関する研究 平成24年度厚生労働科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 総括研究報告書 1-5 2013
13. 片山一朗：重症薬疹におけるB細胞分画の解析 創薬基盤推進 重症薬疹の病態解明及び発症予測、重症度予測マーカーの検索 厚生労働科学研究費補助金 平成24年度 総括分担研究報告書 8-10 2013
14. 金田眞理：結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化 平成24年度 総括研究報告書 1-10. 2013
15. 金田眞理：結節性硬化症の白斑 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成24年度総・分担研究報告書 95-8 2013
16. 片山一朗、金田眞理、田中まり：結節性硬化症の顔面血管線維腫の治療 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成24年度 総括・分担研究報告書 95-8 2013
17. 玉井克人、金田安史、片山一朗、金田眞理、金倉謙、出澤真理、早川暁夫：表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究 平成24年度 総括研究報告書 1-10. 2013
18. 種村篤：癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床治験による実用化開発 厚生労働科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 平成24年度 総括研究報告書 1-5, 2013
19. 種村篤：尋常性白斑病変における細胞浸潤パターンの検討および樹状細胞活性化機序の解明 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究班 平成24年度 総括・分担研究報告書 81-4, 2013
20. 室田浩之：特発性後天性全身性無汗症の病態メカニズム解明にむけて：化学伝達物質と神経伝達物質の関与 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究班 平成24年度 総括・分担研究報告書 61-4 2013
21. 室田浩之：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する研究 平成24年度報告書 第2分冊 396-9 2013

2013年 受賞

[受 賞] (五十音順)

1. 金田眞理：大阪大学総長顕彰（2013.8.2）
2. 室田浩之：第14回ガルデルマ賞「アーテミンはアトピー性皮膚炎で見られる温熱誘発性?痒症に似た皮膚の温熱感覚過敏を誘発する」
3. 楊 伶俐：財団法人日本リディオリリー協会外国人留学生奨学金（2013.2.17）

2013年 その他

[その他]

1. 片山一朗：アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2012. TOPIX info Allergy. 2013;68:1
2. 片山一朗：会長講演 生体の恒常性とアレルギー マルホ皮膚科セミナー [ラジオ NIKKEI] 放送集
マルホ株式会社 2013;No.223 4-8 大阪
3. 座長 片山一朗：製造販売後の皮膚障害発現状況と対応 学術講演会 大阪 (2013.02.23)
4. コメンテーター 片山一朗：第2回 Crosstalk OSAKA : 2013 大阪 (2013.03.23)
5. 片山一朗：世話人；第5回関西皮膚自己免疫疾患談話会 (2013.06.21)
6. 片山一朗：アトピー発症仕組みを解明 新たな治療法の可能性 神戸新聞 (2013.08.06)
7. 片山一朗：アレルギー疾患と薬物療法（ステロイド、抗ヒスタミン薬、抗ロイコトリエン薬）～薬物治療の意義を新たな視点から論議 特別編集版 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会 (2013.11.28)

教室員紹介 大阪大学大学院医学系研究科 皮膚・毛髪再生医学寄附講座

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費

板見 智
寄附講座教授
日本皮膚科学会専門医
基盤研究C, 平成23~25年度, 皮膚再生機構の解明 - 毛包細胞内シグナル伝達機構の解析-, 代表
基盤研究C, 平成24~26年度, 毛の発生と維持にレチノイン酸はどう関わるか?, 分担
基盤研究C, 平成23~25年度, 細胞膜-核内シャトル分子 Hic-5 の皮膚創傷治癒における役割の解明, 分担



受賞等
学会関係役員

日本美容皮膚科学会理事, 日本臨床毛髪学会顧問, 毛髪科学研究会副代表世話人, 表皮細胞研究会世話人, 日本研究皮膚科学会評議員, 日本抗加齢医学会評議員
Experimental Dermatology Editorial Board, F1000Research Editorial Board

大学, 病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ
一言

脱毛症外来1

学会発表: 国内6件

論文: 英文9件, 英文総説2件, 和文総説2件, 和文著書2件

Plos One 1, Experimental Dermatology 4, Journal of Investigative Dermatology 4
毛の細胞生物学, 皮膚幹細胞, 皮膚疾患モデルマウス, ステロイドホルモン作用機構
脱毛症外来への年間紹介患者数は年間300~350名である。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員

乾 重樹
寄附講座准教授
日本皮膚科学会専門医, 日本抗加齢医学会専門医, 日本禿瘡学会認定師(医師), 日本臨床毛髪学会認定医, 日本がん治療認定医
機構暫定教育医
文部科学省科学研究費 (主任・分担)



日本臨床毛髪学会理事, 日本研究皮膚科学会評議員,
日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議員, 広報委員, 学術教育委員, 日本美容皮膚科学会評議員, 日本美容皮膚科学会雑誌 Aesthetic Dermatology 編集委員, 広告に関する小委員会委員, 日本美容皮膚科学会雑誌利益相反委員長
日本禿瘡学会評議員, 日本アレルギー学会代議員, 日本抗加齢医学会評議員, 社団法人 生産技術振興協会 ナノ技術応用分科会推進委員, 日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会パッチテスト試薬研究班委員, 日本アレルギー学会専門医制度試験問題作成常任委員, Editorial-in-Chief, Hair: Therapy & Transplantation, Editorial-in-Chief, The Open Allergy Journal, Editorial Board, Hair: Therapy & Transplantation, Editorial Board, The Open Allergy Journal, Editorial Board, ISRN Dermatology, Editorial Board, Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications, Editorial Board, Case Reports in

大学、病院の運営委員	Dermatological Medicine, Associated Faculty member of F1000 (Post-publication peer review), 大阪スキンケア研究会 世話人, 大阪乾癬患者友の会 相談医, 日本円形脱毛症コミュニケーション（円形脱毛症患者会）協力医師
医局内委員	保健医療ネットワーク部委員
外 来 関 係	庶務係
受け持ち入院患者	脱毛症外来, 接触皮膚炎外来, 高度救命センタースキンケア・褥瘡回診
手 術 数	高度救命センター回診にて関与した
0	
学 生 講 義	医学部 1, 薬学部 2
業 績	学会発表：海外 3 件 (The 71th Annual Meeting of American Academy of Dermatology 2 件, The 7th World Congress of Hair Research) 国内 12 件 論文発表：英文 11 件 和文 13 件
論 文 査 読	Journal of Dermatology 13 件, Journal of Dermatological Science 5 件, Expert Review of Dermatology 2 件, Exp Dermatol 3 件, J Invest Dermatol 3 件, Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology 1 件, BBRC 2 件, Clin and Exp Dermatol 1 件, Journal of European Academy of Dermatology Venereology 1 件, Acta Dermato-Venereologica 1 件, Int J Mol Med 1 件, J Cosmet Dermatol Sci Appl 5 件, Case Reports in Dermatological Medicine 7 件, ISRN Dermatology 6 件, Saudi Medical Journal 1 件, Clinical, Cosmetic and Investigational Dermatology 2 件, Journal of Biomechanics 1 件, Clinical Interventions in Aging 1 件, MICS PUBLISHING GROUP/Clinical 2 件, 日本美容皮膚科学会雑誌 3 件
研究テーマ	毛髪疾患の基礎から臨床のあらゆる面に興味があり, 研究しております.
一 言	お困りの脱毛症症例いつでもご紹介下さい.

氏 名	野口 史人	
職 名	助教	
専門医資格	皮膚科専門医	
省庁研究費		
受賞等		
学会関係役員		
大学、病院の運営委員		
医局内委員		
外 来 関 係	脱毛外来（水牛後）	
受け持ち入院患者		
手 術 数	0	
学 生 講 義		
業 績	学会発表：海外 1 件 (World Congress of Hair Research) 国内 1 件 論文発表：英文 0 件 和文 0 件	
論 文 査 読	Journal of Dermatology 1 件	
研究テーマ	・表皮特異的 MED1 ノックアウトマウスにおける創傷治癒・メラノーマにおける Phenotype switch	
一 言	よろしくお願い申し上げます	

2013年 業績

[英文原著] (アルファベット順)

1. **Inui S**, Inoue T, Itami S: Effect of wigs on perceived quality of life level in androgenetic alopecia patients. *J Dermatol.* 2013;40(3):223-5.
2. **Inui S**, Inoue T, Itami S: Psychosocial impact of wigs or hairpieces on perceived quality of life level in female patients with alopecia areata. *J Dermatol.* 2013;40(3):225-6.
3. **Inui S**, Ikegawa H, Shimazu T, Itami S: Edema-associated genital ulcer and erosion: A common but under-recognized skin complication. *J Dermatol.* 2013;40(3):230-1.
4. Shirakuni Y, Okamoto K, Ueshima E, **Inui S**, Takahara J, Ohgaru T, Yamasaki H, Tian Y, Kawashita N, Inoue R, Yasunaga T, Takagi T: A practical estimation method for analyzing adverse drug reactions using data mining. *Drug Inf J.* 2013;47:235-41.
5. **Inui S**, Inoue T, Itami S: Effect of hairpieces on perceived quality of life in female pattern hair loss patients: Questionnaire based study. *J Dermatol.* 2013;40(8):671.
6. Shin H, Yoo HG, **Inui S**, Itami S, Kim IG, Cho AR, Lee DH, Park WS, Kwon O, Cho KH, Won CH: Induction of transforming growth factor-beta 1 by androgen is mediated by reactive oxygen species in hair follicle dermal papilla cells. *BMB Rep.* 2013;46(9):460-4.
7. **Inui S**, Noguchi F, Nakajima T, Itami S: Serum thymus and activation-regulated chemokine as disease activity and response biomarker in alopecia areata. *J Dermatol.* 2013;40(11):881-5.
8. **Inui S**, Itami S: Induction of insulin-like growth factor-I by cepharanthine from dermal papilla cells: A novel potential pathway for hair growth stimulation. *J Dermatol.* 2013;40(12):1054-5.
9. **Inui S**, Harada T, Itami S: Pressure ulcer associated with critical colonization successfully treated by transient usage of cadexomer-iodine: A case report. *Open Dermatol J.* 2013;7:19-21.
10. Nakajima T, Inui S, Fushimi T, Noguchi F, Kitagawa Y, Reddy JK, **Itami S**: Roles of MED1 in quiescence of hair follicle stem cells and maintenance of normal hair cycling. *J Invest Dermatol.* 2013;133:354-60.
11. Nakajima K, Terao M, Takaishi M, Kataoka S, Goto-Inoue N, Setou M, Horie K, Sakamoto F, Ito M, Azukizawa H, Kitaba S, Murota H, **Itami S**, Katayama I, Takeda J, Sano S: Barrier abnormality due to ceramide deficiency leads to psoriasisiform inflammation in a mouse model. *J Invest Dermatol.* 2013;133(11):2555-65.
12. Shin H, Yoo HG, Inui S, **Itami S**, Kim IG, Cho AR, Lee DH, Park WS, Kwon O, Cho KH, Won CH: Induction of transforming growth factor-beta 1 by androgen is mediated by reactive oxygen species in hair follicle dermal papilla cells. *BMB Rep.* 2013;46(9):460-4.

2013年 総説

[英文総説]

1. Inui S, Itami S: Androgen actions on the human hair follicle: Perspectives. *Exp Dermatol.* 2013;22:168-71.
2. McElwee KJ, Gilhar A, Tobin DJ, Ramot Y, Sundberg JP, Nakamura M, Bertolini M, Inui S, Tokura Y, King Jr LE, Duque-Estrada B, Tosti A, Keren A, Itami S, Shoenfeld Y, Zlotogorski A, Paus R: What causes alopecia areata?. *Exp Dermatol.* 2013;22:609-26.

[和文総説]

1. 西尾美希, 板見 智, 鈴木 聰: Current Topics-Hippo 経路分子 MOB1 による発生と発がんの制御. *2013;31(5):1280-4.*
2. 板見 智, 乾 重樹: 毛の細胞生物学と疾患 (1) 毛包の発生と再生. *西日本皮膚科* 2013;75(4):336-41.
3. 乾 重樹: 治りにくい皮膚病変 治療の実際 脱毛症. *MB Derma* 2013;202:33-9.
4. 乾 重樹: 治療の実際 日常診療でよく遭遇する脱毛症とその治療法. *臨床と研究* 2013;90:246-50.
5. 乾 重樹: 赤色 Light emitting diode (LED) の毛成長促進作用の可能性とそのメカニズムの解析. *皮膚と美容* 2013;45:9-12.
6. 乾 重樹: 増大号 皮膚診療のスキルアップ 30 ポイント 脱毛症のスキルアップ トリコスコピーを用いた脱毛症のアルゴリズミックな見方・考え方. *MB Derma* 2013;203:125-9.
7. 乾 重樹, 板見 智: 毛の細胞生物学と疾患 (2) - 男性型脱毛症の病態と治療 -. *西日本皮膚科* 2013;75:448-53.
8. 乾 重樹: [毛髪再生のメディカルサイエンス: 毛は生やせるか?] 男性型脱毛症の最前線. *細胞工学* 2013;32:1050-3.
9. 乾 重樹, 板見 智: 毛の細胞生物学と疾患 (3) - 円形脱毛症の病態と治療 -. *西日本皮膚科* 2013;75:528-33.
10. 乾 重樹, 伊藤雅之, 板見 智: 特集/毛髪のエイジングケア研究と育毛剤の開発 フラーレンの毛成長率に対する効果. *FRAGRANCE JOURNAL* 2013;41: 28-33.
11. 乾 重樹: トリコスコピー (スカルプダーモスコピー). *日皮会誌* 2013;123:2410-2.

2013年 著書

[著書]

1. 板見 智（宮地良樹, 清水宏編）：男性型脱毛症（AGA）の治療，1冊でわかる最新皮膚科治療，皮膚科サブスペシャルティーシリーズ 文光堂 2013, pp.296-8.
2. 西尾美希, 三森功士, 森 正樹, 板見 智, 鈴木 聰（清水元治編）：Hippo 経路分子 MOB1 によるがん発症・進展制御とがん治療戦略, 次世代がん戦略研究 update- がん基盤生物学－革新的シーズ育成に向けて 南山堂 2013, pp.200-5.
3. 乾 重樹（滝川雅浩, 渡辺晋一編）：トリコチロマニア「皮膚疾患 最新の治療 2013-2014」 南江堂 2013, p.253.
4. 乾 重樹（片山一朗, 横関博雄編）：脱毛「高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント」 医薬ジャーナル社 2013, pp.123-6.
5. 乾 重樹（荻原俊男監修, 池上博司, 楽木宏美編）：しみ・しわ・いぼ, 予防とつきあい方シリーズ「老年病・認知症～長寿の秘訣～（改訂版）」 メディカルレビュー社 2013, p.193.
6. 乾 重樹（五十嵐敦之, 宮地良樹, 清水 宏編）：ステロイドパルス療法. 皮膚科サブスペシャリティーシリーズ第7巻「1冊でわかる皮膚科最新治療」 文光堂 2013, pp.76-8.

2013年 学会発表

[国際学会]

1. Inui S: Alopecia areata. Forum F082: Hair and Scalp Dermoscopy, The 71th Annual Meeting of American Academy of Dermatology, Miami Beach, US (2013.03.01-05)
2. Inui S: Differential diagnosis of androgenetic alopecia. Forum F042: Diagnosing and Monitoring Hair and Scalp Diseases, The 71th Annual Meeting of American Academy of Dermatology, Miami Beach, US (2013.03.01-05)
3. Inui S, Noguchi F, Nakajima T, Itami S.: Correlation between serum thymus and activation-regulated chemokine (TARC) and severity and activity in alopecia areata without active atopic symptom. 7th World Congress of Hair Research, Edinburgh, UK, (2013.05.04-06)
4. Noguchi F, Nakajima T, Inui S, Itami S: Alteration of skin wound healing in Mediator complex subunit 1 null mice. The 7th World Congress for Hair Research. P192. Edinburgh, Scotland. (2013.05.04-06)

[国内学会・研究会]

1. 乾 重樹：赤色LEDのマウス毛成長への促進効果とそのメカニズムの解析：LEDの毛髪医療への応用の可能性、パネルディスカッション1「毛髪再生の最先端」。第12回日本再生医療学会総会 横浜 (2013.03.21-23)
2. 乾 重樹, 野口史人, 中島武之, 板見 智：血清TARC値の円形脱毛症における臨床的意義。第437回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山 (2013.05.18)
3. 乾 重樹, 井上剛伸, 板見 智：脱毛症患者のQuality of Lifeに与えるウィッグの影響：福祉用具心理評価スケールを用いて。第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
4. 乾 重樹：毛髪治療の新時代：赤色LEDの毛成長への影響とそのメカニズム、シンポジウム16「容貌新時代－見た目のアンチエイジング－」。第13回日本抗加齢医学会総会 横浜 (2013.06.28-30)
5. 乾 重樹, 板見 智：Edema-associated genital ulcer and erosion: あまり認識されていない陰部潰瘍の新しいエンティティー。第15回日本褥瘡学会学術集会 神戸 (2013.07.19-20)
6. 乾 重樹：トリコスコピーによる円形脱毛症の診断と患者満足度。第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 基調講演（QI講演「円形脱毛症」） 名古屋 (2013.11.03)
7. Noguchi F, Nakajima T, Inui S, Janardan K. Reddy, Itami S: Acceleration of skin wound healing in keratinocyte-specific mediator complex subunit 1 null mice. 第27回表皮細胞研究会 甲府 (2013.11.23-24)
8. 乾 重樹：脱毛症におけるウィッグの心理的効果とそのエビデンス。第18回日本臨床毛髪学会学術集会 アフタヌーンセミナー 東京 (2013.11.23)
9. 乾 重樹：ナノ粒子の医療応用。生産技術振興協会アライアンス委員会ナノ技術応用分科会講習会 大阪 (2013.12.20)

2013年 講演会

[特別講演・教育講演]

1. 板見 智：ガイドラインに基づいた脱毛症診療. AGA Expert Meeting in 神戸 神戸 (2013.02.16)
2. 板見 智：脱毛症の発症メカニズムと治療. 鶴見区医師会学術講演会 大阪 (2013.03.15)
3. 板見 智：ガイドラインに基づいた脱毛症診療. AGA Expert Meeting in 札幌 札幌 (2013.05.25)
4. 板見 智：ガイドラインに基づいた脱毛症診療. 第101回兵庫県皮膚科医会総会 神戸 (2013.06.29)
5. 板見 智：男性型脱毛症の発症メカニズムと治療. 第18回臨床毛髪学会 東京 (2013.11.23)
6. 乾 重樹：特別講演 パターンとルールで考える円形脱毛症の診断と治療：トリコスコピー（スカルプダーモスコピー）の所見を用いて. 札幌医科大学新春皮膚科セミナー2013 札幌 (2013.01.19)
7. 乾 重樹：教育講演 毛髪疾患の診断 トリコスコピー. 第112回日本皮膚科学会総会 横浜 (2013.06.14-16)
8. 乾 重樹：LEDが拓く発毛新時代：毛髪科学の基礎的観点から. 電気四学会関西支部専門講習会「LEDの積極活用～毛髪再生と植物工場～」 大阪 (2013.10.28)
9. 乾 重樹：脱毛症の鑑別診断. 第18回日本臨床毛髪学会学術集会 学術講習会教育講演 東京 (2013.11.24)

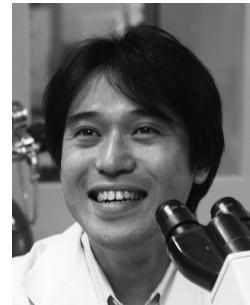
[シンポジウム]

1. 板見 智：毛髪は蘇るのか, 抗加齢美容医療の基礎医学. 第13回抗加齢医学会総会 横浜 (2013.06.30)

教室員紹介

大阪大学大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座

氏名	玉井 克人
職名	再生誘導医学寄附講座教授
専門医資格	皮膚科専門医
省庁研究費	厚生労働省科学研究費補助金：再生医療実用化研究事業（代表），難治性疾患克服研究事業（分担），難病，がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業。
受賞等 学会関係役員	日本研究皮膚科学会理事，日本皮膚かたち研究学会理事（監事），日本遺伝子治療学会評議員，
大学，病院の運営委員 医局内委員 外来関係 受け持ち入院患者 手術数	表皮水疱症外来（木曜日午後）
学生講義 業績	阪大医学部講義 6, 学外講義 7 (皮膚科講義 6, 組織学 1, その他 1) 学会発表：海外 3 件 国内 5 件 論文発表：英文 4 件 和文 0 件
論文査読 研究テーマ 一言	3 件 骨髓間葉系幹細胞を利用した皮膚疾患治療法開発研究 表皮水疱症に対する骨髓間葉系幹細胞移植臨床研究が始まりました。ご希望される患者さんがいらしたらご紹介下さい。



2013年 業績

[英文原著]

1. Furumoto T, Ozawa N, Inami Y, Toyoshima M, Fujita K, Zaiki K, Sahara S, Akita M, Kitamura K, Nakaoji K, Hamada K, **Tamai K**, Kaneda Y, Maeda A: Mallotus philippinensis bark extracts promote preferential migration of mesenchymal stem cells and improve wound healing in mice. *Phytomedicine*. 2013 (in press)
2. Saga K, **Tamai K**, Yamazaki T, Kaneda Y: Systemic administration of a novel immune-stimulatory pseudovirion suppresses lung metastatic melanoma by regionally enhancing IFN- γ production. *Clin Cancer Res.* 2013;19(3):668-79.
3. Kotani M, Kikuta J, Klauschen F, Chino T, Kobayashi Y, Yasuda H, **Tamai K**, Miyawaki A, Kanagawa O, Tomura M, Ishii M: Systemic circulation and bone recruitment of osteoclast precursors tracked by using fluorescent imaging techniques. *J Immunol.* 2013;190(2):605-12.
4. Umegaki-Arao N, **Tamai K**, Nimura K, Serada S, Naka T, Nakano H, Katayama I.: Karyopherin Alpha2 Is Essential for rRNA Transcription and Protein Synthesis in Proliferative Keratinocytes. *PLoS One.* 2013; 8(10):e76416

[国内学会・研究会]

1. 玉井克人, 菊池康, 江副幸子, 金田安史: 他家骨髓間葉系幹細胞移植による表皮水疱症治療研究: 基礎と臨床 第12回日本再生医療学会総会, 横浜 (2013.03.23)
2. 玉井克人: 末梢循環性間葉系幹細胞を利用した皮膚の再生医療, 教育講演1 再生医療, 第113回日本皮膚科学会総会・学術大会, 横浜 (2013.06.14-16)
3. Tamai K, Kaneda Y: Regenerative medicine for epidermolysis bullosa: "from discovery to recovery" The 19th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy, Okayama (2013.07.04-06)
4. Tamai K: In vivo mobilization of bone marrow mesenchymal stem cells accelerates regeneration of tissue injury. International Symposium of Anatomical Science for Advance in Health and Clinical Therapy, Sendai (2013.08.27-28)
5. 玉井克人: 皮膚と骨髄のクロストーク: 間葉系幹細胞の体内移動メカニズム解明と治療への応用, 第41回日本臨床免疫学会総会 6学会合同シンポジウム: トランスレーショナル研究と新規治療, 下関 (2013.11.28)

[報告書]

1. 玉井克人: 表皮水疱症患者を対象とした骨髓間葉系幹細胞移植臨床研究, 厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 稀少難治性皮膚疾患調査研究班 平成24年度分担研究報告書
2. 玉井克人: 厚生労働省科学研究費補助金(再生医療実用化研究事業) 平成24年度総括研究報告書 表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究

関連病院

(50音順)

一般財団法人 住友病院	64
NTT 西日本大阪病院	65
大阪厚生年金病院	66
大阪船員保険病院	67
大阪府立急性期・総合医療センター	67
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	68
岸和田徳洲会病院	70
公益財団法人 日本生命済生会付属日生病院	71
公立学校共済組合近畿中央病院	72
国家公務員共済組合連合会 大手前病院	72
(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院	73
市立池田病院	74
市立吹田市民病院	75
市立豊中病院	77
地方独立行政法人 市立堺病院	78
独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター	78
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	80
独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	81
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院	81
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院	82
東大阪市立総合病院	83
箕面市立病院	84
八尾市立病院	85

関連病院

一般財団法人住友病院

〒 530-0005 大阪市北区中之島 5 丁目 3-20 電話番号 06-6443-1261

皮膚科代表者名	庄田 裕紀子	特 殊 設 備
病院総病床数	499 床	NBUVB/UVA 全身照射機, UVA/UVB 照射機, 超音波エコー, 末梢皮膚灌流圧 (SPP) 測定器, ダーモスコピー, スプレー式液体窒素噴射機
皮膚科病床数	7 床	
皮膚科年間総外来患者数	15,138 名	
皮膚科年間総新患数	1,098 名	
皮膚科年間入院総手術数	30 件	
皮膚科年間外来総手術数	199 件	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間生検数	227 件	発 表 演 題 数 3



氏 名	庄田 裕紀子
役 職	診療科部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
学 会 関 係 役 員	大阪地方会運営委員
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡委員会, 患者満足度委員会
外 来 (専門外来・回数)	週 4 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	適宜必要時
学 生 講 義	
一言 (施設の特徴など)	

住友病院の特徴はチーム医療、市内有数の血液内科規模、最先端血管内治療を施行する放射線科、感染制御部に専門医がいることなど。皮膚科との関連では ① PAD チームに参加し定期的に症例カンファレンスを施行。末梢循環障害患者のうち、潰瘍など傷のある患者は皮膚科で、間欠性跛行飲みの場合は心臓血管外科を窓口とし、その後関連する科と連携して治療方針を立てている。特に放射線科による血管内治療が進んでいて、皮膚科入院にて治療する症例も少なくない。②皮膚リンパ腫などは病状により全身治療を要する症例は血液内科で依頼している。院内で骨髄移植、臍帯血移植なども施行されている。③皮膚悪性腫瘍については形成外科と連携して手術依頼している。④壊死性筋膜炎などの重症感染症も皮膚科あるいは形成外科（その時々で動きが取れる科を臨機応変に対応）にて加療しているが、感染制御部専門医と相談の上、抗生素選択や量の決定など安心して行っている。

氏 名	神谷 智 2013 年 3 月末異動
役 職	後期研修医
専 門 医 資 格	
外 来 (専門外来・回数)	9 月より週に 1 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	7 人

氏 名	竹原 友貴 2013 年 4 月から
役 職	副部長
専 門 医 資 格	皮膚科専門医
外 来 (専門外来・回数)	週 3 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	3 人

氏 名	角田 (旧姓豊田) 佳純
役 職	後期研修医
専 門 医 資 格	なし

外来（専門外来・回数） 週に 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 7 人

NTT 西日本大阪病院

〒 543-8922 大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40 電話番号 06-6773-7360

皮膚科代表者名	調 裕次	特 殊 設 備
病院総病床数	389床	Qスイッチ, ノーマルルビーレーザー, ロングパルスアレキサンドライトレーザー, 炭酸ガスレーザー, 近赤外線レーザー, ビデオカメラ接続ダーモスコピー, 超音波エコー診断装置, 赤外線サーモグラフィ, UVA(全身型)・UVB紫外線照射装置,
皮膚科病床数	8床	
皮膚科年間総外来患者数	14,615人	
皮膚科年間総新患数	784人	
皮膚科年間入院総手術数	56件	
皮膚科年間外来総手術数	210件	
皮膚科年間生検数	350件	

発 表 論 文 数 7
 発 表 演 題 数 13



氏 名	調 裕次
役 職	部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会 皮膚科専門医
学 会 関 係 役 員	日本皮膚科学会大阪地方会運営委員, 日本皮膚科学会中部支部代議員
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡対策委員会委員長, (委員長以外は多数)
外 来	午前診: 週 3 回 午後診: 週 2 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	
学 生 講 義	年 1 回「全身疾患と皮膚（血管炎, 代謝異常含む）」

氏 名	坂井 浩志
役 職	医長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会 皮膚科専門医
外 来	週 3 回 午後診: 週 1 回 (火曜午後: 下肢静脈瘤専門外来)
平 均 病 棟 受け持ち患者数	約 3~5 人

氏 名	日野上 はるな (～11/30)
役 職	常勤嘱託
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会 皮膚科専門医
外 来	午前診: 週 2 回 午後診: 週 1 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	約 3~5 人

氏 名	外村 香子 (4/1～)
役 職	常勤嘱託
専 門 医 資 格	
外 来	週 2 回 午後診: 週 1 回
平 均 病 棟 受け持ち患者数	約 3~5 人

氏 名	前田 麻衣子 (12/1～)
役 職	研修医 (通修)
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会 皮膚科専門医
外 来	週 2 回 午後診: 週 1 回

平均病棟受け持ち患者数

大阪厚生年金病院

〒 553-0003 大阪市福島区福島 4 丁目 2 番 78 号 電話番号 06-6441-5451

皮膚科代表者名	池上 隆太	特 殊 設 備
病院総病床数	565 床	エキシマランプ紫外線治療器, 全身型 UVA/NB-UVB 照射装置, 超音波診断装置(エラストグラフィー付), 皮膚灌流圧測定器, サーモグラフィー, 全身低温温浴ルーム, 高周波ラジオ波メス, グラインダー
皮膚科病床数	12 床	
皮膚科年間総外来患者数	14,412 人	
皮膚科年間総新患数	961 人	
皮膚科年間入院総手術数	105 件	
皮膚科年間外来総手術数	177 件	
皮膚科年間生検数	303 件	発表論文数 2 発表演題数 11



氏 名	池上 隆太
役 职	主任部長
専門医資格	日本皮膚科学会認定専門医
学会関係役員	日本皮膚科学会中部支部代議員, 日本皮膚科学会 創傷・熱傷ガイドライン策定委員
病院の運営委員	褥瘡対策委員長, 外来治療センター運営委員, 手術室運営委員, 病床管理運営委員
外来(専門外来・回数)	一般外来: 週 3 回, フットケア外来: 週 2 回, 光線外来: 週 1 回
平均病棟受け持ち患者数	
学 生 講 義	大阪厚生年金看護学校: 年 4 回, 大阪保健医療大学: 年 2 回, 大阪リハビリテーション専門学校: 年 1 回
一 言	2014 年 3 月末をもって 60 年余り続いた大阪厚生年金病院の歴史に終止符をうち, 4 月から新たに独立行政法人 地域医療機能推進機構大阪病院, 通称ジェイコー (JCHO : Japan Community Health care Organization) 大阪病院に生まれ変わります。名称のごとく地域医療・地域包括ケアを柱として活動する病院になります。皮膚科も重症疾患はもとよりフットケアチーム, 褥瘡対策チームなどチーム医療の中心となることで存在意義を示していきたいと考えています。

氏 名	松本 考平
役 职	医長
専門医資格	日本皮膚科学会認定専門医
外来(専門外来・回数)	一般外来: 週 2 回, 光線外来: 月 2 回
平均病棟受け持ち患者数	指導医として 10 人前後

氏 名	坂本 幸子
役 职	医員
専門医資格	日本形成外科学会専門医
外来(専門外来・回数)	一般外来: 週 2 回
平均病棟受け持ち患者数	3~6 人

氏 名	溝口 奈穂
役 职	医員
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	一般外来: 週 2 回, 光線外来: 月 2~3 回

平均病棟受け持ち患者数 3~6人

氏 名 井上 知子
役 職 フェロー
専門医資格
外来(専門外来・回数) 一般外来: 週2回
平均病棟受け持ち患者数 3~6人

大阪船員保険病院

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30 電話番号 06-6572-5721

皮膚科代表者名	西井 芳夫	特 殊 設 備
病院総病床数	275床	エキシマレーザー, スーパーライザー, ナローバンド他
皮膚科病床数	6床	
皮膚科年間総外来患者数	13,127人	
皮膚科年間総新患数	873人	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間入院総手術数	39件	発 表 演 題 数 0
皮膚科年間外来総手術数	495件	
皮膚科年間生検数	69件	



氏 名 西井 芳夫
役 職 部長
専門医資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医, 日本東洋学会専門医, 認定産業医
学会関係役員 薬剤審議会, 感染委員会他
病院の運営委員 一般5回
外来(専門外来・回数)
平均病棟受け持ち患者数 5~6人
学生講義

大阪府立急性期・総合医療センター

〒558-0056 大阪市住吉区万代東3-1-56 電話番号 06-6692-1201

皮膚科代表者名	中島 武之	特 殘 設 備	なし
病院総病床数	768床	発 表 論 文 数	0
皮膚科病床数	2床	発 表 演 題 数	0
皮膚科年間総外来患者数	10,414人		
皮膚科年間総新患数	1,558人		
皮膚科年間入院総手術数	9件		
皮膚科年間外来総手術数	23件		
皮膚科年間生検数	181件		



氏 名 中島 武之
役 職 部長
専門医資格 皮膚科専門医
学会関係役員 治験・臨床研究審査委員 カルテ開示審査委員 診療管理委員 医事保険・DPC
病院の運営委員

委員	医療情報部運営委員 クリニカルパス推進委員
外来（専門外来・回数）	週 4 回
平均病棟受け持ち患者数	0
学 生 講 義	

氏 名	西野 洋輔
役 職	医員
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週 4 回
平均病棟受け持ち患者数	2

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

〒 583-8588 大阪府羽曳野市はびきの 3-7-1 電話番号 072-957-2121



皮膚科代表者名	片岡 葉子	特 殊 設 備
病院総病床数	結核病床 200 床, 一般病床 440, 計 640 床	ターゲット型エキシマライト, 紫外線全身照射装置 (UVB+UVA, Narrow Band それぞれ 1 台ずつ), 手足紫外線照射装置
皮膚科病床数	20 床	サーモグラフィー, 赤外線ビデオカメラ撮影装置
皮膚科年間総外来患者数	36,583 人	大気中ホルマリン測定器, 歯科金属電流測定器
皮膚科年間総新患数	2,836 人	
皮膚科年間入院総手術数	13 件	
皮膚科年間外来総手術数	11 件	
皮膚科年間生検数	172 件	発 表 論 文 数 3 発 表 演 題 数 22

氏 名	片岡 葉子
役 職	皮膚科主任部長・アトピーアレルギーセンター長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本心身医学会専門医 日本皮膚科学会 中部支部代議員 日本皮膚科学会大阪地方会 運営委員(編集委員) 日本アレルギー学会 代議員 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 理事 アトピー性皮膚炎治療研究会 事務局長, 世話人 皮膚心身医学会 理事 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 編集委員 “皮膚の科学” 編集委員 大阪府医師会 学校医部会 アレルギー対策委員 女性医師支援 WG 第 5 ブロック委員 関西臨床アレルギー研究会 運営委員 栄養委員長, 褥瘡対策委員長, 薬事委員, 保険委員 週 4 回
学 会 関 係 役 員	
病 院 の 運 営 委 員	
外来（専門外来・回数）	阪大医学部非常勤講師学生講義 1 回 (蕁麻疹・アトピー性皮膚炎)
平均病棟受け持ち患者数	アレルギー学会認定教育施設
学 生 講 義	乳幼児アトピー教室, アトピーサマースクール (小中学生対象), アトピーカレッジ
一言 (施設の特徴など)	

ジ（高校生以上、成人）と多職種によるチームで患者教育システムを確立し、成果をあげている。

勤務医データ

氏名	西野 洋（2013年8月で退職）
役職	診療主任
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週3+1回
平均病棟受け持ち患者数	8人／月

氏名	岸田 寛子
役職	診療主任
専門医資格	皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数）	週3+1回
平均病棟受け持ち患者数	7人／月

氏名	原田 潤（2013.9月～）
役職	診療主任
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週3+1回
平均病棟受け持ち患者数	7人／月

氏名	吉岡 詠理子
役職	医員
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週4回
平均病棟受け持ち患者数	6人／月

氏名	別所 優
役職	レジデント
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週2+1回
平均病棟受け持ち患者数	8人／月

氏名	猿丸 朋久
役職	非常勤パート勤務医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週2回（月・水）
平均病棟受け持ち患者数	

氏名	木嶋 晶子（2013.5月で退職）
役職	非常勤パート勤務医
専門医資格	皮膚科学会専門医・アレルギー学会専門医
外来（専門外来・回数）	週1回（火）
平均病棟受け持ち患者数	

氏名	清水 裕希（2013.11月末で産休）
役職	非常勤パート勤務医
専門医資格	皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数）	週2回（火・金）

平均病棟受け持ち患者数

氏名 吉田 直美（2013年3月で退職）
役職 非常勤パート勤務医
専門医資格
外来（専門外来・回数） 週1+1回（月・木）
平均病棟受け持ち患者数

岸和田徳洲会病院

〒596-8522 大阪府岸和田市加守町4-27-1 電話番号 072-445-1195

皮膚科代表者名 駒村 公美 特殊設備なし
病院総病床数 341床 発表論文数 0
皮膚科病床数 0 発表演題数 0
皮膚科年間総外来患者数 7,621人
皮膚科年間総新患数 142人
皮膚科年間入院総手術数 0
皮膚科年間外来総手術数 25件
皮膚科年間生検数 24件



氏名 駒村 公美
役職 皮膚科部長
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
学会関係役員 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議員
病院の運営委員 褥瘡委員会
外来（専門外来・回数） 週5回
平均病棟受け持ち患者数 0
学生講義

氏名 石黒 真理子
役職 医員
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数） 週5回
平均病棟受け持ち患者数 0

氏名 尾花 俊作
役職 パート医師
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数） 第2.4金曜日 夕診（週0.5回）
平均病棟受け持ち患者数 0

公益財団法人 日本生命済生会付属日生病院

〒 550-0012 大阪市西区立売堀 6 丁目 3-8 電話番号 06-6543-3581

皮膚科代表者名	東山 真里
病院総病床数	350 床
皮膚科病床数	定床は決まっておらず空床があれば入院可能。平均 12 床
皮膚科年間外来患者数	27,824 人
皮膚科年間新患数	2,543
皮膚科年間入院手術数	46 (うち全麻 件数 2) 件
皮膚科年間外来手術数	197 件
皮膚科年間生検数	353 件
	発表論文数 著書 3 冊 和論文 5
	発表演題数 学会発表 9 講演その他 16



氏名	東山 真里
役職	皮膚科部長、大阪大学医学部臨床教授
専門医資格	日本皮膚科学会専門医
学会関係役員	日本皮膚科学会中部支部代議員、大阪地方会運営委員、大阪皮膚科医会理事
病院の運営委員	締創対策委員会委員長、治験管理委員会委員長、手術場運営委員会、日生誌編集委員会、研修委員会
外来(専門外来・回数)	一般外来週 3.5 回、専門外来週 2 回
平均病棟受け持ち患者数	病棟主治医はしていない。
学生講義	大阪大学医学部 1 回 / 年、炎症性角化症
一言(設備の特徴など)	楽しく仕事をすること・お互いに助け合い・より高めあうこと・広い視野を持つことをモットーに日夜研鑽しています。乾癬だけでなく種々の疾患につき興味深い豊富な症例に恵まれた皮膚科です。やる気があればきっと多くのことを学ぶことができると思います。

氏名	大川 たをり
役職	副部長
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	一般外来 週 2 回・外来手術 週 1 回・専門外来 1.5 回
平均病棟受け持ち患者数	3~5 名

氏名	高橋 玲子
役職	医長
専門医資格	あり
外来(専門外来・回数)	一般外来 週 3 回 専門外来週 1 回
平均病棟受け持ち患者数	3~5 名

氏名	岡田 みどり
役職	後期研修医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	一般外来 週 2 回 外来手術週 1 回、専門外来 1 回
平均病棟受け持ち患者数	3~5 名

公立学校共済組合近畿中央病院

〒 664-8533 兵庫県伊丹市車塚三丁目一番地 電話番号 072-781-3712

皮膚科代表者名	樽谷 勝仁 (3月まで三浦 宏之)
病院総病床数	453床 特殊設備
皮膚科病床数	8床 (8月まで NB-UVB部分照射装置 10床)
皮膚科年間総外来患者数	8,674人 発表論文数 0
皮膚科年間総新患数	707人 発表演題数 15
皮膚科年間入院総手術数	48件
皮膚科年間外来総手術数	169件
皮膚科年間生検数	152件



氏名	樽谷 勝仁
役職	部長
専門医資格	皮膚科専門医
学会関係役員	日本研究皮膚科学会評議員、兵庫県皮膚科医会幹事
病院の運営委員	褥瘡委員会委員長、救急委員会、院内がん登録委員会、化学療法委員会、院内研修委員会、診療情報委員会、手術室運営委員会
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	0~2人 (全病棟患者を管理)
学生講義	阪大医学部学生講義1回 (先天性角化症)
一言(施設の特徴など)	形成外科と合同で診療を行っています。

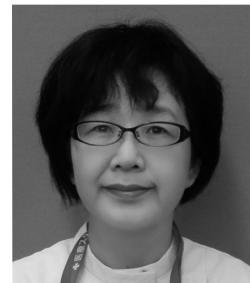
氏名	北場 俊
役職	医長
専門医資格	皮膚科専門医
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	2~4人

氏名	阿部 綾乃
役職	レジデント
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	4~6人

国家公務員共済組合連合会 大手前病院

〒 540-0008 大阪市中央区大手前1丁目5番34号 電話番号 06-6941-0484

皮膚科代表者名	園田 早苗	特殊設備
病院総病床数	401床	アレキサンドライトレーザー、ルビーレーザー、炭酸ガスレーザー
皮膚科病床数	8床	
皮膚科年間総外来患者数	9,688人	
皮膚科年間総新患数	2,098人	発表論文数 0
皮膚科年間入院総手術数	23件	発表演題数 10
皮膚科年間外来総手術数	203件	
皮膚科年間生検数	254件	



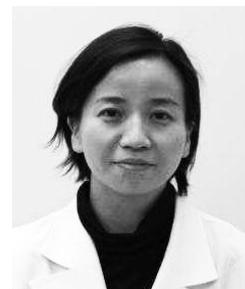
氏名	園田 早苗
役職	皮膚科主任部長
専門医資格	日本皮膚科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本抗加齢 医学会専門医
学会関係役員	大阪皮膚アレルギーネットワーク世話人、大阪免疫・皮膚アンチエイジング研究会 世話人、湾岸勉強会世話人、大阪皮膚科症例検討会世話人
病院の運営委員	手術部運営委員、薬事委員、臨床研修委員、褥創対策委員長、 一般皮膚科外来週3回、専門外来週2回
外来(専門外来・回数)	
平均病棟受け持ち患者数	
学生講義	大阪大学医学部学生講義年1回、大阪大学医学部臨床研修年2回、大手前病院看護 学校臨床実習年5回

氏名	高橋 祐史
役職	皮膚科医員
専門医資格	日本皮膚科学会専門医
外来(専門外来・回数)	一般皮膚科外来週3回、専門外来周1回
平均病棟受け持ち患者数	約3~4人

(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院

〒543-0035 大阪市天王寺区北山町10-31 電話番号 06-6771-6051

皮膚科代表者名	八幡 陽子	特殊設備
病院総病床数	580床	UVA/NB-UVB照射装置、ダーモスコ
皮膚科病床数	4床(上限なし)	ピー、炭酸ガスレーザー
皮膚科年間総外来患者数	12,646人	
皮膚科年間総新患数	1,074人	発表論文数 2
皮膚科年間入院総手術数	15件	発表演題数 3
皮膚科年間外来総手術数	157件	
皮膚科年間生検数	125件	



氏名	八幡 陽子
役職	皮膚科部長
専門医資格	日本皮膚科学会認定専門医
学会関係役員	
病院の運営委員	
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	全病棟患者を管理
学生講義	大阪警察病院看護学校5回/年、阪大学生講義1回/年

氏名	安藤(白山)純実
役職	副医長
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	平均3~5人

氏名	須磨 朱里
役職	レジデント(常勤)

専門医資格

外来(専門外来・回数) 週2回
平均病棟受け持ち患者数 平均3~5人

市立池田病院

〒563-8510 大阪府池田市城南3-1-18 電話番号 072-751-2881

皮膚科代表者名	吉良 正浩	特 殘 設 備
病院総病床数	364床	narrow-band UVB 照射装置, UVA/UVB 照射装置, 近赤外線照射装置
皮膚科病床数	11床	
皮膚科年間総外来患者数	13,600人	
皮膚科年間総新患数	2,218人	発 表 論 文 数 3
皮膚科年間入院総手術数	28件	発 表 演 題 数 6
皮膚科年間外来総手術数	145件	
皮膚科年間生検数	545件	



氏 名	吉良 正浩
役 職	部長
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
学会関係役員	日本皮膚科学会大阪地方会運営委員, 日本皮膚科学会中部支部代議員, 日本研究皮膚科学会評議員
病院の運営委員	褥瘡対策委員長, 女性医師支援ワーキンググループ委員, 藥事委員, 診療情報管理委員, 保険診療委員, 臨床研修管理委員, 放射線運営委員 一般診察: 週2回, 皮膚科回診: 週1回
外来(専門外来・回数)	
平均病棟受け持ち患者数	0
学 生 講 義	年1回(医学部)
一言(施設の特徴など)	保育所, 病児保育あります

氏 名	水野 麻衣
役 職	主任医員
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	外来 週2回, 処置外来 週3回, 褥瘡回診 週1回
平均病棟受け持ち患者数	3~6人

氏 名	早石(旧姓: 小泉) 佳奈(3月まで)
役 職	常勤嘱託医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	外来 週1回, 処置外来 週4回, 形成手術 週1回
平均病棟受け持ち患者数	3~6人

氏 名	丸山 彩乃
役 職	常勤嘱託医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	補助診察 週4回, 処置外来 週4回, 形成手術 週1回
平均病棟受け持ち患者数	3~6人

氏 名	亀井 利沙
役 職	常勤嘱託医

専門医資格

外来（専門外来・回数） 外来 週1回, 優置外来 週4回, 形成手術 週1回
 平均病棟受け持ち患者数 3~6人

市立吹田市民病院

〒564-0082 大阪府吹田市片山町2-13-20 Tel: 06-6387-3311 Fax: 06-6380-5825

皮膚科代表者名	滝尻 珍重	特 殘 設 備	なし
病院総病床数	431床	発 表 論 文 数	0件
皮膚科病床数	0床	発 表 演 題 数	0件
皮膚科年間総外来患者数	14,798人		
皮膚科年間総新患数	1,580人		
皮膚科年間入院総手術数	0		
皮膚科年間外来総手術数	140件（形成外科）		
皮膚科年間生検数	122件（皮膚科）		



氏 名	滝尻 珍重
役 職	皮膚科医長
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
学会関係役員	
病院の運営委員	
外来（専門外来・回数）	一般5回、専門0回
平均病棟受け持ち患者数	0~1名/月（内科の先生に主観になって頂いております。）
学 生 講 義	
一言（施設の特徴など）	研究テーマ： 金属アレルギーについて少々です。

氏 名	中山 育徳
役 職	皮膚科非常勤医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	月曜日：午前（1月~3月）
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	井下 哉恵
役 職	皮膚科非常勤医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	月曜日：午前（4月~12月）
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	山田 瑞穂
役 職	皮膚科非常勤医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	火曜日：午前（1月~2月）
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	村上 有香子
役 職	皮膚科非常勤医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	火曜日：午前（3月）

平均病棟受け持ち患者数

氏名 神谷 智
役職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 火曜日：午前（4月～12月）
平均病棟受け持ち患者数

氏名 泉川 美和
役職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 水・木曜日：午前（1月～6月）
平均病棟受け持ち患者数

氏名 小野 かおる
役職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 水曜日：午前（7月～12月）
平均病棟受け持ち患者数

氏名 高橋 彩
役職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日：午前（1月～3月）
平均病棟受け持ち患者数

氏名 田原 真由子
役職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日：午前（4月～12月）
平均病棟受け持ち患者数

氏名 藤原 貴史
役職 形成外科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日：午後、乳房再建術等の手術も担当
平均病棟受け持ち患者数

氏名 三浦 智恵
役職 形成外科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日：午後（1月～2月）
平均病棟受け持ち患者数

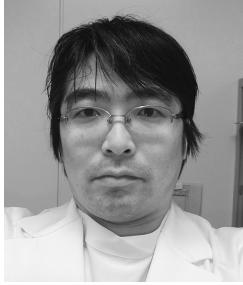
氏名 谷川 知子
役職 形成外科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日：午後（3月～7月、10月～12月） 木曜日：午後（7月～9月）
平均病棟受け持ち患者数

氏 名 勝野 昌代
役 職 形成外科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 木曜日: 午後 (1月~6月, 10月~12月)
平均病棟受け持ち患者数

氏 名 市堀 涼子
役 職 形成外科非常勤医
専門医資格
外来(専門外来・回数) 金曜日: 午後 (8月~9月)
平均病棟受け持ち患者数

市立豊中病院

〒 560-8565 豊中市柴原町4丁目14番1号 電話番号 06-6848-0101

皮膚科代表者名	横見 明典	特 殊 設 備	
病院総病床数	613床	NB-UVB, エコー, CO2レーザー, PDE	
皮膚科病床数	年平均 7.8床 (定床 6)	カメラ, SPP	
皮膚科年間総外来患者数	13,513人	発 表 論 文 数 0	
皮膚科年間総新患数	3,124人	発 表 演 題 数 3	
皮膚科年間入院総手術数	95件		
皮膚科年間外来総手術数	293件		
皮膚科年間生検数			

氏 名	横見 明典
役 職	部長
専門医資格	皮膚科専門医
学会関係役員	
病院の運営委員	手術部運営委員, 褥瘡対策委員, 外来化学療法委員
外来(専門外来・回数)	4
平均病棟受け持ち患者数	8
学 生 講 義	看護学生
一言(施設の特徴など)	皮膚悪性腫瘍, 尋常乾癬, 急性疾患に力を入れています.

氏 名	土井 知江
役 職	専攻医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	2
平均病棟受け持ち患者数	4

氏 名	藤盛 裕梨
役 職	専攻医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	1
平均病棟受け持ち患者数	4

地方独立行政法人 市立堺病院

〒 590-0064 堺市堺区南安井町 1-1-1 電話番号 072-221-1700

皮膚科代表者名	三浦 宏之	特 殊 設 備
病院総病床数	493床	超音波 (Xario200: エラストグラフィー付), Dermlite3, surgitronEMC
皮膚科病床数	5床	
皮膚科年間総外来患者数	7,777人	
皮膚科年間総新患数	125人	発 表 論 文 数 3
皮膚科年間入院総手術数	28件	発 表 演 題 数 学会 3, 研究会 11,
皮膚科年間外来総手術数	259件	講演 5
皮膚科年間生検数	84件	



氏 名	三浦 宏之
役 職	部長
専門医資格	皮膚科専門医・医学博士・兵庫医大形成外科非常勤講師
学会関係役員	
病院の運営委員	
外来(専門外来・回数)	5
平均病棟受け持ち患者数	血管外漏出 3回, 化学療法による皮膚障害 2回
学 生 講 義	来年春に移転し堺市総合医療センターに変わります。血管肉腫に力をいれています
一 言	が, その他の症例も豊富です。常勤医・非常勤医・研究生募集中です。

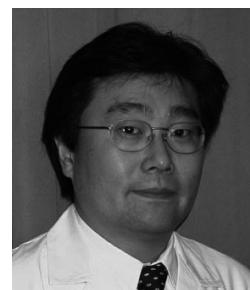
氏 名	白井 洋彦
役 職	副医長
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	5
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	則岡 有佳
役 職	非常勤医師
専門医資格	皮膚科専門医
外来(専門外来・回数)	1
平均病棟受け持ち患者数	

独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター

〒 540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14 電話番号 06-6942-1331

皮膚科代表者名	田所 丈嗣	特 殘 設 備
病院総病床数	694床	下肢静脈瘤治療用 EVLVEs レーザー, ドッペラーエコー, ダーモスコピー, 超音波キュー
皮膚科病床数	11床	
皮膚科年間総外来患者数	8,946人	
皮膚科年間総新患数	1,298人	
皮膚科年間入院総手術数	185件	発 表 論 文 数 7
皮膚科年間外来総手術数	73件	発 表 演 題 数 5
皮膚科年間生検数	98件	



氏名	田所 文嗣
役職	皮膚科科長、大阪大学医学部臨床教授
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
学会関係役員	
病院の運営委員	褥瘡対策委員会委員長、手術部運営委員会委員、ICU運営委員会委員、臨床研修教育委員会委員
外来(専門外来・回数)	週2回(褥瘡外来・月2~3回)
平均病棟受け持ち患者数	0人(全入院患者を管理)
学生講義	2回(大阪大学医学部、国立大阪医療センター看護学校)
一言(施設の特徴など)	皮膚腫瘍や皮膚外科を中心とした診療を行っています。
氏名	小澤 健太郎
役職	皮膚科医長
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	0人(全入院患者を管理)
氏名	宮崎 明子
役職	皮膚科医員(短時間勤務)
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	3人
氏名	池田 彩
役職	皮膚科医員(短時間勤務)
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	3人
氏名	永松 麻紀
役職	皮膚科医員
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	3人
氏名	宮本 麻美
役職	皮膚科後期研修医
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	3人
氏名	磯ノ上 正明
役職	皮膚科非常勤医師(静脈瘤担当)
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施基準における実施医
外来(専門外来・回数)	月2回
平均病棟受け持ち患者数	0人
氏名	戸田 直歩

役 職	皮膚科非常勤医師（静脈瘤担当）
専門医資格	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施基準における実施医
外来（専門外来・回数）	月 2~3 回
平均病棟受け持ち患者数	0 人

氏 名	東 祥子
役 職	皮膚科非常勤医師
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週 1 回
平均病棟受け持ち患者数	0 人

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター

〒 586-8521 大阪府河内長野市木戸東町 2 番 1 号 電話番号 0721-53-5761

皮膚科代表者名	岸岡 亜紀子	特 殊 設 備
病院総病床数	520 床	エキシマレーザー
皮膚科病床数	3 床	
皮膚科年間総外来患者数	5,542 人	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間総新患数	743 人	発 表 演 題 数 0
皮膚科年間入院総手術数	0	
皮膚科年間外来総手術数	44 件	
皮膚科年間生検数	96 件	



氏 名	岸岡 亜紀子
役 職	医長
専門医資格	皮膚科専門医
学会関係役員	
病院の運営委員	褥瘡防止対策委員長, 手術室運営委員, 栄養管理委員, 図書委員
外来（専門外来・回数）	週 4 回
平均病棟受け持ち患者数	
学 生 講 義	大阪南医療センター付属大阪南看護学校

氏 名	中山 育徳（4~5 月）
役 職	レジデント
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	0 人

氏 名	今中 愛子（8 月末～）
役 職	非常勤
専門医資格	皮膚科専門医
外来（専門外来・回数）	週 2 回
平均病棟受け持ち患者数	0 人

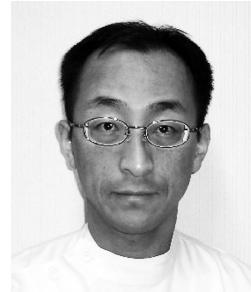
氏 名	小阪 博
役 職	招聘医師
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	月 2 回手術

平均病棟受け持ち患者数

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター

〒 646-8558 和歌山県田辺市たきない町 27 番 1 号 電話番号 0739-26-7050

皮膚科代表者名	南 宏典	特 殘 設 備	PUVA
病院総病床数	316床	発 表 論 文 数	0件
皮膚科病床数	1床	発 表 演 題 数	0件
皮膚科年間総外来患者数	10,236人		
皮膚科年間総新患数	712人		
皮膚科年間入院総手術数	0件		
皮膚科年間外来総手術数	1件		
皮膚科年間生検数	5件		



氏 名	南 宏典
役 职	皮膚科医長
専門医資格	皮膚科専門医
学会関係役員	
病院の運営委員会	医療安全管理室長、医療安全推進部会部会長、図書委員会委員長、褥瘡管理小委員会委員長
外来(専門外来・回数)	一般 10回、専門 0回
平均病棟受け持ち患者数	1.35人
学 生 講 義	紀南看護専門学校 9時間、熊野高等学校看護科 4時間
一言(施設の特徴など)	広い窓から南紀白浜の海が見えるリゾートホテルのような病院です。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院

〒 591-8025 大阪府堺市北区長曾根町 1179-3 電話番号 072-252-3561

皮膚科代表者名	土居 敏明	特 殘 設 備	
病院総病床数	678床	光線治療器(部分照射型, UVA, UVB)	
皮膚科病床数	5床		
皮膚科年間総外来患者数	12,142人	発 表 論 文 数	0
皮膚科年間総新患数	1,604人	発 表 演 題 数	講演: 2, 座長: 2
皮膚科年間入院総手術数	0		
皮膚科年間外来総手術数	16件		
皮膚科年間生検数	55件		



氏 名	土居 敏明
役 职	皮膚科部長
専門医資格	日本皮膚科学会認定専門医
学会関係役員	日本皮膚科学会 代議員 日本皮膚科学会 渉外・広報委員 日本皮膚科学会中部支部 渉外・広報委員長 日本皮膚科学会大阪地方会 運営委員 日本臨床皮膚科医会 会則検討委員 日本臨床皮膚科医会近畿ブロック 理事

病院の運営委員	日本医師会堺市医師会皮膚科医会会長（10月退任） 褥瘡対策委員長 健保関連委員
外来（専門外来・回数）	週4回（月、水、木、金）
平均病棟受け持ち患者数	

学 生 講 義	大阪大学医学部学生への皮膚科学講義（紅斑症関連）
氏 名	朝倉 麻紀子
役 職	皮膚科医長
専 門 医 資 格	あり（2013.10月取得）
外来（専門外来・回数）	週2.5回（月、金と第1,3,5水）
平均病棟受け持ち患者数	1~4人の間で変動

氏 名	西野 洋輔
役 職	皮膚科医員
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週3回（月、火、木）
平均病棟受け持ち患者数	1~4人の間で変動 (2013.6末で退職)

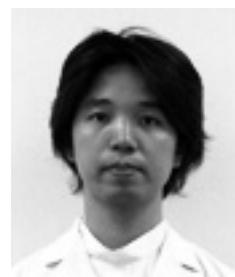
氏 名	城村 拓也
役 職	皮膚科医員
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週3回（月、火、木）
平均病棟受け持ち患者数	1~4人の間で変動 (2013.7.1着任)

氏 名	市原 總子
役 職	非常勤嘱託
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週0.5回（第2,4水曜日）
平均病棟受け持ち患者数	1~4人の間で変動 (2013.12末退職)

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院

〒 660-8511 兵庫県尼崎市稻葉荘 3-1-69 電話番号 06-6416-1221

皮膚科代表者名	福山 國太郎	特 殊 設 備
病院総病床数	642床	UVA／UVB照射装置、スーパーライザ
皮膚科病床数	4床	ー、ダーモスコピー
皮膚科年間総外来患者数	11,697人	
皮膚科年間総新患数	2,050人	発 表 論 文 数 4
皮膚科年間入院総手術数	32件	発 表 演 題 数 2
皮膚科年間外来総手術数	165件	
皮膚科年間生検数	113件	



氏 名	福山 國太郎
役 職	副部長

専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医, 日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医
学会関係役員	運営委員, 救急当直委員, 臨床研修委員, 手術委員
病院の運営委員	週4日
外来(専門外来・回数)	2人
平均病棟受け持ち患者数	年2回付属看護学校において講義しています。
学生講義	地域の基幹病院として入院を必要とするような救急疾患, 皮膚悪性腫瘍を主な診療内容としています。
一言(施設の特徴など)	

氏名	松井 佐起
役職	スタッフ
専門医資格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	3人

氏名	花岡 佑真
役職	レジデント
専門医資格	
外来(専門外来・回数)	週3回
平均病棟受け持ち患者数	3人

東大阪市立総合病院

〒578-8588 東大阪市西岩田34-5 電話番号 06-6781-5101

皮膚科代表者名	猿喰 浩子	特殊設備
病院総病床数	504床	UVA/NB-UVB 紫外線照射装置(全身型, 半身型), 超音波診断装置(体表エコー), 半導体レーザー(メディレーザーソフト), ダーモスコピー
皮膚科病床数	8床	
皮膚科年間総外来患者数	15,655人	
皮膚科年間総新患数	2,068人	
皮膚科年間入院総手術数	12件	
皮膚科年間外来総手術数	184件	発表論文数 0
皮膚科年間生検数	169件	発表演題数 2



氏名	猿喰 浩子
役職	主任部長
専門医資格	日本皮膚科学会専門医
学会関係役員	日本皮膚科学会中部支部評議員 日本皮膚科学会大阪地方会運営委員 『皮膚の科学』編集員
病院の運営委員	薬事審議委員会委員 外来運営委員会委員 褥瘡対策委員会委員長
外来(専門外来・回数)	午前診: 週4回 午後診: 週2回 フットケア外来(週1回) 褥瘡廻診(週1回)
平均病棟受け持ち患者数	
学生講義	
一言	

当科では、中毒性表皮壊死症や壊死性筋膜炎などの全身管理を必要とする急性期疾患から、アトピー性皮膚炎、乾癬、褥瘡などの慢性疾患など幅広く診察加療しています。

また昨今なかなか経験することが困難な産婦人科や、新生児・乳幼児の疾患も経験できます。

2013年度は超重症の壊死性筋膜炎を何とか軽快させることができました。

氏名 渡邊 愛子
役職 部長
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
外来(専門外来・回数) 午前診:週3回 午後診:週2回
平均病棟受け持ち患者数 3~6人

氏名 園山 悅子
役職 医長
専門医資格 日本皮膚科学会専門医
外来(専門外来・回数) 午前診:週3回 午後診:週2回
平均病棟受け持ち患者数 3~6人

箕面市立病院

〒562-0014 箕面市萱野5-7-1 電話番号 072-728-2001

皮膚科代表者名	松本 千穂	特殊設備
病院総病床数	317床	UVA, UVB, ナローバンドUVB, エコー,
皮膚科病床数	6~12床	PET-CT
皮膚科年間総外来患者数	11,329人	発表論文数 1 発表演題数 4



皮膚科年間総新患数
皮膚科年間入院総手術数
皮膚科年間外来総手術数
皮膚科年間生検数

総新患数は230人（年間総初診患者は1,194人）
2件（形成外科入院での皮膚疾患手術数は96例）
7件（形成外科手術数は400件、皮膚科とともに手術施行）
270件

氏名 松本 千穂
役職 皮膚科主任部長
専門医資格 あり
学会関係役員 チーム医療推進部副部長（褥瘡チーム担当）、パス委員、糖尿病支援チーム委員
病院の運営委員 外来(専門外来・回数)
平均病棟受け持ち患者数
学生講義

勤務医データ
氏名 崎元 和子
役職 医員
専門医資格 あり
外来(専門外来・回数) 3回/週
平均病棟受け持ち患者数 4~5人

氏名 角村 由紀子(H24.4-12月)
役職 医員
専門医資格 2回/週
外来(専門外来・回数)
平均病棟受け持ち患者数 4~5人

八尾市立病院

〒 581-0069 八尾市龍華町 1-3-1 電話番号 072-922-0881

皮膚科代表者名	高木 圭一	特 殊 設 備
病院総病床数	380床	紫外線照射装置, 炭酸ガスレーザー
皮膚科病床数	2床	
皮膚科年間総外来患者数	4,577人	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間総新患数	808人	発 表 演 題 数 0
皮膚科年間入院総手術数	0件	
皮膚科年間外来総手術数	30件	
皮膚科年間生検数	70件	

氏 名	高木 圭一
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	皮膚科学会専門医
学 会 関 係 役 員	
病院の運営委員	倫理委員会, 薬事委員会, 褥瘡委員会, 診療報酬委員会
外来(専門外来・回数)	5日 / 週
平均病棟受け持ち患者数	
学 生 講 義	

関連病院業績集

(50音順)

一般財団法人 住友病院	88
NTT 西日本大阪病院	88
大阪厚生年金病院	89
大阪船員保険病院	91
大阪府立急性期・総合医療センター	91
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	91
岸和田徳洲会病院	94
公益財団法人 日本生命済生会付属日生病院	94
公立学校共済組合近畿中央病院	96
国家公務員共済組合連合会 大手前病院	96
(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院	97
市立池田病院	97
市立吹田市民病院	98
市立豊中病院	98
地方独立行政法人 市立堺病院	98
独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター	99
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター	100
独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター	101
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院	101
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院	101
東大阪市立総合病院	102
箕面市立病院	102
八尾市立病院	103

一般財団法人 住友病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 井下哉恵, 神谷 智, 則岡有佳, 庄田裕紀子: 幼児に発症した肉芽腫性口唇炎の1例. 第435回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.2.9)
2. 神谷 智, 則岡有佳, 井下哉恵, 庄田裕紀子(住友皮膚科), 菅原浩之(同・血液内科): 転移性結核性膿瘍の1例. 第436回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.3.23)
3. 竹原友貴, 高山かおる, 佐藤貴浩, 木村 円, 横関博雄(東京医科歯科大学皮膚科): 3D足測定器を用いた若年女性の足測定による現状把握と今後の展望. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜 (2013.6.14)
4. 豊田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: 持久性隆起性紅斑の1例 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.12.7)

[講演・その他]

1. 庄田裕紀子: 皮膚から読み解く糖尿病性足病変. 第15回 透析に関する勉強会, 中外製薬(株) 大阪支社会議室, 大阪 (2013.7.4)
2. 竹原友貴: 膜原病における皮膚石灰沈着症. 第9回大阪大学皮膚科臨床検討会, 大阪 (2013.3.9)
3. 竹原友貴, 佐藤貴浩, 西澤 紗, 佐伯和美, 中村正孝, 増澤幹男, 金田安史, 片山一朗, 横関博雄(東京医科歯科大学皮膚科, 大阪大学皮膚科): HVJ-E の血管肉腫に対する抗腫瘍効果. 第2回 Crosstalk Osaka, 大阪 (2013.3.23)
4. 竹原友貴, 佐藤貴浩, 西澤 紗, 佐伯和美, 中村正孝, 増澤幹男, 金田安史, 片山一朗, 横関博雄(東京医科歯科大学皮膚科, 大阪大学皮膚科): Inactivated Sendai virus particles with an IL-2 gene exert anti-tumor effects on murine angiosarcoma. 第10回天王山カンファレンス, 京都 (2013.10.19)
5. 豊田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: ニコチン酸アミドが奏功した持久性隆起性紅斑の1例. 第205回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.6.27)
6. 豊田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: 1歳児の臀部に生じた結合織母斑の1例. 第207回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.11.21)

[受賞] 0

NTT西日本大阪病院

[論文著書]

和文論文

1. 水野麻衣, 清水裕希, 坂井浩志, 調 裕次, 杉山 広, 山崎 浩: サブイレウスにて保存的加療されていた旋尾線虫による皮膚幼虫移行症の1例. 臨床皮膚 2013;67(7):539-42
2. 調 裕次: 外来でみられる小児皮膚疾患 白斑. 小児外科 2013;45(10):1084-6
3. 調 裕次: 成人スチル病. 日本皮膚科学会雑誌 2013;123(13):2530-2

和文著書

1. 調 裕次: 蕁麻疹類症 Schnitzler症候群の診断・病理・治療. 皮膚科臨床アセット 16 蕁麻疹・血管性浮腫パーセクトマスター 2013;295-7

2. 調 裕次：デルマドローム 皮膚筋炎. 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント 2013;212-7
3. 調 裕次：成人 Still 病の非定型疹－皮膚筋炎様成人 Still 病. 医学のあゆみ 呼吸機能検査 Up date 2013;244(11):993-4
4. 調 裕次：蕁麻疹と考えたとき忘れてはならない症候群 7. 発熱から疑う. Scnitzler 症候群. 皮膚科臨床アセット 20 日常診療において忘れてはならない皮膚科症候群 2013;32-5

[学会発表]

1. 日野上はるな, 金井千恵, 坂井浩志, 調 裕次：Semicircular lipoatrophy の 1 例. 第 435 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.2.9)
2. 坂井浩志, 外村香子, 日野上はるな, 調 裕次：逆性埋伏歯による外歯瘻の 1 例. 第 437 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.5.18)
3. 調 裕次：成人スタイル病. 第 112 回日本皮膚科学会総会 教育講演, 横浜市 (2013.6.14)
4. 坂井浩志, 調 裕次, 日野上はるな, 金井千恵：破裂ベーカー嚢腫 6 症例の検討. 第 112 回日本皮膚科学会総会, 横浜市 (2013.6.14)
5. 外村香子, 日野上はるな, 坂井浩志, 調 裕次, 竹内英二 (整形外科)：皮下腫瘍を疑った上腕二頭筋長頭腱断裂の 1 例. 第 106 回近畿皮膚科集談会, 第 438 回日本皮膚科学会大阪地方会, 第 431 回日本皮膚科学会京滋地方会, 大阪市 (2013.7.21)
6. 伊藤礼子, 金 義浩, 山上 保, 村上雅樹, 坂井浩志, 調 裕次：化学療法抵抗性の ATL に対して モガムリズマブ使用後に中毒性表皮壊死症 (TEN) を来たし死亡に至った一例, 札幌市 (2013.10.11)
7. 外村香子, 日野上はるな, 坂井浩志, 調 裕次：unilateral multiple piloleiomyoma の 1 例. 第 64 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋市 (2013.11.2-3)
8. 坂井浩志, 外村香子, 日野上はるな, 調 裕次：ダーモスコピーで皮丘平行パターンを示す色素性母斑, 2 症例の検討. 第 440 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.12.7)

[講演・その他]

1. 調 裕次：リウマチ以外のリウマチ性疾患一帯状疱疹とその対応. 第 7 回市民公開講座 リウマチ以外のリウマチ性疾患～膠原病・強直性脊椎炎・リウマチ性多発筋痛症～, 大阪市 (2013.3.3)
2. 日野上はるな：膠原病・リウマチにおける皮膚感染症について. 第 4 回リウマチ・膠原病教室, 大阪市 (2013.5.30)
3. 調 裕次：「にせもの膠原病」と「似たもの膠原病」. なにわレディース・デルマ懇話会, 大阪市 (2013.7.18)
4. 外村香子：褥瘡のみかたと治療 DESIGN-R による評価の方法. 褥瘡対策委員会 前期勉強会, 大阪市 (2013.9.18)
5. 調 裕次：膠原病の皮疹の視かたと鑑別. 第 2 回 NTT 西日本大阪病院リウマチ・膠原病フォーラム, 大阪市 (2013.9.28)
6. 日野上はるな：猛威振るう「風疹」医療機関にご相談を. ライフサポート ALL NTT WORKERS UNION OF JAPAN 第 535 号 (2013.4.27) (新聞投稿)

大阪厚生年金病院

[論文著書]

和文著書

1. 池上隆太：熱傷・低温熱傷. 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント－ 2013;84-8

和文論文

1. 池上隆太：趾間型足白癬から切断に至った症例. Visual Dermatology 2013;12(1):1154-5

[学会発表]

1. 池上隆太, 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 松本考平：糖尿病性足潰瘍における発生原因の検討. 第11回日本フットケア学会・第5回日本下肢救済・足病学会合同学術大会, 横浜市 (2013.9.10)
2. 池上隆太：4年かかって治癒した糖尿病性足潰瘍の1例. 第26回皮膚科糖尿病循環障害研究会, 大阪市 (2013.4.25)
3. 井上知子, 松本考平, 溝口奈穂, 坂本幸子, 池上隆太：増殖性天疱瘡の1例. 第205回大阪皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.6.27)
4. 井上知子, 松本考平, 溝口奈穂, 坂本幸子, 池上隆太：増殖性天疱瘡の1例. 第205回大阪皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.6.27)
5. 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 松本考平, 池上隆太：ベンゼトニウム塩化物により下腿潰瘍を生じた1例. 第437回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.5.18)
6. 錢林雅子, 吉岡奈美, 新田洋介, 鈴木智子, 福永みちる, 石橋里江子, 宮田 哲, 亀井利沙, 松本考平, 池上隆太：当院で最近経験したインスリンアレルギーを伴う糖尿病の3症例. 第56回日本糖尿病学会年次学術集会, 熊本市 (2013.5.16-18)
7. 坂本幸子, 井上知子, 溝口奈穂, 松本考平, 池上隆太, 宮本景子, 塚本文音：乳癌術後放射線照射部位に生じた皮膚血管肉腫の1例. 第439回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.10.12)
8. 松本考平, 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 池上隆太, 岡 樹史：集学的治療を行ったクリオグロブリン血症による難治性下腿潰瘍の1例. 第36回日本脈管膠原病研究会, 豊中市 (2013.1.25-26)
9. 松本考平, 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 中林洋平, 高木美奈子, 松下哲也, 池上隆太：難治性皮膚潰瘍の原因が悪性腫瘍であった4例. 第11回日本フットケア学会・第5回日本下肢救済・足病学会合同学術大会, 横浜市 (2013.9.10)
10. 相澤見帆, 鈴木智子, 吉岡奈美, 新田洋介, 錢林雅子, 福永みちる, 石橋里江子, 松本考平, 春日井務, 宮田 哲：反応性穿孔性膠原線維症を生じた1型糖尿病の1例. 第201回日本内科学会近畿地方会, 京都市 (2013.9.7)
11. 溝口奈穂, 井上知子, 松本考平, 坂本幸子, 池上隆太, 神谷 智, 庄田裕紀子：水疱性類天疱瘡の経過中に発症した尋常性乾癬の1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋市 (2013.11.2-3)

[講演・その他]

1. 池上隆太：チームアプローチによる褥瘡対策と地域連携. 厚生労働省平成24年度チーム医療普及推進事業 チーム医療シンポジウム, 大阪市 (2013.2.23)
2. 池上隆太：フットケアチームによる下肢救済と足病予防に対する取り組み. 厚生労働省平成24年度チーム医療普及推進事業 チーム医療シンポジウム, 大阪市 (2013.2.23)
3. 池上隆太, 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 松本考平：難治性潰瘍の原因が塩化ベンゼトニウムと考えられた1例. 第11回大阪市西・中・北部地区皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.3.2)
4. 池上隆太：糖尿病足潰瘍における発生原因の検討. Seasonal Post 5(2) : 5, 2013.7.5
5. 中井大介, 亀井利沙, 溝口奈穂, 松本考平, 池上隆太：皮膚型結節性多発動脈炎の1例. 第11回大阪市西・中・北部地区皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.3.2)

[受賞]

1. 池上隆太：第18回ギンナン皮膚科談話会, 平成25年度大阪大学皮膚科同窓会賞 (2013.6.22)
2. 巽 一啓：尋常性乾癬に合併した抗ラミニン γ 1類天疱瘡の1例. 第106回近畿皮膚科集談会, 平成24年度皮膚の科学論文賞 (2013.7.21)

大阪船員保険病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

大阪府立急性期・総合医療センター

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他]

1. 中島武之：バクタによる DHIS を疑った1例. 第1回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
2. 中島武之：特異な臨床像を呈した帶状疱疹の1例. 第1回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
3. 西野洋輔：中毒性表皮壊死症の1例. 第1回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
4. 中島武之：アリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の1例. 第2回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
5. 中島武之：顔面の局在状サルコイドーシスを疑った1例. 第2回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.11.18)
6. 西野洋輔：好酸球性肺炎に伴ったリンパ腫様丘疹症の1例. 第2回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.11.18)
7. 西野洋輔, 中島武之：好酸球性肺炎に伴ったリンパ腫様丘疹症の1例. 第207回大阪皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.11.21)

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

[論文著書]

和文論文

1. 片岡葉子：心と皮膚（皮膚科セミナリウム）. 日本皮膚科学会雑誌 2013;123(1):1-7
2. 片岡葉子：Tricky Atopic Dermatitis：治療のゴール到達を阻む3つのpitfall. 皮膚の科学 2013;12(20):19-27
3. 吉岡詠理子, 西岡めぐみ, 谷 守, 片山一朗：抗中心体抗体が陽性で特異な色素沈着を伴った scleroderma spectrum disorder 皮膚病診療 2013;35(10):969-72

和文著書

1. 片岡葉子：Q&Aでわかる0・1・2・3歳の食物アレルギー相談対応ブック（兵庫食物アレルギー研究会）. 1, 診断と治療社, 東京, 2013, 42-6
2. 片岡葉子：1冊でわかる最新皮膚科治療（五十嵐敦之, 宮地良樹, 清水 宏）. 1, 文光堂, 東京,

2013, 131-3

3. 片岡葉子：Breathlet（亀田 誠, 吉原重美, 池部敏市）, 8, 協和企画, 2013, 6-9
4. 片岡葉子：食物アレルギー外来診療のポイント 63（兵庫食物アレルギー研究会 木村彰宏, 黒坂文武, 小島崇嗣）, 2, 診断と治療社, 東京, 2013, 13-6
5. 清水裕希, 片岡葉子：症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて（海老澤元宏）, あ, 南光堂, 東京, 2013, 222-3

[学会発表]

1. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎と不登校・ひきこもり－当院における不登校合併例への取り組み－, 第3回日本皮膚科心身医学会, 東京 (2013.1.27)
2. 片岡葉子：治療戦略としての患者教育, 第25回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜 (2013.5.11-12)
3. Kataoka Yoko : BIO, PSYCHO, SOCIAL LONG-STANDING EFFECT OF 2-WEEK HOSPITALIZED EDUCATIONAL PROGRAM WITH SIMULTANEOUS INTENSIVE DERMATOLOGICAL TREATMENT FOR ADULT REFRACTORY SEVERE ATOPIC DERMATITIS. 15th Congress of the European Society for Dermatology and Psychiatry, Roskilde Denmark (June 6-8,2013)
4. 片岡葉子：皮膚心身医学総論, 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜 (2013.6.14-16)
5. 片岡葉子：養育者のQOL評価と皮膚科診療への還元－乳児アトピー性皮膚炎養育者のQOL向上へのとりくみから－, 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜 (2013.6.14-16)
6. 片岡葉子：乳児アトピー性皮膚炎をみたとき皮膚科医は何をすべきか？－急増する食物アレルギーから小児を守るために重大警告－, 第18回ギンナン皮膚科談話会, 大阪 (2013.6.22)
7. 片岡葉子：ドライスキン・スキンケアのpitfall, 第29回日本臨床皮膚科医会近畿ブロック総会・学術大会, 和歌山 (2013.10.6)
8. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎診療の質 Quality Indicatorを考える, 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋 (2013.11.2-3)
9. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎は適切に治療されているのか？眠れる皮膚科医よ, 目を覚ませ!, 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 金沢 (2013.11.29-12.1)
10. 岸田寛子, 別所 優, 吉岡詠理子, 西野 洋, 片岡葉子, 松野 治, 津森鉄平, 河原邦光：呼吸器症状を主症状とし好酸球增多血症, 皮疹を伴ったCastleman病の1例, 第71回臨床アレルギー研究会, 大阪 (2013.7.6)
11. 岸田寛子：著明な顔面浮腫を伴った好酸球膿疱性毛包炎の1例, 第2回南大阪DERMA懇話会, 大阪 (2013.10.26)
12. 岸田寛子, 別所 優, 吉岡詠理子, 西野 洋, 片岡葉子：著しい顔面腫脹を伴った好酸球膿疱性毛包炎の一例, 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋 (2013.11.2-3)
13. 岸田寛子, 別所 優, 吉岡詠理子, 原田 潤, 西野 洋, 片岡葉子：呼吸器症状で初発し, 好酸球增多血症, 皮疹を伴ったCastleman病の1例, 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.12.7)
14. 西野 洋, 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 片岡葉子：診断例, 第204回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.3.28)
15. 西野 洋, 別所 優, 吉岡詠理子, 原田 潤, 岸田寛子, 片岡葉子：Eccrine nevusの1例, 第206回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.9.26)
16. 原田 潤, 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 片岡葉子：下腿の著明な限局性浮腫を呈した診断例, 第207回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.11.21)
17. 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 西野 洋, 片岡葉子：帶状疱疹様の外観を呈した肺癌皮膚転移の1例, 第436回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.3.23)
18. 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 西野 洋, 片岡葉子：Hailey-Hailey病の一例, 第205回大阪皮膚科症例検討会, 大阪 (2013.6.27)
19. 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 西野 洋, 片岡葉子：エポキシレジンによる職業性接触皮膚炎の1例, 第106回近畿皮膚科集談会, 大阪 (2013.7.21)
20. 吉岡詠理子, 遠山知子, 岸田寛子, 西野 洋, 片岡葉子：コラーゲン含有トリートメント剤を扱う美容師に生じた豚骨ラーメンによるアナフィラキシーショックの1例, 第25回日本アレルギー学会春

季臨床大会、横浜 (2013.5.11-12)

21. 吉岡詠理子、別所 優、岸田寛子、西野 洋、片岡葉子：重症乳幼児アトピー性皮膚炎早期寛解導入外用療法による食物アレルギー成立の回避；臨界期の検討。第63回日本アレルギー学会秋季学術大会、東京 (2013.11.28-30)
22. 吉岡詠理子1、別所 優1、岸田寛子1、西野 洋1、片岡葉子1、錦戸知喜2 (1大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター、2同小児科)：著明な高カリウム血症と脳萎縮を認めた重症乳幼児アトピー性皮膚炎の1例。第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会、金沢 (2013.11.29-12.1)
23. 吉岡詠理子、別所 優、原田 潤、岸田寛子、片岡葉子：重症乳児アトピー性皮膚炎早期寛解外用療法による食物アレルギー成立の回避；臨界期の検討。第72回臨床アレルギー研究会、大阪 (2013.12.21)

[講演]

1. 片岡葉子：Tricky atopic dermatitis : 治療のゴール到達を阻む3つのpitfall. アトピー性皮膚炎治療研究会第18回シンポジウム、仙台 (2013.1.26)
2. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎外用療法を再考する－“Tight but Safe control”の意義とタクロリムス外用薬の位置づけ－。プロトピック軟膏小児用発売10周年記念講演会、京都 (2013.2.9)
3. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎外用療法を再考する－“Tight but Safe control”の意義とタクロリムス外用薬の位置づけ－。学術講演会、岡山 (2013.2.22)
4. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎外用療法を再考する－“Tight but Safe control”の意義とタクロリムス外用薬の位置づけ－。プロトピック軟膏小児用発売10周年記念講演会、福岡 (2013.2.23)
5. 片岡葉子：寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～外用療法を再考する～。第8回加古川医師会皮膚科医会総会、加古川 (2013.2.28)
6. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎の治療～外用療法の意義とコツ～。神戸市小児科医会学術講演会、神戸 (2013.3.2)
7. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎の治療～外用療法の意義とコツ～。第2回熊本乳幼児アレルギー研究会、熊本 (2013.3.9)
8. 片岡葉子：もう迷わない！アトピー性皮膚炎～正しい知識・正しい治療～。NPO発！“市民のまなび”応援事業、松原市 (2013.3.16)
9. 片岡葉子：寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療：外用療法を再考する。第55回愛知県皮膚科医会総会、名古屋市 (2013.5.18)
10. 片岡葉子：乳児アトピー性皮膚炎をみたとき何をすべきか？。第7回小児・皮膚免疫アレルギー研究会、千葉 (2013.5.23)
11. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎：治療とゴール到達を阻む3つのPitfall。第22回三淀地区皮膚科疾患研究会、大阪 (2013.5.24)
12. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎：外用療法の意義とコツ。第35回吹田小児医療談話会、大阪 (2013.6.29)
13. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎の病態と検査・治療。アレルギー看護コースⅢ、大阪 (2013.7.12)
14. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎外用療法を再考する－“Tight but Safe control”の意義とタクロリムス外用薬の位置づけ－。プロトピック小児用発売10周年記念講演会、大津 (2013.7.13)
15. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎治療のPITFALL。小児喘息・アレルギーセミナー2013、東京 (2013.7.18)
16. 片岡葉子：乳幼児アトピー性皮膚炎の治療。第24回和泉小児疾患研究会、大阪 (2013.7.20)
17. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎－治療の意義とコツ－。第24回和泉小児疾患研究会、大阪 (2013.7.20)
18. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎のバイオマーカー。第33回六甲カンファレンス アレルギー疾患のバイオマーカー、京都 (2013.7.27-28)
19. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎の正しい知識と対応2013～子どもたちの学校生活と未来が妨げられないようにするために～。H25公開講座はびきのセミナー、大阪 (2013.8.30)
20. 片岡葉子：TARCの登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー～小児における意義と活用～。第23回日本外来小児科学会年次集会、ランチョンセミナー 福岡 (2013.9.1)

21. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎の治療～外用療法の意義とコツ～. 北摂小児スキンケア研究会, 大阪 (2013.10.24)
22. 片岡葉子：TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー－小児における意義と活用－. 第7回関西P&Dアトピー性皮膚炎治療フォーラム, 大阪 (2013.11.14)
23. 片岡葉子：寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療－TARCで見直す治療戦略－. 石川県皮膚科医会講演会, 石川 (2013.12.5)
24. 片岡葉子：バイオマーカーとしてのTARC測定の有用性（アトピー性皮膚炎を中心に）. シスマックス免疫セミナーin Osaka 2013, 大阪 (2013.12.6)
25. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎の治療～外用療法の意義とコツ～. 第50回中河内小児科談話会, 大阪 (2013.12.14)

岸和田徳洲会病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

公益財団法人 日本生命済生会付属日生病院

[論文著書]

和文論文

1. 東山真里：生物製剤による乾癬治療 日本医事新報 2013年 No 4674 22-7
2. 東山真里：皮膚疾患患者・家族のためのより良いコミュニケーションのために「乾癬」 Clinical Derma, 2013;15(2):29-10
3. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里：陰圧閉鎖療法を用いて治療した糖尿病に合併した背部皮下膿瘍の1例, 皮膚の科学 2013;12:97-102
4. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里, 福本隆也, 浅田秀夫：成人に発症した蚊刺過敏症の1例, 皮膚の科学 2013;12:117-21
5. 林 美沙 1), 中川幸延 1), 遠山知子 1), 平野亜由子 1), 佐藤彩子 1), 東山真里 1), 濑口道秀 2), 杉本麗子 2) : 1) 日生病院皮膚科 2) 同眼科：インフリキシマブが奏効した乾癬に伴うぶどう膜炎の2例, 日皮会誌, 2013;123:1787-96

和文著書

1. 東山真里：第1章 各疾患の診断と治療 I 湿疹と類症 10 乾癬 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント, 横関博雄・片山一朗編. 医薬ジャーナル社 2013, 44-9
2. 東山真里：乾癬 皮膚疾患トップ20 攻略法, 古川福実編, 南山堂 2013, 71-80
3. 東山真里：凍結療法 これ1冊でわかる皮膚科治療, 五十嵐敦之他編, 分光堂 2013, 218-22

[国内学会]

1. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里：蚊アレルギーと考えた1例, 第435回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.2.9)

2. 平野亜由子, 岡田みどり, 林 美沙, 東山真里: 糖尿病を合併した背部皮下膿瘍の1例, 第436回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.3.23)
3. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山真里: 当院で経験した高齢者の帶状疱疹, 第29回日本臨床皮膚科医会総会, 名古屋市 (2013.4.6-7)
4. 岡田みどり, 林 美沙, 高橋玲子, 東山真里, 横見明典: Hyperkeratotic capillary-venous malformation の1例 第437回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.5.18)
5. 林美沙, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里: エキシマライトが有効であった汎発性環状肉芽腫の1例 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜市 (2013.6.14-16)
6. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 林 美沙(大阪大学): アダリブマブ治療6年目に肺結核を合併した尋常性乾癬の1例 第106回近畿皮膚科集談会, 大阪市 (2013.7.21)
7. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 森田真也, 鈴木真優美(同総合内科), 林 美沙(大阪大学): 乾癬に対するアダリムマブ治療中に肺感染症を合併した5例 第28回日本乾癬学会, 東京 (2013.9.6-7)
8. 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり, 東山真里: Sister Mary Joseph 結節の1例 第64回日本皮膚科学会中部支部総会, 名古屋市 (2013.11.2-3)
9. 東山真里, 岡田みどり, 高橋玲子, 大川たをり: ステラーラが奏効した乾癬性紅皮症, 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.12.7)

[講演・その他]

1. 東山真里: 乾癬と併存症 - メタボリック症候群, 日生ベーシックセミナー大阪市 (2013.1.24)
2. 東山真里: 乾癬治療新時代 - かゆみのコントロールも含めて 第26回北河内女医の会, 大阪市 (2013.3.16)
3. 東山真里: 乾癬に合併する疾患, 第4回大阪バイオフォーラム, 大阪市 (2013.3.29)
4. 東山真里: 新時代における乾癬治療 - 病病・病診連携の必要性と実際生物学的製剤を視野に入れた乾癬治療 - より良い病診連携のポイントとは? 第29回日本臨床皮膚科医会総会イブニングセミナー2, 名古屋市 (2013.4.6-7)
5. 東山真里: 生物製剤を視野に入れた乾癬治療 - 適応症例と導入前後の注意点 大阪乾癬治療講演会, 大阪市 (2013.4.25)
6. 東山真里: 糖尿病と皮膚疾患の関係 - 糖尿病性壞疽にご用心 第3回日生病院糖尿病センター公開セミナー 大阪市 (2013.5.25)
7. 東山真里: 手足症候群の治療と対策 - 癌治療院内勉強会 大阪市 (2013.5.30)
8. 高橋玲子, 岡田みどり, 大川たをり, 東山真里, 林 美沙(大阪大学): イソニアジドの予防投与にて急性増悪を認めた尋常性乾癬の1例 大阪市, 第18回ギンナン皮膚科談話会 (2013.6.22)
9. 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里: 特異な経過を辿った高齢者の落葉状天疱瘡の1例 第205回大阪皮膚科症例検討会 大阪市 (2013.6.27)
10. 東山真里: これから生物学的製剤に何を求めるのか? 患者会相談医の立場より - これからの生物学的製剤に何を求めるのか? 第28回日本乾癬学会モーニングセミナー, 東京 (2013.9.6-7)
11. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里: 日光暴露のより増悪した家族性良性天疱瘡, 第206回大阪皮膚科症例検討会 大阪市 (2013.9.26)
12. 東山真里: 乾癬治療の新展開 - 有効・安全に生物学的製剤を使うには 草津栗東エリアステラーラ講演会, 草津市 (2013.10.23)
13. 東山真里: 乾癬治療のゴールを目指して・大阪乾癬患者の会学習会, 大阪市 (2013.10.26)
14. 東山真里: 皮膚病と内臓疾患~皮膚は健康の鏡~あなたは大丈夫ですか 皮膚の日講演会, 大阪市 (2013.11.10)
15. 東山真里: 乾癬治療におけるトータルマネジメントの重要性, 第43回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会ランチョンセミナー, 金沢市 (2013.11.29-12.1)
16. 東山真里: 乾癬治療の新時代 - 乾癬治療ネットワークの重要性と患者会の役割 第321回日本皮膚科学会長崎地方会 スポンサードセミナー, 長崎市 (2013.12.21)

公立学校共済組合近畿中央病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 樽谷勝仁, 阿部綾乃, 北場 俊: イレッサ投与中に生じたアナフィラクトイド紫斑の1例 第62回高知地方会 高知 (2013.9.28)

[講演・その他]

1. 阿部綾乃: 尋常性天疱瘡に併発した solitary tumor の1例 第69回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2013.6.27)
2. 阿部綾乃: 硬結性紅斑か? 第70回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2013.10.24)
3. 北場 俊: 褥瘡の基本 院内褥瘡勉強会 伊丹 (2013.9.20)
4. 北場 俊: 吸引水疱蓋移植を行った壊疽性臍皮症の1例 第70回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2013.10.24)
5. 樽谷勝仁: 乾癬の病態と最新治療について 福島皮膚科スプリングセミナー2013 特別講演 福島 (2013.5.17)
6. 樽谷勝仁: 高知で経験した興味深い症例 第69回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2013.6.27)
7. 樽谷勝仁: 角化症 大阪大学皮膚科関連病院クルーズ 大阪 (2013.8.4)
8. 樽谷勝仁: 乾癬の治療の進歩 joy会 大阪 (2013.9.26)
9. 樽谷勝仁: 好酸球性筋膜炎か? 第70回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2013.10.24)
10. 樽谷勝仁: 高知における乾癬の治療について 大阪乾癬患者友の会 第30回学習懇談会 大阪 (2013.10.26)
11. 樽谷勝仁: 私の処方 - 皮膚疾患治療藁 - 第37回臨床医学セミナー 伊丹 (2013.11.14)

国家公務員共済組合連合会 大手前病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 土井知江, 高橋祐史, 辻 真紀, 矢島智子, 宮田あゆみ, 有馬良一, 園田早苗: 後頸部に生じた皮下腫瘤で好酸菌陽性であった一例 第203回大阪皮膚科症例検討会 大阪市 (2012.11.22)
2. 園田早苗: 加齢皮膚医学における漢方療法 Dermatology Kampo Seminar 大阪市 (2013.2.21)
3. 園田早苗, 高橋祐史, 土井知江: 皮膚疾患治療における最近の話題 爪甲鉤彎症と陷入爪 第57回 湾岸勉強会 神戸市 (2013.3.16)
4. 土井知江, 高橋祐史, 園田早苗: 粘液のう腫の合併を認めた尿膜管遺残症の1例 第436回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪市 (2013.3.23)
5. 土井知江, 高橋祐史, 園田早苗: 中毒疹様皮疹と皮膚そう痒が診断に先行したホジキンリンパ腫の1例 第205回大阪皮膚科症例検討会 大阪市 (2013.6.27)
6. 園田早苗: スティーブンス・ジョンソンの一例 第59回湾岸勉強会 神戸市 (2013.10.5)
7. 土井知江, 高橋祐史, 園田早苗: 中毒疹様皮疹と皮膚そう痒が診断に先行したホジキンリンパ腫の1例 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 名古屋市 (2013.11.2-3)

[講演・その他]

1. 園田早苗：スキンケア レーザー治療・イオン導入・ケミカルピーリング 第5回センターリサーチセミナー 大阪市 (2013.8.4)
2. 園田早苗：研修医のための皮膚科救急疾患 研修医懇話会 大阪市 (2013.11.8)

(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院

[論文著書]

和文論文

1. 金井千恵, 白山純実, 城光寺龍, 辻本正彦, 八幡陽子：イミキモドクリームが奏功した古典型 Kaposi 肉腫の1例 臨床皮膚科 2013;67(11):911-6
2. 永田尚子, 矢島智子, 梅垣知子, 八幡陽子：手背の皮下結節を契機に肺結核を診断した結節性結核性静脈炎の1例 皮膚科の臨床 2013;55(5):615-8

[学会発表]

1. 白山純実, 須磨朱里, 八幡陽子：著明な組織球浸潤を認めた CD8 陽性リンパ腫様丘疹症の1例 第436回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪市 (2013.3.23)
2. 須磨朱里*1, 安藤純実*1, 寺地つね子*2, 水谷 哲*2, 八幡陽子*1 (*1 大阪警察病院 皮膚科 *2 同感染制御センター)：高 IgE 症候群を疑った Panton-Valentine leukocidin (PVL) 産生市中感染型 MRSA による多発膿瘍・敗血症の1例 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会 名古屋市 (2013.11.2-3)
3. 安藤純実, 須磨朱里, 八幡陽子：腫瘍型筋サルコイドーシスの1例 第440回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪市 (2013.12.7)

市立池田病院

[論文著書]

和文論文

1. 水野麻衣, 小泉佳奈, 角村由紀子, 吉良正浩, 大畠千佳：テルビナфин内服と外用を治療に要した Microsporum canis によるケルスス禿瘡の1例. 皮膚の科学 2013;12(2):109-12
2. 早石佳奈, 角村由紀子, 水野麻衣, 吉良正浩, 大畠千佳：骨髓異形性症候群に合併した neutrophilic panniculitis の1例. 皮膚の科学 2013;12(4):280-4
3. 吉良正浩, 丸山彩乃, 早石佳奈, 水野麻衣：タクロリムス軟膏が奏功した形質細胞性口唇炎の1例. 臨床皮膚科 2013;67(9):667-70

[学会発表]

1. 小泉佳奈, 丸山彩乃, 水野麻衣, 吉良正浩：胸骨柄の腫脹が診断の契機となった SAPHO 症候群の1例. 第435回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.2.9)
2. 水野麻衣, 小泉佳奈, 丸山彩乃, 吉良正浩：消化管潰瘍を伴ったアナフィラクトイド紫斑の1例. 第437回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.5.18)
3. 丸山彩乃, 小泉佳奈, 水野麻衣, 吉良正浩：胃癌切除後の創部 MRSA 感染症に続発したアナフィラクトイド紫斑の1例. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜市 (2013.6.14-6.16)
4. 亀井利沙, 小泉佳奈, 丸山彩乃, 水野麻衣, 吉良正浩：アロプリノールによる DIHS が疑われた1例.

第 106 回近畿皮膚科集談会、大阪市 (2013.7.21)

5. 丸山彩乃, 亀井利沙, 水野麻衣, 吉良正浩: 左半身のみに限局した Acanthosis Nigricans の 1 例. 第 64 回中部支部学術大会, 名古屋市 (2013.11.2-3)
6. 亀井利沙, 丸山彩乃, 水野麻衣, 吉良正浩: 紅皮症に対しナローバンド UVB 治療中に生じた落葉状天疱瘡の 1 例. 第 440 回大阪地方会 大阪市 (2013.12.7)

[講演・その他]

1. 丸山彩乃: 酢酸リュープロレリン皮下注射により生じた皮膚潰瘍の 1 例. 第 19 回ギンナン皮膚科談話会 大阪市 (2013.12.21)

市立吹田市民病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

市立豊中病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 加藤健一, 早石祥子, 倉知貴志郎: Kyrle 病の 1 例 第 436 会皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.3.23)
2. 横見明典, 加藤健一, 早石佳奈, 早石祥子, 倉知貴志郎: 遅発転移をきたした悪性黒色腫の 1 例. 第 29 回皮膚悪性腫瘍学会, 甲府市 (2013.8.8-10)
3. 土井知江, 早石佳奈, 早石祥子, 横見明典; 乳児の肥満細胞症の 1 例 第 440 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪 (2013.12.7)

[講演・その他] 0

地方独立行政法人 市立堺病院

[論文著書]

英文論文

1. **Miura H**, to Y, Matsuda T, Kitaba S: Negative pressure wound therapy with multiple drainage holes for the treatment of pressure ulcer with undermining: CaseReports. Journal of Cosmetics, Dermatological Science and Applications. 2013;3:107-9.

[学会発表]

国際学会

1. Miura H, Ito Y, Kitaba S: Negative pressure wound therapy with multiple drainage holes for the treatment of pressure ulcer with undermining. 9th Asian Dermatological congress, Hong Kong (2013.7.11-13)
2. Miura H: Anogenital granulomatosis and cutaneous Crohn's disease. 12th World Congress of Pediatric Dermatology, Madrid (2013.9.24-27)

国内学会

1. 三浦宏之, 伊藤由実子: ポケット部にドレナージ穴を施した陰圧吸引療法による難治性褥瘡の治療. 第 15 回日本褥瘡学会学術集会, 神戸市 (2013.7.20)

[講演・その他]

1. 三浦宏之: 病院皮膚科を楽しく続けていくために. 尼崎臨床皮膚科勉強会, 尼崎 (2013.2.7)
2. 三浦宏之: ページェット病再発・手術拒否例のイミキモドによる治療. 第 68 回尼崎伊丹皮膚科医研究会, 伊丹 (2013.2.28)
3. 松田朋子・三浦宏之: 頭部血管肉腫 (78 歳例). 第 68 回尼崎伊丹皮膚科医研究会, 伊丹 (2013.2.28)
4. 三浦宏之: 伊丹, 尼崎地区での病院皮膚科勤務 12 年間の軌跡と奇跡. 伊丹市皮膚科座談会, 伊丹 (2013.5.11)
5. 三浦宏之・白井洋彦: 色素性蕁麻疹の 1 例. 205 回 大阪皮膚科症例検討会, 大阪市 (2013.6.27)
6. 三浦宏之: 外来化学療法センターにおける皮膚科の役割. Osaka Cancer Care Forum, 大阪市 (2013.6.28)
7. 三浦宏之: 有茎性の脂腺癌の 1 例. 第 1 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
8. 三浦宏之: エコーで特異な形状を呈した汗孔腫の 1 例. 第 1 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
9. 白井洋彦: サルコイドーシスの 1 例. 第 1 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.7.29)
10. 藤田裕子, 井関千裕, 藤井千賀, 三浦宏之, 木村豊ら: 外来化学療法センターにおける電話相談の実態調査. 第 12 回関西がんチーム医療研究会, 大阪市 (2013.9.7)
11. 三浦宏之: 少しの観察とちょっとした工夫で得られること～褥瘡治療を中心とした皮膚科の話題. 富田林褥瘡治療セミナー, 富田林市 (2013.10.16)
12. 三浦宏之: ちょっと知っているだけで診察風景が目に浮かぶ外用剤処方顛末記. 川西市薬剤師会研修会, 川西市 (2013.11.16)
13. 三浦宏之: ビブラマイシンによる光線性爪甲剥離症. 第 2 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.11.18)
14. 三浦宏之: SCC を疑った脂漏性角化症. 第 2 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.11.18)
15. 白井洋彦: サワシリソニ奏功により梅毒Ⅱ期疹が疑われた HIV 患者に生じた多発膿疱の 1 例. 第 2 回阪堺皮膚科勉強会, 大阪市 (2013.11.18)
16. 三浦宏之: 独立行政法人市立堺病院の現状と総合医療センターへの改名移転に向けて皮膚科の立ち位置. 第 17 回デルマ・ネットワーク南大阪, 堺市 (2013.11.28)

独立行政法人 国立病院機構大阪医療センター

[論文著書]

英文論文

1. Coelho SG, Zmudzka BZ, Yin L, Miller SA, Yamaguchi Y, **Tadokoro T**, Hearing VJ, Beer JZ: Non-invasive diffuse reflectance measurements of cutaneous melanin content can predict human sensitivity to ultraviolet radiation. Exp Dermatol. 2013;22(4):266-71.

和文論文

1. 小澤健太郎：カポジ肉腫の皮膚所見。「AIDSに合併するカポジ肉腫等のHHV-8関連疾患における診断と治療の手引き」平成24年度厚生労働省 エイズ対策研究事業「エイズ患者におけるカポジ肉腫関連ヘルペスウイルスが原因となる疾患の発生機構の開明と予防および治療法に関する研究」班編集2013;31-6
2. 東 祥子, 永松麻紀, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣：尋常性天疱瘡から落葉状天疱瘡への移行例. 皮膚の科学 2013;12(2):83-6
3. 池田 彩, 宮本麻美, 永松麻紀, 小澤健太郎, 田所丈嗣：萎縮性皮膚線維腫の1例. 皮膚の科学 2013;12(3):207-10
4. 池田 彩, 大島衣里子, 宮本麻美, 永松麻紀, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 詫間智英子, 玄富翰：老人性血管腫の皮膚生検が診断に有用であった血管内大型B細胞リンパ腫の1例. 臨床皮膚科 2013;67(10):792-6

和文著書

1. 田所丈嗣：扁平母斑. 皮膚科臨床アセット15 母斑と母斑症：吉江増隆編, 中山書店, 東京 2013;71-5
2. 田所丈嗣：基底細胞上皮腫. 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス－鑑別と治療のポイント：横関博雄, 片山一朗編, 医薬ジャーナル, 東京 2013;181-86

[学会発表]

1. 永松麻紀, 東祥子, 池田彩, 野口史人, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 猿喰浩子：陰茎に発生した悪性黒色腫の1例. 第436回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.3.23)
2. 永松麻紀, 宮本麻美, 池田 彩, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 久志本東：脂腺母斑を母地として多様な続発性腫瘍が認められた1例. 第112回日本皮膚科学会総会, 横浜市 (2013.6.14-16)
3. 宮崎明子, 宮本麻美, 永松麻紀, 池田 彩, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 池田弘和：単クローニ性免疫グロブリン血症を伴ったびまん性扁平黄色腫の1例. 第106回近畿皮膚科集談会, 大阪市 (2013.7.21)
4. 宮本麻美, 永松麻紀, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 川津智是：爪甲下に生じたsuperficial acral fibromyxomaの1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋市 (2013.11.2)
5. 宮本麻美, 永松麻紀, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 高安 進：難治性の陰部皮膚潰瘍からHIV感染症が判明した1例. 第440回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.12.7)

[講演・その他]

1. 小澤健太郎：関連疾患のご紹介患者さんの経過報告. 大阪中央皮膚疾患フォーラム, 大阪市 (2013.4.18)
2. 田所丈嗣：皮膚がんについて. 第43回おおさか健康セミナー, 大阪市 (2013.7.20)
3. 小澤健太郎：薬疹について. 第43回おおさか健康セミナー, 大阪市 (2013.7.20)
4. 永松麻紀：下肢静脈瘤について. 第43回おおさか健康セミナー, 大阪市 (2013.7.20)
5. 田所丈嗣：メラノーマについて. 読売テレビ「情報ライブ ミヤネ屋」, 大阪市 (2013.7.24)
6. 小澤健太郎：関連疾患のご紹介患者さんの経過報告. 大阪中央皮膚疾患フォーラム, 大阪市 (2013.10.24)

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他]

【講演】

1. 土居敏明：アービタックス + 放射線療法による皮膚症状とその対処法. 大阪労災病院がんセミナー 堺 (2013.4.23)
2. 土居敏明：アービタックスの皮膚症状の management. 大阪頭頸部がん治療勉強会 大阪 (2013.11.30)

【座長】

1. 土居敏明：大磯直毅（近畿大学）：テラビックと皮膚障害－ウイルス陰性化をめざして－. 南大阪皮膚疾患フォーラム, 大阪 (2013.7.18)
2. 土居敏明：今福信一（福岡大学）：ヘルペスウイルス感染症の病態と治療. 堺市皮膚科学術講演会, 堺 (2013.9.7)

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院

[論文著書]

和文論文

1. 福山國太郎：アダパレン外用が著効した老人性面皰 皮膚病診療 2013;35(3);259-62
2. 大塩絢子, 福山國太郎：Cladosporium spp. による左 I 趾爪甲色素線条 皮膚病診療 2013;35(11);1053-6

和文著書

3. 福山國太郎：老人性血管腫, 陰囊被角血管腫, 老人性紫斑 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス 医薬ジャーナル社 2013, 111-4
4. 福山國太郎：創傷被覆材 高齢者によくみられる皮膚疾患アトラス 医薬ジャーナル社 2013, 236-41

[学会発表]

1. 花岡佑真, 異 一啓, 山中隆嗣, 福山國太郎：増殖性タール皮膚症の 1 例. 第 65 回日本皮膚科学会

西部支部学術大会, 鹿児島 (2013.11.10)

2. 花岡佑真, 松井佐紀, 福山國太郎: 両下肢に結節性紅斑様皮疹が目立ったSweet病の1例. 第440回大阪地方会, 大阪 (2013.12.7)

[講演・その他] 0

東大阪市立総合病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 園山悦子, 渡邊愛子, 猿喰浩子: 診断までに50年を要した尋常性老僧の1例. 第439回日本皮膚学会大阪地方会, 大阪市 (2013.10.13)
2. 渡邊愛子, 園山悦子, 猿喰浩子: 下肢腫脹を契機に受診したMerkel細胞癌の1例. 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋市 (2013.11.2-3)

[講演・その他] 0

箕面市立病院

[論文著書]

和文論文

1. 井下哉恵, 片山利恵, 松本千穂, 三宅泰裕: パニツムマブによるざ瘡様皮疹が多発潰瘍化した1例. 臨床皮膚科 2013;67:21-25

[学会発表]

1. 角村由紀子, 崎元和子, 松本千穂: 肺膿瘍を伴った壞疽性膿皮症の1例. 第439回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.10.12)
2. 橋本典子, 角村由紀子, 崎元和子, 松本千穂: Acquired lymphangiomaの1例. 第435回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪市 (2013.2.9)
3. 松本千穂, 角村由紀子, 崎元和子: 特異な皮疹を呈した疥癬の1例. 第135回豊中市医師会皮膚科医会定例会, 吹田市 (2013.7.6)

[講演・その他]

1. 松本千穂: 糖尿病足病変について -当院のフットケア外来での取り組みを含め-. 第35回北大阪臨床糖尿病集談会, 大阪 (2013.3.30)

八尾市立病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

大阪大学皮膚科学教室年報

2013

発 行：大阪大学医学部皮膚科学教室

印 刷：山代印刷株式会社

表 紙：「チベットの山岳」

山頭火の有名な短歌に「分け入っても分け入って
も青い山」がある。この写真は大阪大学着任時
チベットにアトピー性皮膚炎の健診を行った時に飛
行機から撮ったヒマラヤの写真である。アトピー性
皮膚炎の病態は一つ山を越えるとさらに高い山が
前に立ちふさがる。一度神になり天空から眺めると、
アトピー性皮膚炎が俯瞰できるかもしれない。

平成26年7月